

博士学位請求論文

幼児の幼稚園適応における親の関わり
に関する研究

— 中国山東省の例を中心に —

陳 俊

広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

2024年3月

博士学位請求論文

幼児の幼稚園適応における親の関わりに関する研究

—中国山東省の例を中心に—

陳 俊

(D185412)

広島大学大学院教育学研究科

2024年3月

目次

| | |
|--------------------------------------|-----------|
| 序章 問題の所在と研究目的 | 6 |
| 1. 研究背景..... | 6 |
| 1.1 幼児の幼児園適応の重要性..... | 6 |
| 1.2 幼児の教育に対する親の関わり的重要性..... | 7 |
| 1.3 幼児の教育に対する親の関わりと幼児の幼児園適応との関係..... | 8 |
| 1.4 中国における家庭教育政策の動向..... | 9 |
| 1.5 中国における親の関わりに関する幼児園教育実践上の問題点..... | 10 |
| 2. 研究目的..... | 11 |
| 3. 中国山東省を例にする..... | 13 |
| | |
| 第1章 先行研究と理論的アプローチ | 15 |
| 1. 先行研究の検討..... | 15 |
| 1.1 幼児の教育に対する親の関与に関する先行研究..... | 15 |
| 1.2 親子関係に関する先行研究..... | 16 |
| 1.3 幼児の幼児園適応に関する先行研究..... | 17 |
| 1.4 先行研究の限界性..... | 18 |
| 2. 理論的アプローチ..... | 19 |
| 3. 概念の定義..... | 21 |
| | |
| 第2章 研究方法 | 23 |
| 1. 研究方法..... | 23 |
| 2. 倫理的配慮..... | 24 |
| 3. 調査方法..... | 24 |
| 3.1 調査内容..... | 24 |
| 3.2 調査の手順..... | 25 |
| 4. 分析方法..... | 27 |
| 4.1 アンケート調査の分析方法..... | 27 |
| 4.2 インタビュー調査の分析方法..... | 27 |

| | |
|---|-----------|
| 第3章 調査の準備と調査対象 | 29 |
| 1. 予備調査..... | 29 |
| 1.1 アンケートの予備調査..... | 29 |
| 1.2 インタビューの予備調査..... | 30 |
| 2. アンケート調査のスケールの信頼性に関する分析..... | 30 |
| 3. アンケート調査の質問項目に関する分析..... | 31 |
| 4. アンケート調査の統計検定..... | 35 |
| 5. インタビュー調査の信頼性に関する分析..... | 36 |
| 6. 調査対象..... | 36 |
| 6.1 アンケート調査の対象..... | 36 |
| 6.2 インタビュー調査の対象..... | 39 |
| | |
| 第4章 中国における幼児の教育に対する親の関与の現状 | 41 |
| 1. 調査結果..... | 41 |
| 1.1 記述的統計による分析結果..... | 41 |
| 1.2 差異検定による分析結果..... | 42 |
| 2. 調査結果の考察..... | 46 |
| 2.1 中国における幼児の教育に対する親の関与の傾向と課題..... | 46 |
| 2.2 中国の幼児の教育に対する親の関与における差異と課題..... | 47 |
| 3. まとめ..... | 49 |
| 3.1 結果の要約..... | 49 |
| 3.2 考察の要約..... | 49 |
| | |
| 第5章 中国における親子関係の現状 | 51 |
| 1. 調査結果..... | 51 |
| 1.1 記述的統計による分析結果..... | 51 |
| 1.2 差異検定による分析結果..... | 52 |
| 2. 調査結果の考察..... | 55 |
| 2.1 中国における親子関係の傾向と課題..... | 55 |
| 2.2 中国の親子関係における差異と課題..... | 56 |
| 3. まとめ..... | 58 |
| 3.1 結果の要約..... | 58 |
| 3.2 考察の要約..... | 58 |

| | |
|--|-----------|
| 第6章 中国における幼児の幼児園適応の現状 | 60 |
| 1. 調査結果..... | 60 |
| 1.1 記述的統計による分析結果..... | 60 |
| 1.2 差異検定による分析結果..... | 61 |
| 2. 調査結果の考察..... | 65 |
| 2.1 中国における幼児の幼児園適応の傾向と課題..... | 65 |
| 2.2 中国の幼児の幼児園適応における差異と課題..... | 65 |
| 3. まとめ..... | 68 |
| 3.1 結果の要約..... | 68 |
| 3.2 考察の要約..... | 68 |
| | |
| 第7章 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係 と幼児の幼児園適応の関係 | 70 |
| 1. 調査結果..... | 70 |
| 1.1 相関分析による調査結果..... | 70 |
| 1.2 回帰分析による調査結果..... | 73 |
| 1.3 媒介分析による調査結果..... | 75 |
| 2. 調査結果の考察..... | 76 |
| 3. まとめ..... | 78 |
| 3.1 結果の要約..... | 78 |
| 3.2 考察の要約..... | 78 |
| | |
| 第8章 中国における親の関わりと幼児の幼児園適応の再検討 | 80 |
| 1. 調査結果..... | 80 |
| 1.1 中国における親を対象とする調査結果..... | 80 |
| 1.2 中国における幼児を対象とする調査結果..... | 82 |
| 2. 調査結果の考察..... | 84 |
| 2.1 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関 係性に関する親の認識..... | 84 |
| 2.2 中国における幼児の教育に対する親の関与の動機と関心..... | 86 |
| 2.3 中国における幼児の教育に対する親の関与の課題..... | 87 |
| 3. まとめ..... | 89 |

| | |
|--------------------------|-----|
| 終章 結論と今後の課題 | 91 |
| 1. 本研究の結論..... | 91 |
| 2. 本研究の実践上の示唆..... | 91 |
| 3. 本研究の限界性と今後の課題..... | 92 |
| | |
| 引用参考文献 | |
| 中国語文献..... | 94 |
| 英語文献..... | 99 |
| 日本語文献..... | 104 |
| | |
| 付録 1 | |
| アンケート調査の内容..... | 105 |
| 付録 2 | |
| インタビュー調査の主要内容..... | 111 |

序章 問題の所在と研究目的

本章では、中国における幼児に対する親の関わりと幼児の幼児園適応に関する本研究の背景について検討する。主に、幼児の幼児園適応の重要性、幼児に対する親の関わり的重要性、幼児に対する親の関わりと幼児の幼児園適応の関係、中国における家庭教育政策の動向及び中国における幼児園教育の実践上の問題点の面から、その背景を明らかにしながら、本研究の目的と必要性について考察する。

1. 研究背景

1.1 幼児の幼児園適応の重要性

学校教育における幼児教育の段階は、幼児の発達にとって極めて重要な時期であり、この時期の幼児の認知的、言語的、社会的などの能力が速く成長し、今後の学業や職業の達成に重大な影響を与えていると言われている (Moore ら, 2014 ; McFarland ら, 2018)。この時期の幼児の特徴を理解することを通して、彼らの学校・幼児園生活及び家庭生活における困難と挑戦を意識し、幼児の認知的・社会的能力を適切に促進できる活動や教材を提供したり、保育者や親など身近の大人から適切な支援を受けたりすることが重要であると考えられる。

一方、幼児期の経験、遭遇、特に適応の状況は、彼らの今後の性格形成にも大きな影響を与えていることが多くの研究によって明らかとなった (Piaget, 2003 ; Mahn, 2003 ; Kohlberg ら, 1984)。幼児期において優れた適応能力を持つことは、将来の健全な成長と発達の基盤を築く上で極めて重要な要素となる (Zhao, 2017)。また、それは幼児期の生活の質を向上させるだけでなく、自己肯定感を持ちながら積極的に行動し、将来の様々な環境に適応できる能力の基礎となると考えられている (Manigo&Allison, 2017)。

中国では、幼児園は学校教育の「入り口」として重要な機会と認識されている。幼児にとっても、家庭の中の生活から幼児園への入園は、大きな変化が強いられ、入園を機に比較的自由な生活から、規律正しい生活への移行、新しい人間関係の構築など、幼児が直面する課題が多くあることが知られている (陈, 2023 ; Bronfenbrenner, 1979; Ladd&Price, 1987)。このような移行を控え、幼児がスムーズに幼児園に適応できるようになるために、適切な支援の必要性が議論されている (Reker&Wong, 2013; Maccari ら, 2014)。

中国の公的幼児教育政策である『3-6歳の幼児の学習と発達指針』には「健康領域」の目標として、「3-4歳の幼児が大人の支援と指導のもとで集団生活に比較的早期に適応できる

ようになること」、「4-5歳の幼児が人間関係の変化に比較的早期に適応できるようになること」、「5-6歳の幼児が新しい人間関係の環境に比較的早期に溶け込むこと」と明記されている（中国教育部、2012年）。

幼稚園にスムーズに適応することは、幼児が集団活動に積極的に参加し、基本的な知識を学ぶ基礎となるだけでなく、言語、運動、情緒・感情、習慣などの能力を発達させることにも大きな影響を与えている（Blair&Raver、2015；陈、2021；郭と佐、2017）。このように、幼児の幼稚園適応が様々な点で重要視されている。

1.2 幼児の教育に対する親の関わりの重要性

家庭は、幼児にとって、学びと生活のもう一つ重要な場所であり、よく「最初の教室」と言われている。幼児の「最初の教師」として、幼児の発育・発達において親の存在は大きく、幼稚園における教育と同等な役割を果たしている（Breinerrら、2016）。

幼児の教育に対する親の関与（以下「親の関与」と略して称する場合がある）の視点から見ると、親の関与は幼児の教育プロセスと結果にとって非常に重要であり、親の適切な指導と支援は子どもの学校や生活における発育・発達と緊密な関係を持っていると言われている（Anderson&Minke、2007；Henderson&Mapp、2002；Kong&Yasmin、2022）。

親子関係の視点から見ると、親と幼児の間における一貫性のある積極的な関係は、幼児の将来の成功の基盤となっており、その関係を通して、幼児は「アイデンティティ、社会的能力、道徳性、情緒的成長と調整能力、認知的能力」などを含む様々な面における発達を果たしていくとされている（Archerら、2012）。

つまり、親の要因は、幼児の発育・発達にとって、極めて大きな要素であると言われており、様々な研究がなされてきた（Fielding、2009；康と姫、2021）。

また、儒教思想によって深い影響を受けた中国の文化背景においては、親という役割は特に重要視されており、親は子どもの教育の責任者だけでなく、家族の文化の継承と伝承の重要な役割を果たさなければならない（李と朱、2017）。伝統的な中国文化は、親の子どもに対する模範的な役割を強調し、家庭教育の重点も子どもの道徳的規範の形成に位置されていた（朱、2021）。

しかし、中国における近年の社会的変遷によって、親の子どもに対する価値観は次第に「功利主義的」になってきており、子どもの学業や認知的能力だけに偏っていること、専制型の教育方法を利用して子どもの個性に対する尊重が不足していることなどが問題視されている（朱と張、2021）。

以上のように、幼児の発達にとって、親は大きな役割を果たしている一方、中国の親は家庭教育に関して、共通の課題を抱えている背景においては、親の関わりの視点から研究を行うことが必要であると考えられる。

1.3 幼児の教育に対する親の関わりと幼児の幼稚園適応との関係

親と家庭教育の状況は幼児の幼稚園適応とも密に関連していることが多くの研究によって検証され、特に家庭の環境と親の育児スタイルからの影響が多く言及されている (Erel& Kissil、2003 ; Grych&Fincham、1990)。

例えば、家庭の環境に関して、親の夫婦関係が幼児の幼稚園適応に影響を与え、衝突的な夫婦関係が幼児の幼稚園適応にマイナスの影響を及ぼしていると言われている。一方、親の育児スタイルは幼児の幼稚園適応と関連しており、権威的 (Authoritative) な育児スタイルは社会的適応に正の影響を与えていると言われている (Baumrind、1991 ; Agbaria&M ahamid、2023 ; 張、2021)。

同時に、家庭と学校・幼稚園間の提携も非常に重要である。例えば、「両親と職員同士が定期的に情報交換を行い、子どもの社会性の発達、日常のルーティン、発達と学習に対する一貫性のあるアプローチをとることにより、環境が変わっても子どもが継続して経験を積むことができるようになる」というような重要性があげられる (星ら、訳、2011 ; 大豆生田啓友、2016)。

一方、中国においては、親は幼児の教育に大きな期待を寄せることが知られており (Strom ら、1996)、集団生活の初期段階で「スタートラインで負けてはいけない」という信念を堅持していると言われている (張と李、2013; 張、2014)。

しかし、多くの親は教育を過度に保育者に期待し、親の役割について認識不足の親はまだ多い。幼児の教育における家庭と学校・幼稚園の提携は、「海外の概念」に過ぎないと考える者も少なくない (黄、2022)。つまり、中国においては、家庭教育と幼稚園教育の相互的關係について、親の理解は十分ではないと言える。これを一層鮮明にしたのは、2019年12月に起きた新型コロナウイルスの流行である。コロナ禍は中国の教育・保育環境の全体に大きな影響を与え、多くの幼児と親が数多い困難とストレスに直面した。その中で、親子関係におけるトラブル、親が幼児の学びに関わる際の無力感 (Jun ら 2021) などが顕著になったと報告されている。

要するに、親の関わりと幼児の幼稚園適応との関係は、幼児の発達、成長に対して重要な役割を果たしている。それに、中国は過去数十年で巨大な社会経済的変革を経験しており、これは家族の構造や価値観だけでなく、親の教育に対する見方や期待にも影響を与えている。そのため、中国の社会的、文化的背景に基づいて、より適切で効果的な教育政策の策定と教育実践のために、親の関わりと幼児の幼児適応の関係に関する研究を行うことは大きな意義があると考えられる。

1.4 中国における家庭教育政策の動向

近年、中国政府と該当する教育機関は家庭教育を積極的に推進しており、政府、学校、家庭、社会が共同的に家庭の育児に支援・参加することに政策の重点を置いている。

例えば、2015年10月、中国教育部（中国における教育を管轄する最高行政機関）は「家庭教育の強化に関する指導意見」を公表し、家庭教育における親の主体的な責任を明確に示した。

2016年、当時の国家主席が「全国文明家庭代表」との会談において、親は子どもの教育における重要な義務を果たさなければならないという立場を明確に言及した。特に、家庭における親は、子どもの発達と成長において顕著な影響を与えており、親の言動は子どもの人生に大きな影響を与えると強調していた（刁、2020）。

2018年9月、中国において、「全国教育大会」が主催され、教育事業の発展を促進するために、家庭、学校、政府、社会が共同で責任を持たなければならない、「家庭は人生の最初の学校であり、親は子どもの最初の教育者である」と再度に強調した（人民日报、2018）。

2019年1月、当時の中国教育部長は、家庭教育を基本的な「公共的サービスシステム」に組み込むために、特別資金の確保、保護者委員会及び保護者学校の普及、家庭教育支援サービスの整備などの政策を通して、政府、家庭、学校、社会が連携して家庭教育の基盤を築くことを提案した（中国教育部、2019）。

2021年6月、中国教育部は「家庭教育と家族伝統文化の建設と強化に関する実施意見」を公表した。その中において、家族の伝統文化に基づき、家庭教育を行う際の基本的なアプローチを確立しようと強調した（中国教育部、2021）。

同年10月、第13回全国人民代表大会（中国における最高立法機関）は「中華人民共和国家庭教育推進法」を頒布した。この法律において、親やその他の保護者が子どもの教育の第一義務者であり、未成年者に対して適切な家庭教育を施す責任を持っており、さらに適切な思想、方法、行動によって未成年者を教育し、健康的かつ相応しい思想、行動、習慣を形成させることを法律化した。また、この法律は親やその他の保護者は、家庭教育を行う際に、できるだけ子どもと一緒に過ごす時間を増やし、言語と行動を組み合わせながら、規律と愛情のバランスを大切にし、平等にコミュニケーションし、子どもを尊重する上で、子どもと共に成長することを求めている（中国中央人民政府、2021）。

2022年4月、中国教育部などの国家機関は「家庭教育の推進のための5年計画(2021-2025年)」を公表し、家庭教育に携わる人材を全面的に育成するための計画を明確に確立した（中国教育部、2022）。

本研究の対象地域である山東省では、家庭教育の推進において、2019年山東省教育庁が「山東省中小学（幼稚園）家長学校課程指針」（山東省教育庁、2019）を公布し、親・家庭教育に対する指導を非常に重視していることが見られる。

また、山東省の済南市、日照市、威海市は、多角的な育児環境を積極的に整備し、家庭-幼稚園-学校-社会を統合した教育・育児モデルを構築し（王、2019）、2016年には中国教育部

部によって「全国家庭教育実験区」と位置付けられ、中国全土の家庭教育のモデル地域となった（張、2022）。

上記の中国における家庭教育政策の動向を見れば、幼児の教育における親・家庭の重要性は次第に国家の戦略面において重視されてきていることが読み取れる。そのため、このような中国全国的の教育政策推進の背景において、親の関わりと幼児の幼稚園適応に関する本研究を行うことは現実的な意義があるだろう。

1.5 中国における親の関わりに関する幼稚園教育実践上の問題点

上記によって、親の関わりと幼児の幼稚園適応の重要性に関する背景及び中国における家庭教育政策の推進において、良好的な親子関係を築くことが明示されていることについて検討した。

しかし、中国の教育現場において、幼児の幼稚園適応について検討する際、主に幼稚園の教育環境、教師の関与の方法、親の関与の方法に焦点を当てられて議論されてきており、親子関係について見過ごされがちであると考ええる。

中国における幼稚園の教育現場に対する筆者の観察によって、下記のようなエピソードが例としてあげられる。

教育現場における親子関係と幼児の幼稚園適応に関するエピソード（筆者の「仕事日記」、2019）

年中組の A 幼児（当時 4 歳）は、ある日、急に登園を拒否しはじめ、最近毎日の朝、園の正門のところで大声で泣いたり、母親の足を引っ張ったりし、親も非常に不安になっていたと担任の教師 W さんが私と相談しに来た。

W さんは A 幼児の親と電話や面談の形式で、不登園の問題について何回も話しあったそうであるが、問題は解決できなかった。W さんと A 幼児の親との話し合いの内容について、「正門まで教師が迎えに行く」、「母が叱らないで、少し慰めてあげる」、「一番好きな玩具を持ってくる」、「A 幼児が嫌いな午睡をしばらくさせない」などの教師と親の関与の要素からの仕方がほとんどであった。

W さん、A 幼児の母親と私 3 人で話し合い、A 幼児の母親に対して、最近の家庭における変化についてインタビューし、A 幼児は妹が生まれ、その妹の面倒を見るために、幼稚園の迎えや幼稚園の休みの時の A 幼児の面倒は基本的に祖父母に任せるようになったことが分かった（5 月 28 日）。

上記のエピソードにおいて、親子関係が一時的に疎外になることによって、幼児の不登園問題が起きたことが明らかであった。しかし、教師と親の面談は、親子関係における変化に注目しなく、親の関与と教師の関与の面に集中し、問題をスムーズに解決できなかった。

よって、幼児の教育問題を解決する際、特に幼児の幼稚園適応に関する問題に対して、親子関係の要素を視野に入れるべきである。このような理論的根拠を中国の教育実践に提示することも必要であると考ええる。

2. 研究目的

幼児の発達と成長は、所属する教育機関と家庭という複雑でダイナミックな相互作用システムにおいて行われている。幼稚園と同様に、親の要因もそのシステムの中で大きな役割を果たしており、いわゆる両者の連携が幼児の発育・発達にとって非常に重要である(徐、2019)。

中国においても、幼稚園は、幼児の発育・発達を促進している重要な場所であると同時に、親の養育は幼児の幼稚園における生活と教育にとっても不可欠であり、両者の関係のあり方によって幼児の良好的な発達と適応が図られると言われている(Fielding、2009)。

親の関わりの中では、幼児の教育に対する親の関与と親子関係は非常に重要な要素である。例えば、幼児の教育に対する親の関与の質は、幼児の教育と生活、特に認知力、性格形成、社会的能力の諸方面において大きな役割を果たしており(Black、2010 ; Sheldon、2009)、また親密的な親子関係を築くことも、幼児が良好的な人間関係を持つ基盤となっていることが言われている(Arendら、1979)。

しかし、中国においては、幼児の幼稚園適応に対する親子関係の役割について、十分な認識がまだ形成していないことが幼稚園教育実践上の問題の一つであると考ええる。

そのため、幼児教育への期待が大きい中国では、今後において、幼児の幼稚園適応を促すために、親子関係の要因を視野に入れ、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性を明らかにし、政策に活かすような示唆を提言する必要があると考ええる。

このように、本研究では、中国における幼児の教育に対する親の関与と親子関係を明らかにし、それが幼児の幼稚園適応にどのような影響を与えているのか、及びどのような関係性を持っているのかについて分析することを目的にする。

本研究の目的を達成するために、以下のような仮説をアンケート調査及びインタビュー調査に通じて検証する。

- (1) 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係及び幼児の幼稚園適応が異なっている傾向を表している。
- (2) 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係及び幼児の幼稚園適応が人口

統計学的変数によって影響を及ぼされている。

(3) 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の間に相関関係が存在している。

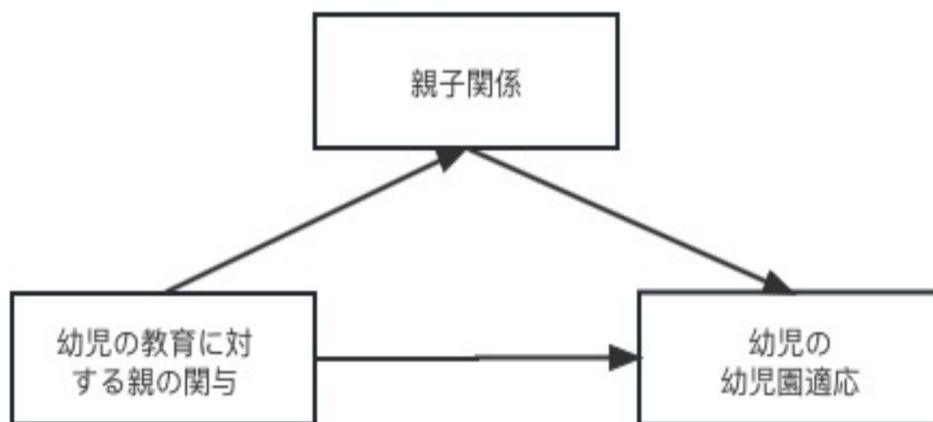
(4) 中国における幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼児園適応に予測的な役割を有している。

(5) 中国における幼児の親子関係が幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼児園適応の間において、媒介作用 (Mediation Effect) を有している。

(6) 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係及び幼児の幼児園適応において、中国の親の特有の動機、原因と問題などが存在している。

本研究の目的及び研究背景に基づき、図1に示すように、本研究では幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性の仮説を検証する。

図1 幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性の仮説 (筆者作成、2023)



本研究は、幼児の幼児園適応における親の関わりの重要性について検討するものであるが、やむをえない事情によって親を失ったり、親と離れたりする幼児も存在していることが現実である。その一部の幼児に対して、親の関わりの不在を他の関与・介入方法で補うことも可能であるが (Aurora ら、2013 ; 薛、2022)、本研究の目的は、親の関与と親子関係が中国における幼児の発達、特に幼児の幼児園適応に及ぼす独特な影響を深く理解することにある。そこで、本研究では、親と幼児の絆が存在している環境を対象にしており、他の補完的方法や介入が親の欠如を克服する可能性を考慮しつつも、これらの方法が親と子

どもの直接的な関わり合いを完全に置き換えるものではないという前提のもとにおいて、本研究の目的を提起した。

3. 中国山東省を例にする

本研究が対象とするのは、中国山東省である。山東省を対象とする主な理由は以下のようなことからである。

第1に、山東省は中華文明の発祥地の一つであり、長い歴史文化を持つ古代から教育が重視されてきた地域である。特に、山東省は、中国の主流の伝統文化である儒教文化の発祥地であるため、今まで儒教文化の伝承を重視してきている地域と言われている（郭、2006）。

今日の中国では、多様な文化的価値観と社会的慣習が存在しているが、儒教文化の価値観は中国社会の人々の価値観を最も代表できるものとされている（钟、2014）。このように、山東省における親と幼児を研究対象とすることによって、文化的代表性の面から言えば、妥当性がより高いと考える。

第2に、2022年、中国の総人口は約1,412,000,000億人であり、その中で山東省は約104,240,000人の人口を抱え、中国の34の省級行政区の中で第2位の人口を有している。山東省と同じような人口規模を抱えている省は、広東省（113,460,000人）、河南省（96,050,000人）、四川省（83,410,000人）、江蘇省（80,510,000人）であり、「人口大省」の1つである山東省を例とすることによって、より中国全国的な教育の展望を把握することが可能となる。

第3に、2022年時点で、中国全国には約299,200所の幼稚園が存在し、そのうち山東省には24,800所の幼稚園があり、全国の34の省級行政区の中で8.29%に相当する。また、全国の幼稚園には約46,275,500万人の幼児が在籍しており、そのうち山東省には約3,887,200万人が在籍している（全国の8.4%）。

つまり、山東省は幼稚園の数量においても中国全体で大きな位置を占めている。山東省を研究の対象とすることによって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、特に幼児の幼稚園適応の全国的傾向を把握する窓口となることが可能となる。

一方、中国社会においては、経済及び社会福祉の発展は、都市部と農村部の間にも、各地域や省にも、大きな格差が存在している（杨、2004）。中国の農村部人口の比率が36.11%（中国国家统计局、2021）である一方、山東省の農村部人口の比率が36.95%（山东省统计局、2021）であり、山東省の人口構造は中国全国の人口構造とおよそ同じである。また、山東省の中でも、医療、教育などの社会福祉の発展において、都市と農村においては格差が存在しており（何と刘、2015）、省内の各地域における経済の発展や学校・幼児教育の普及においても、格差が存在していると言われている（卢と王、2023；许、2023）。しかし、山東省では地域活性のための経済政策が優先し、これまであまりこの格差については議論されてこなかった。山東省では表面化してこなかった親の経済格差はその教育に対す

る考え方や幼稚園適応について大きな影響を与えているものと考える。

このように、中国社会における発展の格差を考慮した上で、同じような格差の問題を抱えている山東省を本研究の対象にすることによって、中国全国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼稚園適応への理解の糸口になり、中国の他の地域にとって参考になるより具体的な方策を得ることもできると考える。

第1章 先行研究と理論的アプローチ

本章では、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応に関する先行研究について検討する。先行研究をレビューすることによって、今までの中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応に関する研究の限界性を明らかにし、本研究の目的を達成するために、理論的アプローチの妥当性と必要性について考察する。

1. 先行研究の検討

1.1 幼児の教育に対する親の関与に関する先行研究

幼児の教育や生活に対する親の関与が、幼児の認知的、性格的、社会的、学力的な諸方面の発達に対して重要な役割を果たしていることは数多くの先行研究によって明らかにされている(Edwards&Alldred, 2000 ; Olayinka&Adekunle, 2018 ; Goodall&Montgomery, 2014 ; NAEYC, 2016)。

幼児の教育に対する親の関与は通常、家庭や学校の環境における親の言語と行動を指し、幼児の教育を支援することを目的としており、親の教育に対する価値観や態度、幼児に対する期待も親の関与によって反映されている(Englundら、2004 ; Honig, 1979)。親の関与を評価する基準は、教師とのコミュニケーションの質や頻度、学校の行事や活動への参加などが含まれることが多くの先行研究において用いられている(Hiladoら、2013 ; Dearingら、2006)。

幼児の教育に対する親の関与に関する研究は数多く行われているように見えるが、親の関与とは何か、効果的な親の関与とは何かなどの課題については、関係者の立場によって様々な意見や異なっている見解も存在している。

例えば、Epsteinは親の関与に関する重要な研究者として、重要な視野を提供した。彼は学校、家庭、そして地域の提携プログラムに焦点を当て、政策と実践の改善、そして生徒の学業成績の向上を目指し、親の関与の質に関する6つの重要な要素を含むフレームワークを構築した(Epstein, 1995, 1996, 2003, 2009)。

この6つの要素は、「育児」、「コミュニケーション」、「ボランティアサービス」、「家庭における学習」、「意思決定」、「地域社会との連携」である。育児とは、親が子どもを幸せ且つ健康的に養育し、そして子どもを有能な幼児・生徒に育てるための全ての活動を指している。コミュニケーションとは、家庭側と学校側が相互の情報交換のことを意味してい

る。ボランティアサービスとは、親が学校のプログラムや幼児・生徒の活動に協力するための組織化された活動を指している。家庭における学習とは、親が子どもの宿題や授業に適切にサポートするために、子どもに対して意見や情報を提供することを指している。意思決定とは、親が学校側の意思決定に関与し、親のリーダーシップを発揮したり育成したりすることを指している。地域社会との連携とは、学校、幼児・生徒、家庭に対して地域社会によるサポートや資源を一体化することを意味している。この6つの要素は、幼児・生徒の学業にも、家庭と学校の雰囲気にも様々な影響を及ぼす可能性があり、学校側は、親がどの要素に基づいて関与するかに注意しながら、家庭との連携を図ることが非常に重要であると Epstein は強調している (Epstein, 2001, 2003, 2009)。

このような Epstein の親の関与に関するフレームワークは、今までの多くの研究に示唆と基準を提供している。

例えば、Lau ら (2012) は、中国の文化背景における親の関与の判断基準を現地化させ、「育児指導」、「親子交流」、「言語と認知的活動」、「学校との意思疎通」、「子どもの家庭学習への参加」、「学校事務への参加」という6つの側面に通じて、小学校・幼児教育段階における親の関与に関するスケールを開発した。また、彼らの研究によると、積極的な親の関与が幼児・生徒の発達、特に学業達成と正の関連性が存在しており、幼児の教育に対する親の関与の程度は幼児・生徒の学業達成に積極的な影響を与えていることが分かった。

そして、家庭の状況 (例えば、親の教育背景、家庭の収入、家族形態、育児自己効力感等)、子ども自身の状況 (例えば、子どもの年齢、性別等)、外部による支援などの要素が幼児の教育に対する親の関与に影響を与えていることも先行研究によって明らかになっている (Bandura ら、1996 ; Jordan ら、2002)。

しかし、それらの研究の多くは一方向的な視点を主としており、幼児の教育に対する親の関与の役割や影響力を総合的に、多角的な視点から探究することが不足しており、中国文化・社会・教育発展の背景に基づいた研究もまだ数少ない。

1.2 親子関係に関する先行研究

一般的に言えば、大多数の幼児は、一日の多くの時間を家庭において過ごしており、親との良好的な関係は、特に幼児の社会的発達 (教師・生徒関係、仲間関係など) の基礎となる (Arend ら、1979 ; 彭、2018)。親子関係は幼児の社会的な問題行為、例えば攻撃的行動、鬱傾向、コミュニケーション上の困難などと顕著に負の相関性が存在しており (刘ら 2021)、かえって親子関係が良好的であればあるほど、幼児の問題行動が少なくなることが発見された (祖ら、2022)。また、良好的な親子関係は、幼児の適応能力と自信形成を促進する効果があり (張、2021)、最終的に幼児の学習成果にも影響を与えていると述べる研究もあげられる (楊、2019)。

親子関係の特徴を判断する基準に関して、親の育児スタイルと態度によって親子関係を分類している先行研究が多く存在している。例えば、Baumrind (1991) は、親の行動を

「コントロール的」と「温情的」の2つの側面から評価し、親の育児スタイルを「権威型」、「専制型」、「放任型」に分類した。中国社会の背景においては、賀（2008）は親の育児の態度によって、親子関係を「専制型」、「溺愛型」、「矛盾型」、「民主型」に分類した。

一方、親だけの視点からではなく、親と子ども両方の立場から、関係性自体に焦点を当てる研究も多くあげられる。例えば、Pianta&Smith(1992)は、親の関与が親からの教育・教養に関する具体的な行動に対し、親子関係を親と子どもとの間の感情的な絆や相互作用であり、いわゆる親と子どもが共有している状態と考え、親子関係について「衝突」と「親密」という2つの側面から評価の基準を確立した。中国の背景に基づきながら、この親密と衝突の側面において親子関係を分類・評価する研究も多く存在している（叶、2002；王と冯、2006；徐ら、2022）。

そして、親子関係に影響を与える要素については、様々な視野から検討する研究が多く存在し、例えば、叶（2017）は、親の育児方法、親の文化的な教養、教育に対する意識、親の職業、夫婦関係、家族形態の6つの側面から、親子関係に影響を与える要因について検討した。さらに幼児の特徴（年齢、性別など）や家庭環境（家庭の年収、家族形態など）は、親子関係に影響を与えていることを明らかにした研究もある（王、2020；王、2021）。

上記の先行研究を踏まえ、親子関係は一つの要素として幼児の発達に影響を与えていると同時に、様々な要素によっても影響を受けている特徴があると言える。

しかし、親子関係が幼児の幼児園適応に与える影響、特に幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼児園適応の間における媒介役割については、中国においてなされた研究はまだ数少ない。

1.3 幼児の幼児園適応に関する先行研究

Britto（2012a, 2012b）は、幼児の学校・幼児園適応には「過渡」（Transition）と「能力取得」（Skill Acquisition）という2つの要素が関わり、これらは幼児が家庭環境から構造化された学習環境（学校教育）への適応過程を促している。日浦（2016）によると、幼児の適応とは、「幼児が園の物理的、人的環境と生活リズムに馴染み、園を自分の居場所として生きいきと主体的に活動している様子」を指す。七木田ら（2010）は、幼児の適応を「園環境における様々な影響の中で幼児自身が能動的に関わっていく過程」としている。石（2017）もまた、学校適応とは、生徒が熱心に学校の各活動に参加し、学業、社会面、感情面においてうまくできる状態とする。

そして、幼児の幼児園適応に影響を与える要素については、家庭、幼児園、社会的環境など、様々な面によって異なる程度の影響を及ぼされている。例えば、家庭の視点から見ると、于（2018）によると、親の関わりが欠けることが幼児の社会的適応に影響を与える可能性がある。謝ら（2004）の研究結果によると、親が幼児に対して暖かい態度を持つことが、幼児の適応の発展をある程度促進する一方、親の厳しい罰、過度的な干渉、溺愛な

どが幼児の社会的適応を妨げることが言及されている。周（2023）の研究においては、親の文化的教養、家庭の育児の方法・スタイル、および幼児の年齢が幼児の社会的適応レベルに影響を与える可能性があると言われている。

また、幼稚園の視点から見ると、范と郭（2021）によると、親が幼稚園の各活動に参加することは、幼児の社会的適応に顕著な影響を与えている。幼稚園の教育方針、遊びの内容、カリキュラムの設定、教師との相互作用などの要素も、幼児の認知的発達、コミュニケーション能力を促進し、幼稚園適応を促進することができると主張する研究もある（陳、2023；丁、2021；王、2015）。

一方、幼児の幼稚園適応に対する評価基準として、今までの多くの研究は小学校適応に集中しており、特に中国における幼児の幼稚園適応に関する適切なものがまだ少ないようである（Xie と Li、2019）。傅（2000）が開発した「幼児の社会的適応能力の評価尺度」は、幼児の一般的な社会的適応能力に焦点を当て、汪ら（1992）が作成した「3-7歳の子どもの社会的適応行動の評価尺度」も、各側面から幼児の社会的適応に焦点を当てており、幼児の全体的な適応状況を反映することができない。

このような現状において、Xie と Li（2019）は、「自己ケアと感情的な成熟」、「認知とコミュニケーション」、「社会的能力」、「学びの志向」「教室のルール」という5つの側面を巡って「中国における幼児の幼稚園適応スケール（CPRS）」を開発し、幼児の幼稚園適応の評価基準をより全面的に確立してきた。

1.4 先行研究の限界性

上記の先行研究に関する検討を踏まえ、中国における先行研究は、以下のような限界性が存在している。

第1に、幼児の幼稚園適応に及ぼす要因は様々考えられるのに、多くの中国の研究においては、特定の要因と幼児の幼稚園適応という一方向の関係についてしか議論されてこなかった（戴、2017；王、2020）。つまり全体のシステムとして総合的な関連性について言及した研究は少ないのが現状である。

第2に、これまでの中国の親子関係と幼児の幼稚園適応について検討する研究では、比較的小規模なサンプルでの調査が実施されていたに過ぎず、親子関係、幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応に関する大規模な研究は皆無であった。

そして第3に、幼児の幼稚園適応の研究においては、主に幼児の幼稚園に入園する際の最初の適応や小学校の入学準備のための適応に焦点が当てられており（邵、2018；顾、2019）、入園してから卒園までの各年齢を対象にする幼稚園適応に関する研究は行われてこなかった。また、研究の多くが、「幼稚園不適応」という問題を解決するための方法の提案や実践についてのものが多く（賈、2022；金、2016；林と高、2020）、調査をもとにした実証的な研究は皆無に等しい。

以上の課題を乗り越えるために、比較的大規模な集団を対象に、幼児の教育に対する親

の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応とのダイナミックな相互作用を総合的に分析し、親子関係と親の関与、幼児の幼稚園適応の状況を把握することが必要になる。

2. 理論的アプローチ

本研究は、家族単位を複雑な社会システムと定義し、家族のメンバー同士が相互的に影響し合い、行動も互いに影響しあうものとする家族システム理論 (Family System Theory ; Bowen、1966、1972 ; Brown、1999) に依拠している。

家族システム理論は、最初、心理学と家族療法の分野から発展してきた理論であり、1950年代に Bowen によって提唱された。いくつかの発展の段階を経て、家族システム理論は家族内のパターンやダイナミクスを理解するための理論的枠組みとして定着し、多くの家族療法士や心理学者及び教育学者によって拡張され、家族関係の研究に広く用いられている。

家族システム理論は、家族のメンバー間の相互関係に注目する理論であり、家族のメンバー間の相互影響と相互作用を強調している (Wang&Cheung、2023; Ni ら、2021)。家族のメンバーは相互に関連しており、一人の行動が他のメンバーに影響を与えると考えられ、家族内の一人の変化も、システム全体に影響を及ぼし、他のメンバーの変化を引き起こす可能性もあるとされている。家族システム理論の枠組みを要約的に表現しているのは、図2のようである。

また、家族システム理論では、家族の相互関係は直線的ではなく循環的であり、各メンバーの行動は前の行動の結果と関係しており、次の行動の前提条件でもある (Soloski&Berryhill、2016)。

本研究では、家族システム理論に依拠し、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応との関係性が、親と幼児という家族間の相互作用によって生じた結果であると仮説した。さらに、親が幼児の生活と学習に関与することによって、新たな親子関係を生み出し、幼児の認知的適応や社会的適応などの適応状況に影響を与えていると考えられる。これは、家族システム理論の家族間の相互関係の主張と一致しており、家族システム理論は本研究に理論的の基盤を提供していると言える。

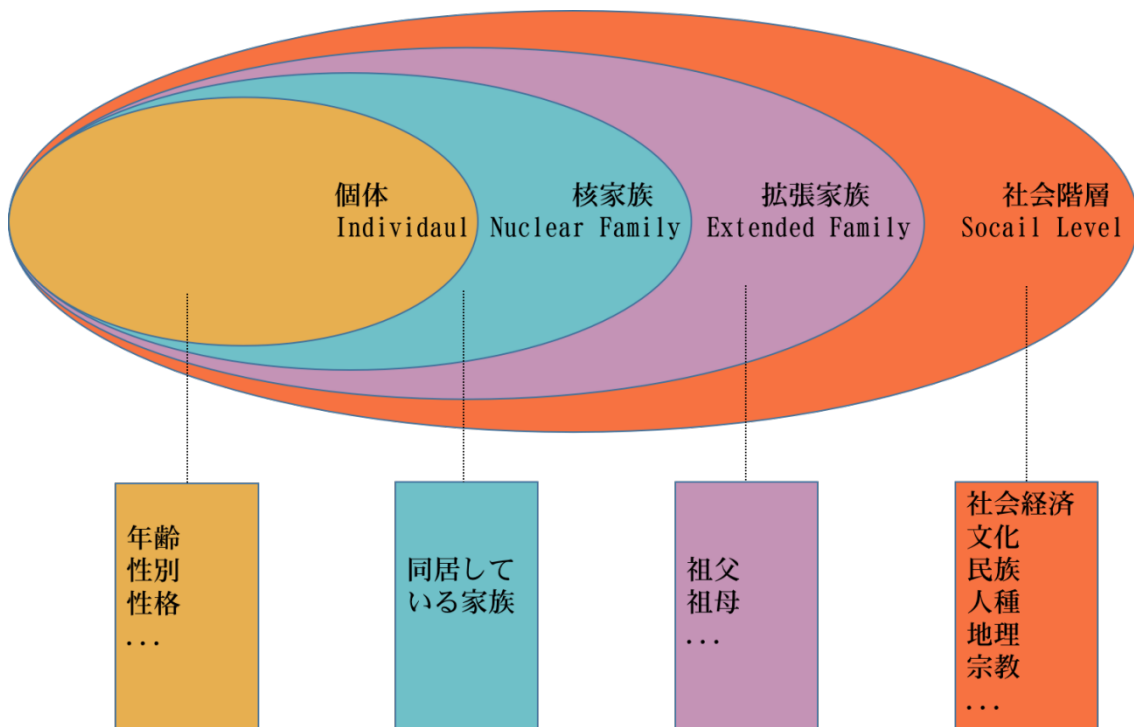
一方、家庭と幼稚園の環境の相互作用という家族システム理論の延長線上から見ると、幼稚園の教育目標は親の関わりによって実現される必要があり、親は幼稚園と緊密に協力し、幼児の発達状況を十分把握することを通して、幼児の教育に関与する方法を改善しながら、幼児の幼稚園適応及び全体的な発達を促進することが期待されている (沈、2022 ; Feinberg、2003)。つまり、家族システム理論によって派生されてきた諸理論では、幼児と家族との相互作用、また幼児が所属する教育施設との相互作用は、幼児の発達と適応に大きな影響を与えることが明らかである (欧阳、2015 ; 周、2022 ; 松浦、2023)。

本研究では、家庭の環境における幼児の教育に対する親の関与が幼児の幼稚園適応に直接的な影響を与える可能性に視点を置くだけでなく、親の関与が親子関係を介して幼児の

幼稚園適応に間接的な影響を及ぼすことを探究することを目的としている。これは、家族システム理論における家族間の系統性と連続性という主張と一致しており、この理論を用いることによって、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の間におけるダイナミックで相互的な関係性を探究することができると思う。

また、本研究は、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応という具体的な関係性について探究することによって、幼児の家庭と幼稚園の間の一貫性を強調する上で、幼児の発育・発達を支援するために、家庭と幼稚園を総合的なシステム上に位置させることに通じて、家族システム理論に基づいた「派生理論」を補充し、家族システム理論の外延をさらに広げることがもできるかもしれない。

図2 家族システム理論の枠組み (Bowen, 1999 ; 筆者翻訳, 2023)



3. 概念の定義

「**幼稚園**」：1996年、当時の中国国家教育委員会は、「幼稚園工作規程」を正式に公布し、同年6月1日に施行し始めた。その中において、幼稚園は3歳以上の就学前の幼児（最近、一部の地域では2-6歳）に対して保育と教育を実施する機関であり、基礎教育の重要な部分であり、学校教育制度の基礎段階であると規定されている。幼稚園は各地の教育当局によって管轄されており、幼児の1日の在園時間は約8-10時間であるため、中国の幼児たちにとって、主要な生活と学習の場所である。

「**幼児の教育に対する親の関与**」：本研究では、「幼児の教育に対する親の関与」を幼児の日常における教養・教育に積極的に参加し、幼児教育機関（幼稚園）との連絡・連携を図る親の行動だと定義する。

そして、親の関与に関する調査は、Lauら（2012）によって開発された「親の関与スケール」を利用し、「育児指導」、「親子交流」、「言語と認知的活動」、「幼稚園との意思疎通」、「幼児の家庭学習への参加」、「幼稚園事務への参加」という6つの側面において調査・分析を行なった。

「**親子関係**」：本研究では、「親子関係」を親と子どもとの間の感情的な絆や相互作用の質であり、いわゆる親と子どもが共有している状態と定義する。

そして、親子関係に関する調査は、PiantaとSmith(1992)によって開発された「親子関係スケール（CPRS）」を利用し、「親密」（Intimacy）と「衝突」（Conflict）という2つの側面において調査・分析を行なった。

「親密」とは、親子が互いに持っている感情的な絆の状況、子どもが親から安心感を得られる度合い、および親が子どものニーズに応じて情緒的なサポートや指導を提供する能力などを指す。

「衝突」とは、親と子どもの間における感情的な摩擦、共感の欠如、互いの行為に対する不理解、親の期待と子どもの現状のズレなどを指す。

「**幼児の幼稚園適応**」：本研究では、中国の公的教育政策である『3-6歳の幼児の学習と発達指針』を踏まえ、幼児の幼稚園適応を幼児が幼稚園という環境において、心身の健康、言語的能力、認知的能力、社会的能力、情緒的安定などの諸方面に適応する状況と定義する。

そして、幼児の幼稚園適応に関する調査は、XieとLi(1992)によって開発された「中国における幼児の幼稚園適応スケール（CPRS）」を利用し、「自己ケアと感情的な成熟」、「認知とコミュニケーション」、「社会的能力」、「学びの志向」「教室のルール」という5つの側面において調査・分析を行なった。

「**公務員**」：中国における公務員制度は、中国特有の政治・社会システムに根ざしており、中国独自の特徴がある。本研究とより関連している特徴として、中国における公務員は一般の職業に比べて安定した雇用を享受し、より多くの社会保障と福利厚生が提供されていることがあげられる。そして、中国における公務員は厳しいシステムによって選抜され、中国の社会では「エリートグループ」として見られている存在である。

「**核家族**」と「**非核家族**」：中国における核家族は、両親とその未婚の子どもから構成される家庭形態を指している。中国の都市部では、核家族が一般的な家庭の形態となっている。このような家族形態では、家族成員の数が少なく、家族の結びつきが強く、子どもに対する教育と投資が集中しやすいという特徴がある。

一方、非核家族は、核家族に加えて、祖父母やその他の親戚が同居、または近い関係にある家庭形態を指している。その他、親が離婚、死別、または独身であることにより、一方の親が子どもを育てている家族の形態も含まれている。

第2章 研究方法

本章では、本研究において利用した研究方法について説明する。本研究の目的を達成するために選ばれた具体的な調査方法、データの収集の方法及び分析方法などを詳しく説明し、特に本研究において利用した混合的研究法について、その本研究にとっての必要性について検討する。

1. 研究方法

本研究は量的研究と質的研究の方法を組み合わせた混合的研究法 (Mixed-Methods Design) という研究方法を用いた。

このような方法を利用することを通じて、研究問題の量的特徴とその背後における質的現象に同時に焦点を当てることが可能であるため、より全面的な研究結果にたどり着くことができる (Creswell, 2009 ; Johnson&Onwuegbuzie, 2004)。

本研究では、まず、量的研究の方法を利用し、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼児園適応について調査を行った。しかし、量的調査の結果によって、全体的な傾向を把握することはできるが、その結果が実態を正しく表しているかどうかは、質的研究の方法で検証する必要がある。つまり、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼児園適応に関する全体的な傾向が、親と幼児の個別のケースと一致しているかどうかについて検証するために、混合的研究法を利用する必要があると考える。

また、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の背後における親の動機、問題及び親子と共に直面している課題などは、量的研究で把握することが難しい。このような点について探究するために、量的研究と質的研究の両方の方法を組み合わせながら、より全面的に検討する必要があるだろう。具体的には、混合的研究方によって、以下のような点を明らかにする。

第1に、量的研究により、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼児園適応の現状と特徴の傾向を明らかにする。

第2に、量的研究により、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性を明らかにする。

第3に、質的研究により、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係における親の動機及び問題点を明らかにする。

要するに、本研究は量的研究を主要なアプローチとしながら、幼児の教育に対する親の

関与、親子関係と幼児の幼稚園適応に関する統計学的な傾向を示していると同時に、質的研究を重要な補足として、量的研究の結果をより豊かなものにしようとして設定している。このように、本研究は混合的研究法に適していると言えよう。

2. 倫理的配慮

本研究では、研究の倫理を厳格に守りながら、各調査を実施した。調査対象者のプライバシーを尊重するために、全ての調査は匿名形式で行われ、あるいは情報を回収する際に匿名手続きを行い、参加者の身元情報は一切本研究の結果に反映されないように守秘義務を尽くした。

また、調査を実施する前に、幼稚園の園長、幼児の保護者、幼児のクラスの教師からの明確な同意を取得し、研究目的、内容、利益について説明した。対象者は調査に参加している間において、いつでも無条件で本調査を中止する権利があり、参加の自発性を尊重するため、事前にその旨を明確に参加者に伝えた。

調査の終了後においても、参加者は情報を撤回する権利を持っており、参加者の自由意志を徹底的に尊重していた。

データに対して、セキュリティの確保できる環境下において厳格に管理し、調査終了後、適切な方法で処分し、調査の倫理的慣行を履行した。

3. 調査方法

3.1 調査内容

本研究におけるアンケート調査の内容に関しては、アンケートは3つの部分から構成されており、第1部は幼児とその家族の基本情報に関する内容であり、第2部は「親の関与スケール」、「親子関係スケール」であり、第3部は「幼児の幼稚園適応スケール」である。各スケールの主な内容は以下の通りである。

(1) 基本的情報の部分では、アンケートに回答する親の役割（父親或いは母親）、幼児の年齢、性別、幼稚園の種類（公立或いは私立）、親の教育背景、親の職業、家庭の年間収入、家族形態、居住地、家庭内の子ども数が含まれており、二値変数または連続変数として扱われた。

(2) 「親の関与スケール」は、Lauら（2012）の改訂版を採用しており、合計26の質問項目から構成されている。質問項目は6つの側面から構成され、「育児指導」の側面に該当する質問項目番号は5、9、14、15、17、20、21である。「親子交流」の側面に該当する質問項目番号は7、12、13、23、24である。「言語と認知的活動」の側面に該当する質問項目番号は3、4、18、19、22である。「幼稚園との意思疎通」の側面に該当する質問項目番号は8、10、25、26である。「幼児の家庭学習への参加」の側面に該当する質問項目番号は1、2、6である。「幼稚園事務への参加」の側面に該当する質問項目番号は：11、16である。

このスケールは、5点制のリッカートスケールであり、点数が高ければ高いほど、その項目に同意する度合いが高いことを意味している。

(3)「親子関係スケール」は、Piantaら(1992、1996)の中国語訳版を採用しており、合計15の質問項目から構成されている。質問項目は2の側面から構成され、「親密」の側面に該当する質問項目番号は1、3、5、6、7、9、15である。「衝突」の側面に該当する質問項目番号は2、4、8、10、11、12、13、14である。

このスケールは、5点制のリッカートスケールであり、点数が高ければ高いほど、その項目に同意する度合いが高いことを意味している。

(4)「幼児の幼稚園適応スケール」は、XieとLi(2019)の中国語改訂版を採用しており、合計24の質問項目から構成されている。質問項目は5の側面から構成され、「自己ケアと感情的な成熟」の側面に該当する質問項目番号は1-6である。「認知とコミュニケーション」の側面に該当する質問項目の番号は7-11である。「社会的能力」の側面に該当する質問項目の番号は12-15である。「学びの志向」の側面に該当する質問項目の番号は16-19である。「教室のルール」の側面に該当する質問項目の番号は20-24である。

このスケールは、5点制のリッカートスケールであり、点数が高ければ高いほど、その項目に同意する度合いが高いことを意味している。

また、本研究のインタビュー調査の内容は、半構造的質問となっており、中国における親の関与、親子関係及び幼児の幼稚園適応についてガイドラインを作成した。ガイドラインには、クローズド・エンドの質問項目とオープンエンドの質問項目が含まれている。インタビューを実施する際、このガイドラインにおける質問を聞きながら、より深く対象者の考え方を獲得できるように、即席の質問や談話をしていた。

3.2 調査の手順

本研究のアンケート調査では、幼稚園長の許可を得た上で、2023年6月30日から2023年7月30日まで、中国山東省における幼稚園の幼児の保護者と教師に配布し、回収した。幼児の年齢層は3-6歳であり、3-4歳の幼児は中国の幼稚園における「年少組(小班)」であり、4-5歳の幼児は「年中組(中班)」、5-6歳の幼児は「年長組(大班)」である。

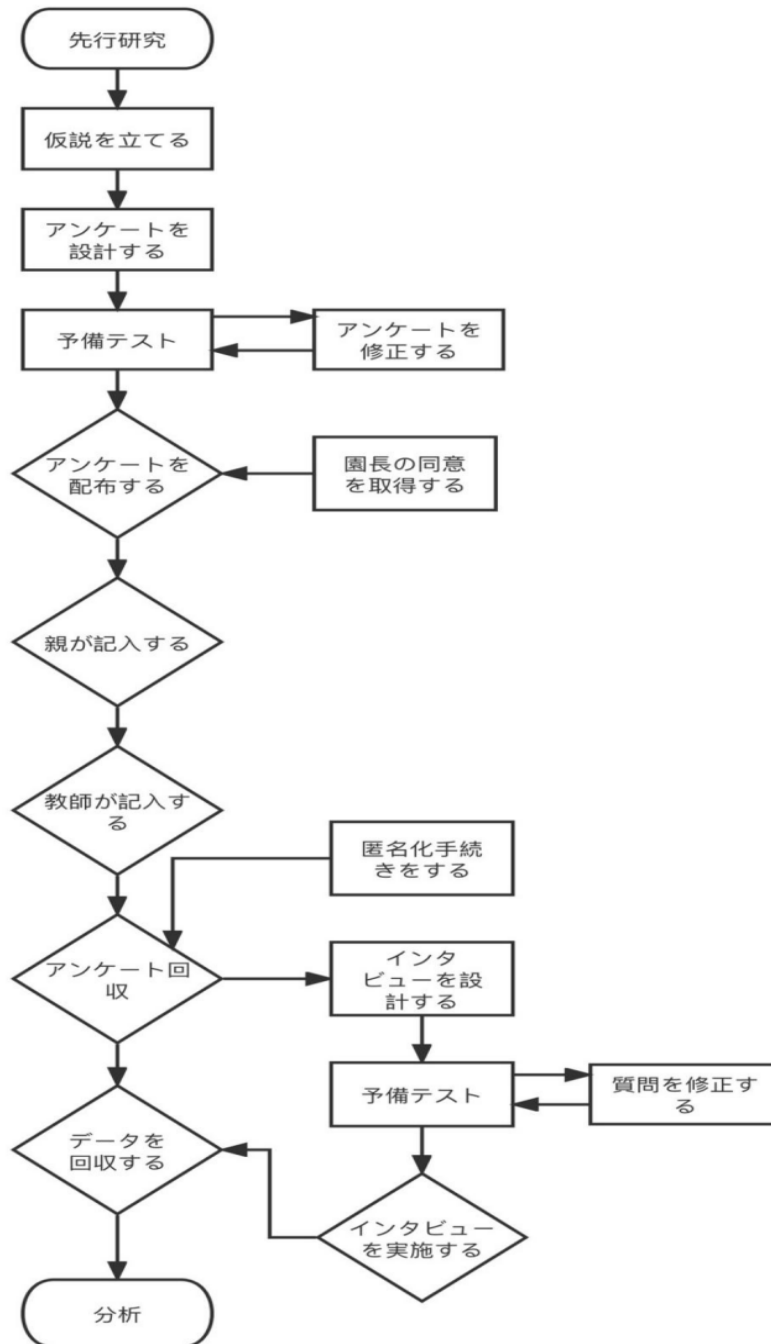
アンケートの内容は、幼児の親が記入する部分とその幼児の教師が記入する部分に分かれており、親は基本情報、幼児の教育に対する親の関与、親子関係の部分を記入し、教師が記入する「幼児の幼稚園適応アンケート」は、保護者が対応する教師に連絡し、彼らの同意を得た上で記入してもらい、匿名化手続きを行った後、最後に全てのアンケートは園長によって回収された。そして、正式な調査を実施する前に、各スケールに基づいてパイロットスタディーを利用し、小規模な予備調査を行った。

一方、本研究のインタビュー調査は、2023年9月1日から2023年9月10日まで実施した。中国山東省におけるS公立幼稚園の園長の許可を得た上で、新学期の保護者会議の機会に調査の協力者を募集した。親と幼児に対して面談式インタビューを行い、全ての内容はレ

コーダーによって録音されていた。

そして、正式な調査を実施する前、パイロットスタディーを利用し、知人とその子どもに向けて小規模な予備調査を行い、調査の質問内容を修正した。アンケート調査とインタビュー調査を合わせながら、本研究の研究手順に関するプロセスは下記の図3のようである。

図3 研究の手順に基づくプロセス（筆者作成、2023）



4. 分析方法

4.1 アンケート調査の分析方法

本研究のアンケート調査における研究データの分析は、SPSS ソフト（26 バージョン）によって行い、具体的な分析方法は以下の通りである。

- (1) Harman の単一因子テスト法を利用し、共通方法のバイアスを検証した。
- (2) 各側面の平均値と標準偏差を計算することにより、記述的統計量を分析し、幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼児園適応の現状の傾向を明らかにした。
- (3) 独立サンプル T 検定と ANOVA 一元配置検定により、人口統計学的変数に関する幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼児園適応の差異の傾向を分析した。
- (4) Pearson 相関分析を利用し、各変数間、つまり幼児の教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼児園適応の相関性の傾向を分析した。
- (5) 線形回帰分析を利用し、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼児園適応に対する総合的な予測効果の傾向を分析した。
- (6) Process v3.5 Bootstrap を利用し、親子関係が幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼児園適応の間に媒介役割を果たしているかどうかを媒介分析 (Mediation Analysis) によって検証した。

4.2 インタビュー調査の分析方法

本研究のインタビュー調査における研究データの分析は、質的研究で広く採用される主題分析 (Thematic Analysis) の方法を利用した。主題分析は、質的研究においてよく利用されるデータ分析の手法であり、自由に述べられた情報を整理し、その中に含まれる主題やパターンに関する重要な情報を識別することを主な目的としている。

主題分析のアプローチによって、研究者は参加者の視点を全面的に理解し、そこから重要な主題を発見することができるという大きなメリットがあると言われている (Braun と Clarke, 2006)。

本研究のインタビュー調査は半構造的質問ならなっており、録音された内容をテキスト化し、その後、テキスト化されたデータから親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応というテーマに関する重要な情報や概念を識別し、その中から中国における親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応に関する情報や概念に関する主題を生成した。

主題の信頼性を確保するために、インタビューの内容をテキスト化した後、それについて、第 1 回目の分析を行い、コードをつけ、主題の概念を生成した。その後、筆者の第 1 回目において概念化した主題に関する印象が薄くなっていくまで時間を置き、第 2 回目の分析を行い、最初からコードをつけ、主題の概念を生成した。

上記のプロセスを経てから、2 回の分析によって生成された主題を比較し、一致性を検証

した¹。

そして、アンケート調査によって得られたデータに関する分析や中国の文化、教育現場の実情に合わせながら、幼児の教育に対する親の関与、親子関係及び幼児の幼児園適応の現状と相互的な関係性について分析した。

上記のプロセスによって、本研究はより包括的な理解を目指し、中国における幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼児園適応に与える影響及びその関係性について新たな視点を提供することを目指している。

¹ 一致した主題の数 / 総主題の数 * 100% (大卫、吴怵译、2022)

第3章 調査の準備と調査対象

本章では、本研究における調査の準備と選定された調査対象について検討する。

具体的には、本研究における調査の信頼性と妥当性を確保するために、先行研究において検証された成熟したスケールを採用する以外、正式の調査を行う前に予備調査を実施し、それによって得られたデータを分析し、その結果について本章において検討する。

そして、本研究におけるデータの分析の前提条件を確保するために、正式の調査において得られたデータに対し、共通方法バイアス検定を行ない、その結果について本章において検討する。

また、正式の調査対象に関する選定基準を説明し、アンケート調査とインタビュー調査における対象者の基本的な情報について説明する。

1. 予備調査

1.1 アンケートの予備調査

本研究におけるアンケート調査の方法と内容の信頼性などの確保するために、正式の調査を実施する前に、予備テストとして中国山東省青島市のM私立幼稚園の幼児を対象に、予備調査を実施した。

今回の予備調査において、合計200部アンケートを配布し、188部が回収され、その内の177部が有効的であり、有効回収率は88.5%である。今回の予備調査において、大多数の親は、全ての質問項目をスムーズに理解し、正確に回答することができた。

しかし、親が理解することが比較的困難ないくつかの質問項目も存在していることを発見し、問題項目の明確性と正確性を確保するために、微調整が必要であり、正式な調査を実施する前に訂正を行い、親が質問項目を理解しやすくするために、適切な例と説明を付け加えた。

さらに、予備調査に対する分析によって、サンプルの人口統計学的変数が幼児教育に対する親の関与、親子関係、幼児の幼稚園適応に影響を与える可能性があることが明らかとなった。そのため、正式の調査を実施する際に、これらの人口統計学的変数を十分に考慮する必要があることを示唆している。

要するに、今回の予備調査は、正式の調査のサンプル選択、データ回収、分析方法に関する貴重な経験を提供していた。今後の正式の調査において、筆者は予備調査の結果に基づいて適切な修正を行い、サンプルのサイズと範囲を拡大し、より正確な研究結果を得

ることを目指したいと考える。

1.2 インタビューの予備調査

本研究では、インタビュー調査を行う前に、半構造化のインタビューガイドラインを作成した。このガイドラインには、クローズド・エンドの質問項目とオープンエンドの質問項目が含まれていた。インタビューの質問項目の設計は、研究の目的と課題を考慮した上で、インタビューの対象者が最大限に自分の本当の考え方を共有することを促すことを目的としていた。

インタビューガイドラインの有効性と信頼性を確保するために、筆者の知人の2名の対象者に対して、予備調査を実施した。対象者の反応とインタビューの過程において発生した問題を正確に捉えるために、予備調査の内容も録音された。

予備調査が終了した後、主題分析の方法を利用し、テキスト化したデータを分析し、インタビューガイドラインにおける質問項目の信頼性について検討した。そして、これに基づき、インタビューの有効性と信頼性を確保するために、本調査において利用されるインタビューガイドラインを調整・修正した。

2. アンケート調査のスケールの信頼性に関する分析

本研究において利用された「親の関与スケール」、「親子関係スケール」及び「幼児の幼稚園適応スケール」の信頼性を検証するために、コロンバック係数(Cronbach α)について分析を行なった。

具体的な結果は表1のように、各スケールの全体的のコロンバック係数が0.7以上であり、及び各側面のコロンバック係数も0.6以上であり、信頼性が良好的である。

それに、本研究において利用されている各スケールは、様々な先行研究によって検証されてきたため、妥当性が良好的であり、本研究の正式の調査に適応している。

表 1 各スケールの信頼性に関する分析結果

| スケール及び側面 | 質問数 | コロンバック係数 |
|--------------|-----|----------|
| 育児指導 | 7 | 0.879 |
| 親子交流 | 5 | 0.903 |
| 言語と認知的活動 | 5 | 0.835 |
| 幼稚園との意思疎通 | 4 | 0.820 |
| 幼児の家庭学習への参加 | 3 | 0.744 |
| 幼稚園事務への参加 | 2 | 0.675 |
| 親の関与スケール | 26 | 0.951 |
| 親密的 | 7 | 0.885 |
| 衝突的 | 8 | 0.884 |
| 親子関係スケール | 15 | 0.846 |
| 自己ケアと感情的な成熟 | 6 | 0.894 |
| 認知とコミュニケーション | 5 | 0.837 |
| 社会的能力 | 4 | 0.881 |
| 学びの志向 | 4 | 0.913 |
| 教室のルール | 5 | 0.871 |
| 幼児の幼稚園適応スケール | 24 | 0.909 |

3. アンケート調査の質問項目に関する分析

本研究の予備調査では、「親の関与スケール」、「親子関係スケール」及び「幼児の幼稚園適応スケール」における各質問項目について記述的統計分析を行い、表 2-1、2-2、2-3 が示しているような結果がわかった。

「親の関与スケール」では、各質問項目の歪度の範囲は-1.68～0.02 であり（絶対値は 3 以下）、尖度の範囲は-1.18～5.72 である（絶対値は 10 以下）ため、正規分布に近似している。

「親子関係スケール」では、各質問項目の歪度の範囲は-1.55～1.42 であり（絶対値は 3 以下）、尖度の範囲は-1.10～4.98 である（絶対値は 10 以下）ため、正規分布に近似している。

「幼児の幼稚園適応スケール」では、各質問項目の歪度の範囲は-2.21～1.82 であり（絶対値は 3 以下）、尖度の範囲は-1.10～6.50 である（絶対値は 10 以下）ため、正規分布に近似している。

上記の 3 つのスケールのデータを総括し、全てが正規分布に近似しているため、本研究において使用された分析方法に適合している。

表 2-1 「親の関与スケール」における質問項目に関する分析

| 質問 | サンプル数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 歪度 | 尖度 |
|----|-------|------|------|------|------|-------|-------|
| 1 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.01 | 0.94 | -1.06 | 1.31 |
| 2 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.12 | 0.91 | -1.49 | 3.00 |
| 3 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.09 | 0.83 | -0.84 | 1.03 |
| 4 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.59 | 1.05 | -0.46 | -0.48 |
| 5 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.25 | 0.82 | -1.31 | 2.73 |
| 6 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.16 | 0.82 | -1.29 | 2.67 |
| 7 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.69 | 1.03 | -0.55 | -0.21 |
| 8 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.15 | 0.91 | -1.23 | 1.63 |
| 9 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.44 | 0.68 | -1.68 | 5.72 |
| 10 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.16 | 0.85 | -1.06 | 1.38 |
| 11 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.58 | 1.10 | -0.35 | -0.63 |
| 12 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.67 | 1.01 | -0.43 | -0.34 |
| 13 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.60 | 1.07 | -0.47 | -0.45 |
| 14 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.50 | 0.53 | -0.33 | -1.18 |
| 15 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.36 | 0.62 | -0.43 | -0.65 |
| 16 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.57 | 1.13 | -0.54 | -0.47 |
| 17 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.24 | 0.60 | -0.14 | -0.48 |
| 18 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.01 | 0.77 | -0.31 | -0.52 |
| 19 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.27 | 0.66 | -0.83 | 2.29 |
| 20 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.34 | 0.57 | -0.17 | -0.67 |
| 21 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.46 | 0.57 | -0.49 | -0.71 |
| 22 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.80 | 1.01 | -0.71 | 0.30 |
| 23 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.37 | 1.14 | -0.09 | -0.82 |
| 24 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.92 | 0.89 | -0.42 | -0.39 |
| 25 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.88 | 0.94 | -0.75 | 0.68 |
| 26 | 177 | 1.00 | 5.00 | 3.35 | 1.03 | -0.02 | -0.47 |

表 2-2 「親子関係スケール」における質問項目に関する分析

| 質問 | サンプル数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 歪度 | 尖度 |
|----|-------|------|------|------|------|-------|-------|
| 1 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.53 | 0.53 | -0.47 | -1.07 |
| 2 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.90 | 1.17 | 0.10 | -0.87 |
| 3 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.32 | 0.68 | -1.28 | 3.77 |
| 4 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.21 | 1.17 | 0.94 | 0.03 |
| 5 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.37 | 0.70 | -1.55 | 4.89 |
| 6 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.58 | 0.52 | -0.58 | -1.10 |
| 7 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.34 | 0.71 | -1.19 | 2.61 |
| 8 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.51 | 1.05 | 0.61 | -0.13 |
| 9 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.08 | 0.70 | -0.42 | 0.11 |
| 10 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.68 | 1.04 | 0.37 | -0.42 |
| 11 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.41 | 1.08 | 0.65 | -0.15 |
| 12 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.37 | 1.05 | 0.84 | 0.25 |
| 13 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.18 | 1.05 | 1.03 | 0.63 |
| 14 | 177 | 1.00 | 5.00 | 1.84 | 0.91 | 1.42 | 2.36 |
| 15 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.31 | 0.67 | -0.92 | 2.13 |

表 2-3 「幼児の幼稚園適応スケール」における質問項目に関する分析

| 質問 | サンプル数 | 最小値 | 最大値 | 平均値 | 標準偏差 | 歪度 | 尖度 |
|----|-------|------|------|------|------|-------|-------|
| 1 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.11 | 1.18 | 0.99 | 0.07 |
| 2 | 177 | 1.00 | 5.00 | 1.88 | 1.08 | 1.50 | 1.82 |
| 3 | 177 | 1.00 | 5.00 | 1.93 | 1.09 | 1.30 | 1.14 |
| 4 | 177 | 1.00 | 5.00 | 1.68 | 0.91 | 1.82 | 3.74 |
| 5 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.26 | 1.02 | 0.57 | 0.04 |
| 6 | 177 | 1.00 | 5.00 | 2.20 | 1.13 | 0.78 | -0.22 |
| 7 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.49 | 0.78 | -2.21 | 6.50 |
| 8 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.51 | 0.68 | -1.73 | 4.48 |
| 9 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.40 | 0.68 | -0.91 | 0.51 |
| 10 | 177 | 3.00 | 5.00 | 4.59 | 0.54 | -0.80 | -0.50 |
| 11 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.22 | 0.80 | -1.03 | 0.93 |
| 12 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.27 | 0.69 | -0.62 | 0.06 |
| 13 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.28 | 0.80 | -1.28 | 2.34 |
| 14 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.29 | 0.77 | -1.08 | 1.51 |
| 15 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.02 | 0.88 | -0.65 | 0.27 |
| 16 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.05 | 0.76 | -0.32 | -0.52 |
| 17 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.03 | 0.75 | -0.22 | -0.70 |
| 18 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.15 | 0.71 | -0.33 | -0.63 |
| 19 | 177 | 2.00 | 5.00 | 4.00 | 0.77 | -0.08 | -1.10 |
| 20 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.05 | 0.86 | -0.69 | 0.16 |
| 21 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.33 | 0.74 | -1.13 | 1.96 |
| 22 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.12 | 0.83 | -1.02 | 1.52 |
| 23 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.08 | 0.78 | -0.72 | 0.82 |
| 24 | 177 | 1.00 | 5.00 | 4.19 | 0.77 | -1.16 | 2.55 |

4. アンケート調査の統計検定

本研究では、共通方法バイアス (Common Method Biases) の問題が生じる可能性を排除するために、Harman 単一因子分析法を利用し、共通方法のバイアスを検証した。各スケールの質問項目に探索的因子分析を実施した結果、回転していない最初の因子が総変動の 31.204% を解釈し、臨界値の 40% 未満であるため (Podsakoff ら、2003)、重大な共通方法のバイアスは存在しないと判断できる。具体的な結果は、表 3 に示す。

表 3 共通方法バイアス検定の結果

| 成分 | 初期の固有値 | | | 二乗負荷の合計 | | |
|----|--------|---------------|----------|---------|-----------|----------|
| | 合計 | 分散の割合 (%) | 累積割合 (%) | 合計 | 分散の割合 (%) | 累積割合 (%) |
| 1 | 20.283 | 31.204 | 31.204 | 20.283 | 31.204 | 31.204 |
| 2 | 7.251 | 11.155 | 42.360 | 7.251 | 11.155 | 42.360 |
| 3 | 4.175 | 6.423 | 48.783 | 4.175 | 6.423 | 48.783 |
| 4 | 2.912 | 4.480 | 53.262 | 2.912 | 4.480 | 53.262 |
| 5 | 2.412 | 3.711 | 56.974 | 2.412 | 3.711 | 56.974 |
| 6 | 1.602 | 2.464 | 59.438 | 1.602 | 2.464 | 59.438 |
| 7 | 1.330 | 2.046 | 61.484 | 1.330 | 2.046 | 61.484 |
| 8 | 1.200 | 1.847 | 63.331 | 1.200 | 1.847 | 63.331 |
| 9 | 1.146 | 1.763 | 65.095 | 1.146 | 1.763 | 65.095 |
| 10 | .912 | 1.403 | 66.497 | | | |

5. インタビュー調査の信頼性に関する分析

主題分析における主題の生成の信頼性を確保するために、インタビューの内容をテキスト化した後、それについて、第1回目の分析を行い、コードをつけ、主題の概念を生成した。その後、筆者の第1回目において概念化した主題に関する印象が薄くなって来るまで時間を置き、第2回目の分析を行い、最初からコードをつけ、主題の概念を生成した。

親を対象にするインタビューにおいては、2回の分析によって生成された主題の概念を比較し、40の一次主題の中で、一致している主題の数は35であり、一致性の確率は約87.5%であった。45の二次主題の中で、一致している主題の数は38であり、一致性の確率は約84.4%であった。

幼児を対象にするインタビューにおいては、2回の分析によって生成された主題の概念を比較し、35の一次主題の中で、一致している主題の数29はであり、一致性の確率は約82.9%であった。48の二次主題の中で、一致している主題の数40はであり、一致性の確率は約83.3%であった。

6. 調査対象

6.1 アンケート調査の対象

本研究では、中国山東省における幼稚園に在園している幼児を対象に調査を実施した。

Kottrlik&Higgins (2001) の量的分析のサンプルサイズの計算方法に基づき、サンプルの合計数は質問項目の合計数の5-10倍以上であるべきとされている。本研究のスケールの質問項目数は合計55であり、効果的なサンプルの最低基準は325とされている。中国における幼稚園は年少(3-4歳)、年中(4-5歳)、年長(5-6歳)のように3段に分けられていることを考慮する上で、本研究のアンケート調査の部分では、1600部のアンケートを配布した。結果として、1542部が有効に回収され、回収率は96.38%である。

そして、先行研究を踏まえ、「親の役割」、「幼児の性別」、「幼児の年齢層」、「幼稚園の種類」、「家庭内の子ども数」、「居住地」、「親の教育背景」、「親の職業」、「家庭の年間収入」(中国山東省統計局が2023年に発表した報告によって設定した)、「家族形態」というような人口統計学的変数を巡って、対象者の基本的情報について調査した。

また、その中では、「家庭内の子ども数」及び「親の職業」というのは、中国における先行研究ではこれまで検討されてこなかった人口統計学的変数であった。「家庭の子どもの数」に関しては、中国における「一人子政策」が中止されたため(2014-2016年)(陳と羅、2023)、きょうだいがいる家庭における幼児の教育に対する親の関与、親子関係及び幼児の幼稚園適応に関する研究がまだ充実していないのが現実である。

加えて、「親の職業」を「公」と「私」に分類し、調査・分析したのは、中国の独特の文化と社会背景における特徴を捉えるためであったが、これまでこのような観点の先行研究も少ない。

対象者の詳しい基本情報については、表 4-1 が示しているようである。具体的に言えば、今回の調査に参加した対象者について、

「親の役割」を見ると、父親は 19.6%を占め、母親は 80.4%を占めている。

「幼児の性別」を見ると、男性は 49.1%、女性は 50.9%を占めている。

「幼稚園の種類」を見ると、私立幼稚園は 10.2%を占め、公立幼稚園は 89.8%を占めている。

「居住地」を見ると、非都市地域は 28.1%、都市は 71.9%を占めている。

「家庭内の子ども数」を見ると、2~3 人の子どものサンプルが最も多く、71.8%を占め、次に 1 人の子どものサンプルが 26.5%を占めている。

「親の職業」を見ると、公務員は 19.1%を占め、一般企業は 80.9%を占めている。

「親の教育背景」を見ると、高等教育は 59.7%を占め、非高等教育は 40.3%を占めている。

「家庭の年間収入」を見ると、年収が 10-30 万（人民元）の中収入層におけるサンプルが最も多く、49.9%を占め、次に 0-10 万の低収入層におけるサンプルが 44.0%を占めている。

「家族形態」を見ると、核家族は 65.2%を占め、非核家族は 34.8%を占めている。

表 4-1 アンケート調査のサンプルに関する記述的統計（サンプル数=1542）

| 項目 | サンプルグループ | サンプル数 | パーセンテージ |
|------------------|----------|-------|---------|
| 親の役割 | 父親 | 302 | 19.6% |
| | 母親 | 1240 | 80.4% |
| 幼児の性別 | 男性 | 757 | 49.1% |
| | 女性 | 785 | 50.9% |
| 幼児の年齢層 | 3-4 歳 | 377 | 24.4% |
| | 4-5 歳 | 627 | 40.7% |
| | 5-6 歳 | 538 | 34.9% |
| 幼稚園の種類 | 私立 | 157 | 10.2% |
| | 公立 | 1385 | 89.8% |
| 居住地 | 非都市部 | 433 | 28.1% |
| | 都市部 | 1109 | 71.9% |
| 家庭内の子ども数 | 1 人 | 408 | 26.5% |
| | 2-3 人 | 1107 | 71.8% |
| | ≥4 人 | 27 | 1.8% |
| 親の教育背景 | 非高等教育 | 621 | 40.3% |
| | 高等教育 | 921 | 59.7% |
| 家庭の年間収入 (人民元) | 0-10 万 | 678 | 44.0% |
| | 10-30 万 | 769 | 49.9% |
| | >30 万 | 95 | 6.2% |
| 家族形態 | 核家族 | 1006 | 65.2% |
| | 非核家族 | 536 | 34.8% |
| 親の職業 | 公務員 | 294 | 19.1% |
| | 一般企業 | 1248 | 80.9% |

6.2 インタビュー調査の対象

本研究のインタビュー調査の部分において、適切なサンプルを選択するために、機会型サンプリング (Opportunity Sampling) の方法と目的型サンプリング (Purposive Sampling) を利用していた。

機会型サンプリングでは、サンプル数の量を強調するのではなく、便利性と利用可能性などの要素に重点を置き、つまり、研究者は便利な時間と場所で協力可能な対象者を選ぶことができる。そのため、本研究のインタビュー調査は筆者の知人が園長に務めている中国山東省青島市S公立幼稚園を調査の場所とし、この幼稚園の親と幼児をインタビュー調査の対象にした。

また、目的型サンプリングでは、研究の目的や課題に関連している特定の特質や経験を持つサンプルが重視されている。そのため、本研究のインタビュー調査では、便利性と同時に、本研究のアンケート調査の部分を踏まえながら、以下の基準によって対象者を選択した。

- (1) 幼児と親は基本的な中国語（標準語）で会話できる。
- (2) 幼児の親は該当する幼児と一緒に日常生活している。
- (3) 幼児の親は、このインタビューに参加し、全ての質問に答えることに同意する。

そして、目的型サンプリングはサンプルの量を求めるものではなく、サンプルがバリエーションを持っている情報を提供できることの方を求めている。そのため、本研究のインタビュー調査において、目的型サンプリングの中の「最大差異サンプリング (Maximum Variation Sampling)」という手法を利用した。つまり、情報のバリエーションを確保するために、新たにインタビュー調査に参加してくるサンプルが新しい情報を提供できないと、サンプリングを終了すべきである (Lincoln&Guba, 1985)。

上記の内容を総合的に考慮した上で、最終的に本研究のインタビュー調査に応募した参加者は21組があったが、その後キャンセルした応募者を除き、有効的にインタビュー調査に協力した親と幼児は5組、10人であった。筆者は、5つの組をG1、G2、G3、G4、G5として番号を付けた。5人の親をP1、P2、P3、P4、P5として番号を付けた。親に該当する5人の幼児は、C1、C2、C3、C4、C5として番号を付けた。具体的な情報は表4-2のようである。

表 4-2 インタビュー調査のサンプルに関する情報（サンプル数=10人）

| 対象グループ | G1 | G2 | G3 | G4 | G5 |
|-----------------|------|--------|--------|--------|------|
| 親の役割 | 母親 | 母親 | 父親 | 母親 | 母親 |
| 幼児の性別 | 男性 | 女性 | 女性 | 女性 | 女性 |
| クラス | 年長 | 年長 | 年中 | 年少 | 年中 |
| 家庭の子ども数 | 2人 | 1人 | 1人 | 1人 | 2人 |
| 親の職業 | 公務員 | 公務員 | 一般企業 | 一般企業 | 一般企業 |
| 親の教育背景 | 大学 | 専門学校 | 専門学校 | 専門学校 | 大学 |
| 家庭年間収入 (人民元) | ≥30万 | 10-30万 | 10-30万 | 10-30万 | ≤10万 |
| 家族形態 | 核家族 | 核家族 | 核家族 | 核家族 | 非核家族 |

第4章 中国における幼児の教育に対する親の関与の現状

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に対する分析の前提として、記述的統計と差異検定の手法を利用し、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状を明らかにすることを主要の目的とした。

また、分析によって得られた結果に基づいて、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状の背後における原因及び問題点などについて考察し、中国における幼児の家庭教育と幼稚園教育の政策と実践上における示唆を提示した。

1. 調査結果

1.1 記述的統計による分析結果

中国における幼児の教育に対する親の関与に関する記述的統計は、表 5-1 のように示している。

具体的に言えば、中国における幼児の教育に対する親の関与における平均値は 3.91 であり、総値の 70% を上回っており、6 つの側面の平均値の空間も 3.58-4.36 であるため、中国における幼児の教育に対する親の関与の水準が比較的に高いことが言える。

そして、「育児指導」(4.36) の側面における平均値が最も高く、「幼稚園事務への参加」(3.58) の側面における平均値が最も低いことが分かった。さらに「幼児の家庭学習への参加」(4.09)、「言語と認知的活動」(3.97) の側面においても、親たちは比較的に高い平均値を取得しており、「育児指導」と合わせて、この 3 つの側面の平均値が総合的の親の関与の平均値を上回っていることが明らかであった。

それに対して、「親子交流」(3.59)、「幼稚園との意思疎通」(3.89)、「幼稚園事務への参加」の 3 つの側面の平均値が総合的の親の関与の平均値を下回っていることが明らかであった。

また、標準偏差について、「育児指導」の側面における標準偏差値 (0.54) が最も低いことがわかり、「幼稚園事務への参加」(1.01) の側面における標準偏差値が最も高いことが分かった。

表 5-1 幼児の教育に対する親の関与に関する記述的統計（サンプル数=1542）

| 側面 | 育児指導 | 親子交流 | 言語と認知的活動 | 幼稚園との意思疎通 | 幼児の家庭学習への参加 | 幼稚園事務への参加 | 親の関与総合 |
|------|------|------|----------|-----------|-------------|-----------|-------------|
| 平均値 | 4.36 | 3.59 | 3.97 | 3.89 | 4.09 | 3.58 | 3.91 |
| 最大値 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| 標準偏差 | 0.54 | 0.96 | 0.68 | 0.77 | 0.74 | 1.01 | 0.67 |

1.2 差異検定による分析結果

本研究の差異検定によって、中国における幼児の教育に対する親の関与の各側面では、人口統計学的変数において様々な程度の差異を示していることが明らかとなった。

詳細なデータは表 5-2 のようである。

「親の役割」では、総合的親の関与において差異が見られないが ($P>0.05$)、「言語と認知的活動」 ($P<0.05$)、「幼稚園事務への参加」 ($P<0.05$) の側面において差異が見られ、母親と比べると父親の方がより高い点数を得ていた。

「幼児の性別」では、親の関与の各側面において、統計学上の差異が全く見られなかった ($P>0.05$)。

「幼児の年齢」では、総合的親の関与において顕著な差異が見られ ($P<0.01$)、5-6歳の幼児の親の方が最も高い点数を得ていた。そして、「親子交流」 ($P<0.01$)、「幼稚園との意思疎通」 ($P<0.05$)、「幼稚園事務への参加」 ($P<0.01$) において差異が見られた。「親子交流」の側面では、幼児の年齢が増えれば増えるほど、親の点数が高くなる傾向が示され、「幼稚園との意思疎通」と「幼稚園事務への参加」の側面では5-6歳の幼児の親の方が最も高い点数を得ていた。

「幼稚園の種類」では、総合的親の関与において顕著な差異が見られ ($P<0.01$)、全ての側面においても差異が見られた ($P<0.05$)。私立幼稚園と比べると、公立幼稚園の親の方が全面的により高い点数を得ていた。

「居住地」では、総合的親の関与において顕著な差異が見られ ($P<0.01$)、全ての側面においても顕著な差異が見られた ($P<0.01$)。都市地域に在住している親と比べると、非都市地域に在住している親の方がより高い点数を得ていた。

「家庭内の子ども数」では、総合的親の関与において差異が見られないが ($P>0.05$)、「親子交流」 ($P<0.05$) の側面においては統計学上の差異が見られた。「親子交流」の側面では、幼児の年齢が増えれば増えるほど、親の点数が高くなる傾向が示された。

「親の職業」では、総合的親の関与において差異が見られ ($P<0.05$)、一般企業の親と比べると、公務員の親の方がより高い点数を得ていた。そして、「言語と認知的活動」 ($P<0.05$)、「幼稚園との意思疎通」 ($P<0.01$)、「幼稚園事務への参加」 ($P<0.05$) において

差異が見られ、公務員の親の方がより高い点数を得ていた。

「親の教育背景」では、総合的親の関与において顕著な差異が見られ ($P < 0.01$)、非高等教育を受けた親の方がより高い点数を得ていた。そして、「親子交流」 ($P < 0.01$)、「幼稚園との意思疎通」 ($P < 0.01$)、「幼児の家庭学習への参加」 ($P < 0.05$)、「幼稚園事務への参加」 ($P < 0.01$) において差異が見られ、非高等教育教育を受けた親の方がより高い点数を得ていた。

「家庭の年間収入」では、総合的親の関与において顕著な差異が見られ ($P < 0.01$)、中間収入の親の方が最も低い点数を得ていた。そして、「育児指導」 ($P < 0.05$)、「親子交流」 ($P < 0.01$)、「幼稚園との意思疎通」 ($P < 0.01$)、「幼児の家庭学習への参加」 ($P < 0.01$)、「幼稚園事務への参加」 ($P < 0.05$) において差異が見られ、中間収入の親の方が最も低い点数を得ていた。

「家族形態」では、総合的親の関与において顕著な差異が見られ ($P < 0.01$)、全ての側面においても差異が見られた ($P < 0.05$)。非核家族と比べると、核家族の親の方がより高い点数を得ていた。

表 5-2 幼児の教育に対する親の関与に関する人口統計学的変数 (平均値±標準偏差)

| 変数 | | サンプル数 | 育児指導 | 親子交流 | 言語と認知的活動 | 幼稚園との意思疎通 | 幼児の家庭学習への参加 | 幼稚園事務への参加 | 親の関与総合 |
|-------|----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 親の役割 | 父親 | 302 | 4.40±0.61 | 3.69±1.01 | 4.05±0.74 | 3.87±0.88 | 4.13±0.83 | 3.68±1.00 | 3.97±0.73 |
| | 母親 | 1240 | 4.35±0.52 | 3.57±0.94 | 3.95±0.67 | 3.90±0.74 | 4.09±0.71 | 3.55±1.01 | 3.90±0.65 |
| | <i>t</i> | | 1.355 | 1.955 | 2.154 | -0.593 | 0.929 | 2.006 | 1.601 |
| | <i>P</i> | | 0.176 | 0.051 | 0.031 | 0.553 | 0.353 | 0.045 | 0.110 |
| 幼児の性別 | 男性 | 757 | 4.35±0.54 | 3.57±0.94 | 3.97±0.67 | 3.89±0.75 | 4.07±0.72 | 3.59±0.98 | 3.91±0.64 |
| | 女性 | 785 | 4.37±0.55 | 3.62±0.97 | 3.97±0.70 | 3.90±0.79 | 4.11±0.75 | 3.56±1.03 | 3.92±0.69 |
| | <i>t</i> | | -0.563 | -0.936 | -0.196 | -0.040 | -1.051 | 0.485 | -0.413 |
| | <i>P</i> | | 0.573 | 0.349 | 0.845 | 0.968 | 0.294 | 0.628 | 0.680 |

| | | | | | | | | | |
|----------------------|---------------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 幼児の 年齢 | 3-4 歳 | 377 | 4.32± 0.56 | 3.42± 1.01 | 3.93± 0.70 | 3.88± 0.73 | 4.08± 0.72 | 3.58± 0.99 | 3.87± 0.67 |
| | 4-5 歳 | 627 | 4.36± 0.54 | 3.51± 0.95 | 3.97± 0.65 | 3.84± 0.78 | 4.07± 0.73 | 3.48± 1.02 | 3.87± 0.65 |
| | 5-6 歳 | 538 | 4.39± 0.53 | 3.81± 0.88 | 4.00± 0.71 | 3.97± 0.77 | 4.14± 0.75 | 3.69± 0.99 | 4.00± 0.68 |
| | <i>F</i> | | 1.977 | 23.359 | 1.257 | 4.380 | 1.393 | 6.124 | 6.679 |
| | <i>P</i> | | 0.139 | 0.000 | 0.285 | 0.013 | 0.249 | 0.002 | 0.001 |
| 幼児園 の種類 | 私立 | 157 | 4.27± 0.49 | 3.22± 0.90 | 3.86± 0.62 | 3.63± 0.72 | 3.96± 0.61 | 3.14± 1.03 | 3.68± 0.59 |
| | 公立 | 1385 | 4.37± 0.55 | 3.64± 0.96 | 3.98± 0.69 | 3.92± 0.77 | 4.11± 0.75 | 3.63± 0.99 | 3.94± 0.67 |
| | <i>t</i> | | -2.095 | -5.203 | -2.059 | -4.602 | -2.969 | -5.756 | -5.164 |
| | <i>P</i> | | 0.036 | 0.000 | 0.040 | 0.000 | 0.003 | 0.000 | 0.000 |
| 居住地 | 非都 市地 域 | 433 | 4.45± 0.56 | 3.82± 0.98 | 4.14± 0.70 | 4.08± 0.77 | 4.25± 0.74 | 3.86± 1.00 | 4.10± 0.69 |
| | 都市 地域 | 1109 | 4.32± 0.53 | 3.50± 0.94 | 3.90± 0.66 | 3.82± 0.76 | 4.03± 0.72 | 3.46± 0.99 | 3.84± 0.64 |
| | <i>t</i> | | 4.162 | 5.915 | 6.093 | 5.835 | 5.165 | 7.122 | 6.747 |
| | <i>P</i> | | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 家庭内 の 子ども 数 | 1人 | 408 | 4.38± 0.50 | 3.48± 0.98 | 4.02± 0.64 | 3.86± 0.74 | 4.10± 0.71 | 3.53± 1.03 | 3.89± 0.63 |
| | 2-3 人 | 1107 | 4.35± 0.56 | 3.63± 0.95 | 3.95± 0.70 | 3.90± 0.78 | 4.09± 0.74 | 3.59± 1.00 | 3.92± 0.68 |
| | ≥4人 | 27 | 4.43± 0.42 | 3.78± 1.04 | 4.10± 0.57 | 4.05± 0.70 | 3.99± 0.87 | 3.76± 0.93 | 4.02± 0.60 |
| | <i>F</i> | | 0.665 | 4.527 | 2.006 | 1.025 | 0.311 | 1.046 | 0.561 |
| | <i>P</i> | | 0.515 | 0.011 | 0.135 | 0.359 | 0.733 | 0.351 | 0.571 |

| | | | | | | | | | |
|---------|----------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 親の職業 | 公務員 | 294 | 4.40± 0.52 | 3.66± 0.99 | 4.05± 0.68 | 4.01± 0.76 | 4.14± 0.76 | 3.70± 1.02 | 3.99± 0.68 |
| | 一般企業 | 1248 | 4.35± 0.55 | 3.58± 0.95 | 3.95± 0.68 | 3.87± 0.77 | 4.08± 0.73 | 3.55± 1.00 | 3.90± 0.66 |
| | <i>t</i> | | 1.345 | 1.334 | 2.229 | 2.923 | 1.272 | 2.260 | 2.245 |
| | <i>P</i> | | 0.179 | 0.183 | 0.026 | 0.004 | 0.203 | 0.024 | 0.025 |
| 親の教育背景 | 非高等教育 | 621 | 4.39± 0.52 | 3.72± 0.94 | 3.98± 0.71 | 3.98± 0.74 | 4.14± 0.72 | 3.68± 0.98 | 3.98± 0.67 |
| | 高等教育 | 921 | 4.34± 0.55 | 3.51± 0.96 | 3.96± 0.67 | 3.84± 0.78 | 4.06± 0.74 | 3.51± 1.02 | 3.87± 0.66 |
| | <i>t</i> | | 1.887 | 4.287 | 0.367 | 3.482 | 2.196 | 3.237 | 3.229 |
| | <i>P</i> | | 0.059 | 0.000 | 0.714 | 0.001 | 0.028 | 0.001 | 0.001 |
| 家庭の年間収入 | 0-10万 | 678 | 4.39± 0.55 | 3.71± 0.96 | 3.99± 0.73 | 3.96± 0.78 | 4.16± 0.74 | 3.66± 1.01 | 3.98± 0.69 |
| | 10-30万 | 769 | 4.32± 0.53 | 3.49± 0.95 | 3.94± 0.64 | 3.82± 0.75 | 4.04± 0.72 | 3.50± 1.00 | 3.85± 0.64 |
| | >30万 | 95 | 4.39± 0.56 | 3.60± 0.99 | 4.08± 0.63 | 3.98± 0.73 | 4.12± 0.76 | 3.64± 1.03 | 3.97± 0.67 |
| | <i>F</i> | | 3.476 | 9.635 | 2.369 | 6.936 | 4.765 | 4.555 | 6.942 |
| | <i>P</i> | | 0.031 | 0.000 | 0.094 | 0.001 | 0.009 | 0.011 | 0.001 |
| 家族形態 | 核家族 | 1006 | 4.39± 0.54 | 3.66± 0.95 | 4.02± 0.68 | 3.95± 0.75 | 4.13± 0.73 | 3.63± 1.01 | 3.96± 0.67 |
| | 非核家族 | 536 | 4.30± 0.54 | 3.46± 0.96 | 3.88± 0.67 | 3.79± 0.79 | 4.03± 0.74 | 3.48± 0.99 | 3.83± 0.65 |
| | <i>t</i> | | 2.805 | 3.846 | 3.702 | 3.879 | 2.393 | 2.719 | 3.803 |
| | <i>P</i> | | 0.005 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.017 | 0.007 | 0.000 |

2. 調査結果の考察

2.1 中国における幼児の教育に対する親の関与の傾向と課題

本研究のアンケート調査に関する結果によって、表 5-1 が示しているように、中国における幼児に対する親の関与は、比較的の高い水準に位置しており、6つの全ての側面における平均値は総値の60%を上回っていることが明らかであった。特に、「育児指導」における平均値が最も高く、「幼児の家庭学習への参加」、「言語と認知的活動」も相次ぎ、「親の関与スケール」の総合的平均値を上回っていた。

中国の親は子どもの教育、特に早期の幼児の教育と生活に関与する程度が高いという本研究の結果は、中国の伝統的の文化背景において親の責任と権威が強調されている（李と朱、2017）ことと一致している。特に、本研究の調査対象地域である山東省は、伝統的な中国文化を継承されてきた地域であると言われ（王、2008；宋、2017）、このような傾向を表していることは想像を超えるものではないと考える。

中国における幼児の教育に対する親の関与の傾向を明らかにすることによって、以下のような課題が存在している可能性があげられる。

中国の親は、「育児指導」、「幼児の家庭学習への参加」、「言語と認知的活動」の側面における関与の程度が高いことは、幼児の認知的能力、さらに具体的な学習活動に対して親の関心が集中しており、「スタートラインで負けてはいけない」という考え方（張と李、2013；張、2014）は依然存在していることが窺える。

しかし、それに対して、「幼稚園との意思疎通」、「幼稚園事務への参加」の側面における親の関与が比較的少なく、中国の親は家庭と学校・幼稚園の提携の重要性を十分認識していないという可能性が本研究によって明らかとなった。

家庭側と幼稚園側が相互の情報交換によって、幼児の発達状況をよく把握することができ、幼児の発達にとってより連続的、効果的な支援ができるということが多くの研究によって明確になった（Epstein、1995）。

そのため、教育政策を策定する際、家庭と教育機関の連携に対して、さらに多く考慮すべきであると同時に、幼稚園側もさらに家庭との連携活動を開発し、その重要性を一層中国の親たちに浸透させることが求められるだろう。

2.2 中国の幼児の教育に対する親の関与における差異と課題

本研究のアンケート調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与が、比較的に高い水準に位置していることが明らかとなったが、幼児自身、親及び幼稚園の特性によって様々な差異が存在していることも明らかであった。

本研究のアンケート調査に対する差異検定によって、表 5-2 のように、中国における幼児に対する親の関与において、「幼児の年齢」、「幼稚園の種類」、「居住地」、「親の職業」、「親の教育背景」、「家庭の年間収入」、「家族形態」という 7 つの人口統計学的変数によって、差異が存在することが明らかとなった。具体的に言えば、

「**幼児の年齢**」から見ると、5-6 歳の幼児の親の方が最も高い関与の程度を表しており、「幼稚園との意思疎通」と「幼稚園事務への参加」の側面においても同じ結果を表している。つまり、5-6 歳の幼児はこれから小学校への進学に直面しており、親の関与の程度もそれにしがたい上昇する可能性があると言える。

中国では、幼児の入学準備に関する親の関心が高く、特に年長組になるとその関心度、関与度が最も高い水準まで向上してくる（張と賀、2020）。しかし、幼児の発達も、小学校の入学準備も、継続的な発展プロセスによって達成されるものであり（趙、2017）、各年齢層において達成すべき目標を積み重ねていくために、幼児に対する親からの支援と指導もバランスよく行われる必要があり、行政側と幼稚園側は各家庭に向けて、さらに適切な支援と助言を行うべきだろう。

「**幼稚園の種類**」から見ると、私立幼稚園と比べると、公立幼稚園の親の方は親の関与の程度が高いことが明らかであった。中国では、公立幼稚園の保育・教育料が私立幼稚園に比べると一層少ないため、基本的な保育・教育以外に提供される教育サービスの内容に関しては、私立幼稚園の方が明らかに多いのは現状である。

そして、親の育児負担を軽減させるために、保育時間を延長したり、幼児の園における学習内容を増やしたりするため、教育サービスの内容が多い私立幼稚園を選ぶ親も少数ではない（郝ら、2019）。したがって、私立幼児の親が公立の親と比べると、幼児に対する関与を幼稚園側に任せる傾向があることはこのような結果を引き起こした可能性であるかもしれない。教育の公平性の立場から見ると、将来、私立幼稚園における親の関与に関する宣伝を強化し、親の教育価値観をさらに適切な方向に誘導し、私立幼稚園と公立幼稚園における親の関与のギャップを解消するべきだろう。

「**居住地**」から見ると、都市地域に在住している親と比べると、非都市地域に在住している親の方は親の関与の程度が高いことが明らかであった。程と吳（2011）の比較研究によると、幼児に対する親の関与に関して、中国の都市部と農村部の間には顕著な差異があり、都市部の親の関与の程度が農村の親より高いと主張していた。

しかし、本研究では異なっている結果を発見した。分析方法の違いは別途にし、近年の経済発展及び「情報革命」を経てきた中国では、農村地域、特に経済大省である山東省の農村地域の社会的状況は大きく変化してき、それに伴って親の価値観においても変化が起

きていることは、本研究の調査結果を発見した原因の一つであるかもしれない。ところが、幼児に対する親の関与が多ければ多いほど良いということではなく、過度的な関与も幼児の自主性や問題解決能力を損なう可能性がある。したがって、家庭教育に関する政策策定や支援活動の際、このような変化及び都市地域と非都市地域における地域の差異を十分考慮しながら、親たちに対して適切な家庭教育の価値観を全面的に宣伝・指導することは、重視されるべき課題である。

「親の職業」から見ると、一般企業の親と比べると、公務員の親の方が関与の程度が高く、特に「言語と認知的活動」、「幼稚園との意思疎通」、「幼稚園事務への参加」の側面において、差異が存在していることが明らかであった。中国の職業システムにおいては、公務員の従業員の方は、比較的により安定した収入とより多い社会保障を得ており、労働時間もより定着し、休暇時間も一般企業の従業員より多いと言われている（高、2014）。

このような安定性と定着性によって、職業が公務員である親の方がさらに幼児の教育に対して関与する時間と気力があると考えられる。特に、中国の特別な社会状況において、公務員の親の方が、さらに教師に重視される暗黙の実情があり、「幼稚園との意思疎通」と「幼稚園事務への参加」に関与しやすい可能性もあると考えられる。

「親の教育背景」から見ると、高等教育を受けた親と比べると、非高等教育を受けた親の方が関与の程度が高いことが明らかであった。孫と尚(2013)の研究においては、中国における親の家庭教育の目的が親の教育背景の上昇に従い、「自分が年を取ったときに助けを得る」こと、「家族の血を引き継ぐ」こと、「家族とのつながりを強める」ことから離れていく傾向にあると主張されている。つまり、親の教育背景が高ければ高いほど、親は幼児の教育過程において自主性を重視し、幼児が将来に自分自身の価値を見つけることを望んでいる傾向があると言える。この先行研究は、本研究における結果の原因をある程度解釈しているかもしれない。

「家庭の年間収入」から見ると、中間収入の親の方が最も低い平均値を得ており、他の収入層の親と比べると、特に、「育児指導」、「親子交流」、「幼稚園との意思疎通」、「幼児の家庭学習への参加」の側面において親の関与の程度が低かった。

中国では、中間収入層は非常にストレス感に直面しているグループであり、労働時間も他の収入層より長く、精神的に余裕のないグループであると言われている（李、2016；蘇、2023）。によって、中間収入層の親は、幼児の教育に直接関与する時間やエネルギーが不足していることが本研究の結果と繋がる可能性が高く、将来の教育政策の策定や家庭教育に対する支援活動の際、中間収入層の親に関心を寄せることが必要だろう。

「家族形態」から見ると、核家族と比べると、非核家族の親の方が関与の程度が低いことが明らかであった。非核家族においては、育児の他にも養老などの心配があり、親の関心が幼児だけに集中できないことが主な原因であるかもしれない。また、非核家族では、親の不在など、祖父母や親戚と暮らしている幼児の場合では、親の関与の程度は非常に低くなるため、さらに支援を必要とされるグループであり、行政側と幼稚園側がさらなる重視

を払うべきだろう。

3. まとめ

3.1 結果の要約

本研究におけるアンケート調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与の水準が比較的に高いことが明らかとなった。特に「育児指導」、「幼児の家庭学習への参加」、「言語と認知的活動」の側面においてより高い親の関与の傾向を示し、「幼稚園事務への参加」において最も低い傾向を示していることが明らかとなった。

また、差異検定（独立サンプル T 検定と ANOVA 一元配置検定）の分析結果によって、人口統計学的変数に基づいた幼児の教育に対する親の関与においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。特に、「幼稚園の種類」、「居住地」、「親の職業」、「親の教育背景」、「家庭の年間収入」、「家族形態」といった変数も幼児の教育に対する親の関与に影響を与えることが明らかであった。

このような結果は、中国における幼児の教育に対する親の関与が多様な要因によって左右されており、特定の人口統計学的背景は幼児の教育に対する親の関与に顕著な影響を与えていることを示している。その中で、親の教育背景や家庭の経済状況は幼児の教育に対する親の関与の程度に、直接的な影響を及ぼす可能性が高く、これらの要因を考慮に入れた政策の策定や幼児教育プログラムの設計が求められると言えよう。

また、幼児の教育に対する親の関与に関する研究は、単に幼児の教育に対する親の関与の頻度や程度に注目するのではなく、その背後における動機、内容などの幼児の幼稚園適応及び発達に与える質的な影響を深く理解する必要がある。それについては、本研究の質的研究の方法によって明らかにする。

3.2 考察の要約

本章では、記述的統計分析と差異検定によって、中国における幼児の教育に対する親の関与の現状について検討した。研究の結果に基づき、以下のようなことが示唆されている。

第1に、中国における幼児の教育に対する親の関与の水準が比較的に高いことが明らかになった。「幼児の家庭学習への参加」、「言語と認知的活動」の側面においてより高い親の関与の傾向を示しているのに対して、「幼稚園との意思疎通」「幼稚園事務への参加」が最も低い傾向を示していることが明らかとなった。つまり、中国では親は、家庭と学校・幼稚園の提携の重要性を十分認識していない可能性があると考えられる。

幼稚園は、さらに家庭との連携活動を開発し、家庭と幼稚園の連携の重要性や幼児の発達が「認知的能力と学業成績だけではない」という視点を一層の親に浸透させる事が求められるだろう。

第2に、差異検定（独立サンプルT検定とANOVA一元配置検定）の分析結果によって、幼児の教育に対する親の関与においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。

例えば、「親の職業」から見ると、一般企業に勤める親が、公務員である親と比べると、より関与の程度が低かった。これは公務員の勤務条件が一般的に安定しており（高、2014）、幼児の教育に対する関与が比較的容易であることが原因であると考えられる。

「家族形態」の観点では、核家族と比べると、非核家族の親が幼児の教育に対する関与の程度がより低かった。つまり核家族家庭の親の関心が幼児に集中しやすい家庭環境ではないことを表していると考えられる。

このような特徴から、中国における幼児の教育に対する親の関与は、多様な要因に影響されており、各家庭の状況に応じた支援の提供と教育政策の柔軟な適用が求められるだろう。特に保育実践の面においては、職業が一般企業である家庭、非核家族家庭における幼児の教育に対する親の関与にさらなる関心を払い、より充実した家庭教育支援を行うべきであると言える。

第5章 中国における親子関係の現状

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に対する分析の前提として、記述的統計と差異検定の手法を利用し、中国における親子関係の現状を明らかにすることを主要の目的とした。

また、分析によって得られた結果に基づいて、中国における親子関係の現状の背後における原因及び問題点などについて考察し、中国における幼児の家庭教育と幼稚園教育の政策と実践上における示唆を提示した。

1. 調査結果

1.1 記述的統計による分析結果

中国における幼児の親子関係に関する記述的統計は表 6-1 のようである。具体的に言えば、親子関係における平均値は 3.95 であり、総値の 70% を上回っているため、中国における幼児の親子関係の水準が比較的に高いと言える。そして、「親密」の側面における平均値が 4.35 であり、「衝突」の側面における平均値が 2.44 であるため、「親密」の側面における平均値の方が大いに高いことが明らかであった。

表 6-1 親子関係に関する記述的統計 (サンプル数=1542)

| 側面 | 親密 | 衝突 | 親子関係総合 |
|------|------|------|-------------|
| 平均値 | 4.35 | 2.44 | 3.95 |
| 最大値 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| 標準偏差 | 0.54 | 0.84 | 0.52 |

1.2 差異検定による分析結果

本研究における差異検定により、中国における幼児に対する親子関係の各側面では、人口統計学的変数において、ある程度の差異を示していることが明らかとなった。

詳細なデータは表 6-2 のようである。

「幼児の性別」、「幼児の年齢」、「幼児園の種類」、「家族形態」では、親子関係の各側面において、統計学上の差異が全く見られなかった ($P>0.05$)。具体的に言えば、

「親の役割」では、総合的親子関係において顕著な差異が見られ ($P<0.01$)、父親と比べると母親の方がより高い点数を得ていることが分かった。そして、「衝突」の側面において顕著な差異も見られ ($P<0.01$)、母親と比べると、父親の方がより衝突の傾向を示していることが明らかであった。

「居住地」では、「親密」($P<0.05$) と「衝突」($P<0.01$) の側面では差異が見られたが、総合的親子関係において差異が見られなかった ($P>0.05$)。

「家庭内の子ども数」では、総合的親子関係において差異が見られないが ($P>0.05$)、「親密」($P<0.01$) の側面においては顕著な差異も見られ、子ども数が少なければ少ないほど、親子関係がより親密の傾向を示していることが明らかであった。

「親の職業」では、総合的親子関係において差異が見られないが ($P>0.05$)、「衝突」($P<0.05$) の側面においては差異が見られ、公務員の親の方がより衝突の傾向を示していることが明らかであった。

「親の教育背景」では、総合的親子関係において顕著な差異が見られ ($P<0.01$)、全ての側面においても顕著な差異が見られた ($P<0.01$)。高等教育を受けた親の方が、総合的親子関係においてより高い点数を得ていると同時により親密の傾向を示しており、非高等教育を受けた親はより衝突の傾向を示していることが明らかであった。

「家庭の年間収入」では、総合的親子関係において顕著な差異が見られ ($P<0.01$)、「衝突」($P<0.01$) の側面においても顕著な差異が見られた。低収入の親が親子関与において最も低い点数を得ており、最も高い衝突の傾向を示しているのに対し、中収入家庭の親が親子関与において最も高い点数を得ており、最も低い衝突の傾向を示していることが分かった。

表 6-2 親子関係に関する人口統計学的変数（平均値±標準偏差）

| 変数 | | サンプル数 | 親密 | 衝突 | 親子関係 総合 |
|----------|----------|-------|-----------|-----------|------------|
| 親の役割 | 父親 | 302 | 4.30±0.64 | 2.61±0.98 | 3.84±0.61 |
| | 母親 | 1240 | 4.36±0.51 | 2.40±0.80 | 3.98±0.50 |
| | <i>t</i> | | -1.486 | 3.428 | -3.538 |
| | <i>P</i> | | 0.138 | 0.001 | 0.000 |
| 幼児の性別 | 男性 | 757 | 4.32±0.53 | 2.43±0.79 | 3.95±0.51 |
| | 女性 | 785 | 4.37±0.54 | 2.46±0.89 | 3.96±0.54 |
| | <i>t</i> | | -1.896 | -0.707 | -0.409 |
| | <i>P</i> | | 0.058 | 0.480 | 0.682 |
| 幼児の年齢 | 3-4 歳 | 377 | 4.32±0.57 | 2.53±0.93 | 3.90±0.56 |
| | 4-5 歳 | 627 | 4.34±0.54 | 2.40±0.77 | 3.97±0.49 |
| | 5-6 歳 | 538 | 4.37±0.52 | 2.44±0.85 | 3.97±0.53 |
| | <i>F</i> | | 0.923 | 2.892 | 2.852 |
| | <i>P</i> | | 0.397 | 0.056 | 0.058 |
| 幼稚園の種類 | 私立 | 157 | 4.29±0.48 | 2.47±0.76 | 3.91±0.49 |
| | 公立 | 1385 | 4.35±0.55 | 2.44±0.85 | 3.96±0.53 |
| | <i>t</i> | | -1.386 | 0.441 | -1.067 |
| | <i>P</i> | | 0.166 | 0.659 | 0.286 |
| 居住地 | 非都市地域 | 433 | 4.40±0.58 | 2.55±1.01 | 3.92±0.60 |
| | 都市地域 | 1109 | 4.33±0.52 | 2.40±0.76 | 3.96±0.49 |
| | <i>t</i> | | 2.144 | 2.821 | -1.278 |
| | <i>P</i> | | 0.032 | 0.005 | 0.202 |
| 家庭内の子ども数 | 1 人 | 408 | 4.42±0.49 | 2.47±0.88 | 3.98±0.52 |
| | 2-3 人 | 1107 | 4.32±0.56 | 2.43±0.82 | 3.95±0.52 |
| | ≥4 人 | 27 | 4.29±0.44 | 2.68±0.94 | 3.80±0.55 |
| | <i>F</i> | | 5.145 | 1.426 | 1.559 |
| | <i>P</i> | | 0.006 | 0.241 | 0.211 |

| | | | | | |
|---------|----------|------|-----------|-----------|-----------|
| 親の職業 | 公務員 | 294 | 4.39±0.51 | 2.57±1.00 | 3.91±0.57 |
| | 一般企業 | 1248 | 4.34±0.54 | 2.42±0.80 | 3.96±0.51 |
| | <i>t</i> | | 1.623 | 2.480 | -1.347 |
| | <i>P</i> | | 0.105 | 0.014 | 0.179 |
| 親の教育背景 | 非高等教育 | 621 | 4.30±0.54 | 2.53±0.85 | 3.88±0.52 |
| | 高等教育 | 921 | 4.38±0.54 | 2.38±0.83 | 4.00±0.52 |
| | <i>t</i> | | -2.638 | 3.446 | -4.130 |
| | <i>P</i> | | 0.008 | 0.001 | 0.000 |
| 家庭の年間収入 | 0-10万 | 678 | 4.33±0.56 | 2.54±0.89 | 3.89±0.53 |
| | 10-30万 | 769 | 4.36±0.53 | 2.36±0.76 | 4.00±0.51 |
| | >30万 | 95 | 4.44±0.49 | 2.47±0.97 | 3.98±0.56 |
| | <i>F</i> | | 1.973 | 7.991 | 7.173 |
| | <i>P</i> | | 0.139 | 0.000 | 0.001 |
| 家族形態 | 核家族 | 1006 | 4.37±0.52 | 2.46±0.86 | 3.95±0.52 |
| | 非核家族 | 536 | 4.31±0.57 | 2.41±0.80 | 3.95±0.53 |
| | <i>t</i> | | 1.922 | 1.126 | 0.085 |
| | <i>P</i> | | 0.055 | 0.260 | 0.933 |

2. 調査結果の考察

2.1 中国における親子関係の傾向と課題

本研究のアンケート調査に関する結果によって、表 6-1 が示しているように、中国における幼児の親子関係は、比較的に良好的な傾向を表しており、平均値は総値の 70%を上回っていることが明らかであった。

そして、「親密」の側面における平均値が高く、「衝突」の側面における平均値が総値の 50%を下回っており、中国における幼児の親子関係が親密の傾向に位置していると言える。

上記のような発見は、先行研究の結果とも一致している (Popov & Llesanmi, 2015)。中国の文化背景において、家族は幼児の成長過程で重要な役割を果たし、親子関係の安定性が強調されている (Gruijters, 2017)。

親密的な親子関係は、幼児の心身の健康と社会的発展に積極的な影響を与えていることが多く言われている (Bowlby, 1969)。例えば、親との親密的な関係を築くことは、幼児の情緒的な安心感を促進し、健全な自尊心と情緒調整能力の構築を促進することができる (Ainsworth ら、2015)。さらに、親密的な親子関係は、幼児の学習達成とも密に関連しているとも言われている (Driscoll と Pianta, 2011)。

一方、親子関係における衝突は避けることができないものである。幼児の発達過程において、彼らは独立性と自主性を求めると同時に両親に依存しており、この矛盾が衝突を引き起こす可能性がある。親の期待と幼児の行動が一致しないと、衝突の可能性がさらに高くなる (Laursen と Collins, 2009)。特に、中国の伝統的な家族の価値観や行動様式は、家族間で摩擦や対立を引き起こしやすいことがよく言われている (Ho, 1994)。

しかし、過激的、頻繁的な衝突は、家族の雰囲気や家族間の関係に悪影響を及ぼす可能性が高いため (Grych と Fincham, 1990)、最終的に幼児の発達と成長を妨げてしまうかもしれない。したがって、親子関係における衝突を合理的な範囲まで減少させるために、教育政策を策定する際も、家庭教育を支援する実践の際も、家庭の調和を保つ暖かい価値観を親たちに宣伝するべきであると考えられる。

それに、親子関係が家族形態、親の育児スタイル、社会文化的背景幼児自身の発達など、様々な要素によって影響される可能性があることを常に念頭に置かなければならない。したがって、今後の研究において、これらの要素が親子関係に及ぼす影響を考慮し、健全な親子関係を促進するために、家庭に適切な支援と助言を提供する必要もあるだろう。

2.2 中国の親子関係における差異と課題

本研究のアンケート調査によって、中国における幼児の親子関係が、比較的に良好的であることが明らかとなったが、幼児自身、親及び幼稚園の特性によって様々な相違も存在していることが明らかであった。

「親の役割」から見ると、本研究における親子関係に対する差異分析によって、母親と比べると、父親の方がより衝突の傾向を示していることが明らかとなった。

伝統的な中国文化の背景においては、父親は比較的に厳格な教育方法を取り、規則や規律を重視している傾向がある（袁、2020）。同時に、幼児にとって、規則や規律の意識がまだ形成している途中であるため、父親の教育方法と衝突する可能性が高い。これは、「親の役割」において差異が存在している主な原因であるかもしれない。

家庭教育の中で、父親と母親の教育方法、価値観が統一していることが、幼児の発達と成長にとって非常に重要である（Brent&Thomas、1998；馬、2004）。そこで、良好的な親子関係を促進するために、父親と幼児の間の衝突に対して、さらに注目すべきだろう。各教育関係者は、父親に対して、さらに指導や支援する活動を行う必要がある。

例えば、父親との面談する時間を設けたり、父親向けの家庭教育トレーニングを実施したりする形式があげられる。特に、本研究の幼児の教育に対する親の関与に関する調査によって明らかとなったのは、「幼稚園事務への参加」では、父親の方の参加度がより低く、父親と交流する機会を増やすことが中国の幼児教育関係者にとって大きな課題であると言えよう。

「親の教育背景」から見ると、高等教育を受けた親の方がより親密的な親子関係を維持しているに対して、非高等教育を受けた親の親子関係がより衝突の傾向であった。それは、高等教育を受けることによって、親はより広く教育に関する知識や思想に触れることができ、幼児と調和的に関わるスキルと能力を得られていることに起因しているかもしれない。

また、教育を受けるのにしたがって、親の人生観、価値観に関する基準も変わり、幼児への期待や注目点も異なると言える。例えば、中国社会において、親の受けた教育が少なければ少ないほど、子どもの学習成績に注目する傾向があり、逆に受けた教育が多ければ多いほど、学習成績だけでなく、心身の健康状態、性格、道徳など、子どもの全面的な発達に注目することが研究によって明らかとなった（曹、2011）。

「家庭の年間収入」から見ると、低所得家庭における親子関係が最も衝突の傾向にあることが明らかであった。中国の社会経済の背景において、低所得家庭が様々な家庭教育の問題に直面し、その中で、親子関係が緊張していること（白と闫、2018）が、本研究の調査結果と一致している。

低所得家庭では、経済的な困難が親の育児のプレッシャーとストレスを増加させる可能性が高い。また、親子間の衝突は育児のプレッシャーと密接に関連しており、育児のプレッシャーが大きければ大きいほど、親子間の衝突も多くなる（Garciaら、2017）。このよう

な原因によって、低所得家庭の親にとって、良好的な親子関係を維持することは、他の収入層の親と比べると、より大きな課題であると言えよう。

中国における教育の公平と公正は、多くの場面において提唱、検討されている（陳、2023；伊、2023；李、2023）。近年、中国は社会経済において大きな成長と発展を遂げてきているが、教育の公正公平の面において、依然として大きな課題を抱えている。

本研究の親子関係に対する調査の隙間から見ると、低学歴、低収入家庭の親と幼児に対して、政府と教育機関のさらなる注目が必要であり、政策の傾斜と同時に、家庭訪問、育児講座、図書館などの教育資源の開放、親子運動クラブなどの活動を通して、比較的社会的弱者に位置している家庭の親子関係を促進しなければならないと考える。

「居住地」から見ると、都市地域と比べると、非都市地域の家庭における親子関係が衝突の傾向がより高かったことが明らかであった。

中国の都市地域と非都市地域では、近年、非都市地域の経済発展によって、昔のような大きな格差は縮小してきているが、様々な格差自体がまだ存在している。例えば、非都市地域における住民の学歴と収入がより低いことが言われている（祝ら、2023；刑、2021）。また、非都市地域における親は育児のスタイルはより専制的な態度をとり、子どもを励ます方法が少なく利用されることもある研究によって明らかとなった（王、2011）。

このように、非都市地域の家庭における親子関係がより高い衝突の傾向を示し、行政側は変わらずに都市地域と非都市地域における家庭教育資源、学校教育資源及び経済発展の公平性を図り続けるべきである。

「親の職業」から見ると、「衝突」の側面において、一般企業の親と比べると、公務員の親の方がより衝突の傾向を示していることが明らかとなった。中国における公務員家庭は、より多くの教育資源や家庭の文化資本を持っている可能性があり、自分の子どもの教育に対してもより高い期待を持っており、厳しく要求する可能性が高いことが衝突を招く原因の一つであるかもしれない。中国における公務員家庭の幼児の教育に関する研究は非常に少ないため、その原因を探究するために、今後のさらなる研究、特に縦断的研究が求められるだろう。

「家庭内の子ども数」から見ると、幼児の兄弟の数が増えることにしたが、親子関係における親密の傾向が低くなっていくことが明らかであった。それは、家庭内の子どもが多ければ多いほど、親が各子どもと触れ合う時間が少なくなり、子どもに対する関心も分散することが大きな原因であるかもしれない。

また、筆者は別の研究において、親の育児自己効力感（Parenting Self-efficacy）が親子関係に正の影響を与えており、それに幼児の兄弟が多ければ多いほど、親の育児自己効力感が低いことを明らかにした。

そこで、「きょうだいがいる家庭」の親子関係に対して、行政側も幼児園側もより多く関心を払い、それらの親と幼児に向けてさらなる支援を行うべきだろう。例えば、幼児園において、親と幼児が触れ合う活動を開発・提供し、幼児の兄弟も活動の対象にし、家庭全

体の関係の改善を図ることがあげられる。

3. まとめ

3.1 結果の要約

本研究におけるアンケート調査によって、中国における幼児の親子関係が比較的親密の傾向にあることが明らかとなった。

また、差異検定（独立サンプルT検定とANOVA一元配置検定）の分析結果によって、親子関係においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。特に、「親の役割」、「親の教育背景」、「家庭の年間収入」、「居住地」、「親の職業」、「家庭内の子ども数」といった変数も親子関係に影響を与えることが明らかであった。

このような結果は、中国における親子関係が多様な要因によって左右されており、特定の人口統計学的背景は親子関係に顕著な影響を与えていることを示している。その中で、親の役割、家族の構成及び家庭の経済状況が親子関係に直接的な影響を及ぼす可能性が高く、これらの要因を考慮に入れた政策の策定や幼児教育プログラムの設計が求められると言えよう。

3.2 考察の要約

本章では、記述的統計分析と差異検定によって、中国における親子関係の現状について検討した。研究の結果に基づき、以下のようなことが示唆されている。

第1に、幼児の親子関係が比較的「親密」（親子が互いに持っている感情的な絆の状況、子どもが親から安心感を得られる度合い、および親が子どものニーズに応じて情緒的なサポートや指導を提供する能力など）の傾向を示していることが明らかであった。

第2に、差異検定（独立サンプルT検定とANOVA一元配置検定）の分析結果によって、親子関係においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。

例えば、母親と比べると、父親の方は親子関係がより「衝突」（親と子どもの間における感情的な摩擦、共感の欠如、互いの行為に対する不理解、親の期待と子どもの現状のズレなど）の傾向が見られた。これは、伝統的な中国文化の背景においては、父親が比較的厳格な教育方法を取り（袁、2020）、規則や規律を重視している傾向があることに起因しているかもしれない。家庭教育の中で、父親と母親の教育方法、価値観が同じであることが、幼児の発達と成長にとって重要である（Brent&Thomas、1998；馬、2004）という研究もあり、今後更に父親に対して、さらに幼児理解やかかわりの支援をする必要がある。

そして、低収入家庭の親、非高等教育を受けた親、非都市地域の親は、親子関係がより「衝突」的な傾向が見られた。これは、経済的な困難が親の育児のプレッシャーとストレスを増加させること、獲得である教育資源がより少ないことに起因している可能性がある（白と闫、2018；Garciaら、2017）。そこで、低収入家庭、低学歴、非都市地域の親と幼児

に対して、家庭との連携の際など特に注目することが必要だろう。

また、幼児のきょうだいの数が増えることにしたが、親子関係における「親密」の傾向が低くなっていくことが明らかであった。それは、家庭内の子どもが多ければ多いほど、親が各子どもと触れ合う時間が少なくなり、子どもに対する関心も分散されることが大きな原因であるかもしれない。

中国の「一人っ子政策」が中止されたため、「きょうだいを有する家庭」も増えつつある。このような家庭における親子関係に対して、幼稚園側もより多く関心を払い、それらの親と幼児に向けてさらなる支援を行うべきだろう。

第6章 中国における幼児の幼児園適応の現状

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性に対する分析の前提として、記述的統計と差異検定の手法を利用し、中国における幼児の幼児園適応の現状を明らかにすることを主要の目的とした。

また、分析によって得られた結果に基づいて、中国における幼児の幼児園適応の現状の背後における原因及び問題点などについて考察し、中国における幼児の家庭教育と幼児園教育の政策と実践上における示唆を提示した。

1. 調査結果

1.1 記述的統計による分析結果

中国における幼児の幼児園適応に関する記述的統計分析の結果は表7-1のようである。具体的に言えば、幼児の幼児園適応における平均値は4.20であり、総値の80%を上回っており、5つの全ての側面の平均値は4.06～4.47であるため、中国における幼児の幼児園適応の水準が比較的に高いと言える。

そして、その中において、「認知とコミュニケーション」(4.47)の側面における平均値が最も高く、「自己ケアと感情的な成熟」(4.06)の側面における平均値が最も低いことが明らかであった。さらに、「社会的能力」(4.25)の側面における平均値も比較的に高く、それと「認知とコミュニケーション」の2つの側面が総合的の幼児の幼児園適応の平均値を上回っていることが明らかであった。それに対して、「自己ケアと感情的な成熟」、「学びの志向」(4.09)、「教室のルール」(4.15)の3つの側面の平均値が幼児の幼児園適応の平均値を下回っていることが明らかであった。

表7-1 幼児の幼児園適応に関する記述的統計

| 側面 | 自己ケア と感情的 な成熟 | 認知とコ ミュニケ ーション | 社会的能 力 | 学びの志 向 | 教室のル ール | 幼児の幼 児園適応 総合 |
|------|---------------------|----------------------|-----------|-----------|------------|--------------------|
| 平均値 | 4.06 | 4.47 | 4.25 | 4.09 | 4.15 | 4.20 |
| 最大値 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 | 5.00 |
| 標準偏差 | 0.86 | 0.60 | 0.67 | 0.71 | 0.67 | 0.52 |

1.2 差異検定による分析結果

本研究の差異検定によって、中国における幼児の幼稚園適応の各側面では、人口統計学的変数において、様々な程度の差異が存在していることが明らかとなった。詳細なデータは表 7-2 のようである。具体的に言えば、

「親の役割」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において顕著な差異が見られ ($P < 0.01$)、父親が調査に参加した幼児と比べると、母親が調査に参加した幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「自己ケアと感情的な成熟」 ($P < 0.01$)、「認知とコミュニケーション」 ($P < 0.05$)、「社会的能力」 ($P < 0.05$) の側面において統計学上の差異が見られ、母親が調査に参加した幼児の方がより高い点数を得ていることが明らかであった。

「幼児の性別」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られ ($P < 0.05$)、男性と比べると、女性の幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「認知とコミュニケーション」 ($P < 0.05$)、「学びの志向」 ($P < 0.01$)、「教室のルール」 ($P < 0.01$) の側面において、統計学上の差異が見られ、女性の幼児の方がより高い点数を得ていることが明らかであった。

「幼児の年齢」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において顕著な差異が見られ ($P < 0.01$)、幼児の年齢が増えれば増えるほど、幼稚園適応において得られた点数が高くなることが明らかであった。そして、全ての側面においても、顕著な差異が見られ ($P < 0.01$)、総合的幼児の幼稚園適応と同じような傾向が明らかとなった。

「幼稚園の種類」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られ ($P < 0.05$)、私立幼稚園の幼児と比べると、公立幼稚園の幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「社会的能力」 ($P < 0.05$)、「学びの志向」 ($P < 0.01$)、「教室のルール」 ($P < 0.01$) の側面において、統計学上の差異が見られ、公立幼稚園の幼児の方がより高い点数を得ていることが明らかであった。

「居住地」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られ ($P < 0.05$)、都市地域に在住している幼児と比べると、非都市地域に在住している幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「社会的能力」 ($P < 0.01$)、「学びの志向」 ($P < 0.01$)、「教室のルール」 ($P < 0.01$) の側面において統計学上の差異が見られ、非都市地域に在住している幼児の方がより高い点数を得ていることが分かった。

「家庭内の子ども数」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られないが ($P > 0.05$)、「認知とコミュニケーション」 ($P < 0.01$) の側面においては顕著な差異が見られた。家庭内の子ども数が少なければ少ないほど、幼児の点数が高くなる傾向が明らかとなった。

「親の職業」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られ ($P < 0.05$)、一般企業の親の幼児と比べると、公務員の親の幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「社会的能力」 ($P < 0.01$)、「学びの志向」 ($P < 0.01$)、「教室のルール」 ($P < 0.01$) の側面において統計学上の差異が見られ、公務員の親の幼児の方がより高い点数を得ていることが明

らかであった。

「親の教育背景」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において顕著な差異が見られ (P<0.01)、非高等教育を受けた親の幼児と比べると、高等教育を受けた親の幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「認知とコミュニケーション」(P<0.01)、「社会的能力」(P<0.05)、「学びの志向」(P<0.05)の側面において、高等教育を受けた親の幼児の方がより高い点数を得ていることが明らかであった。

「家庭の年間収入」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られないが (P>0.05)、「認知とコミュニケーション」(P<0.01)の側面において顕著な差異が見られた。家庭の年間収入が高ければ高いほど、幼児の「認知とコミュニケーション」の側面において得られた点数が高くなる傾向が明らかであった。

「家族形態」から見ると、総合的幼児の幼稚園適応において差異が見られ (P<0.05)、非核家族の幼児と比べると、核家族の幼児の方がより高い点数を得ていた。そして、「社会的能力」(P<0.05)及び「教室のルール」(P<0.01)の側面において統計学上の差異が見られ、核家族の幼児の方がより高い点数を得ていることが明らかであった。

表 7-2 幼児の幼稚園適応に関する人口統計学的変数 (平均値±標準偏差)

| 変数 | | サンプル数 | 自己ケアと感情的な成熟 | 認知とコミュニケーション | 社会的能力 | 学びの志向 | 教室のルール | 幼児の幼稚園適応総合 |
|-------|----------|-------|-------------|--------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 親の役割 | 父親 | 302 | 3.88±1.02 | 4.40±0.66 | 4.18±0.75 | 4.05±0.78 | 4.09±0.77 | 4.12±0.59 |
| | 母親 | 1240 | 4.10±0.81 | 4.49±0.58 | 4.27±0.64 | 4.09±0.69 | 4.17±0.64 | 4.23±0.50 |
| | <i>t</i> | | -3.548 | -2.087 | -1.975 | -0.801 | -1.754 | -2.840 |
| | <i>P</i> | | 0.000 | 0.038 | 0.049 | 0.424 | 0.080 | 0.005 |
| 幼児の性別 | 男性 | 757 | 4.08±0.81 | 4.44±0.60 | 4.22±0.67 | 4.02±0.71 | 4.10±0.67 | 4.17±0.52 |
| | 女性 | 785 | 4.04±0.90 | 4.51±0.59 | 4.28±0.66 | 4.14±0.70 | 4.20±0.66 | 4.24±0.53 |
| | <i>t</i> | | 0.905 | -2.370 | -1.751 | -3.349 | -3.030 | -2.365 |
| | <i>P</i> | | 0.365 | 0.018 | 0.080 | 0.001 | 0.002 | 0.018 |

| | | | | | | | | |
|-------------------|-----------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 幼児の 年齢 | 3-4 歳 | 377 | 3.82± 0.96 | 4.32± 0.65 | 4.11± 0.73 | 3.98± 0.73 | 4.00± 0.69 | 4.05± 0.55 |
| | 4-5 歳 | 627 | 4.09± 0.80 | 4.51± 0.55 | 4.26± 0.67 | 4.08± 0.71 | 4.16± 0.66 | 4.22± 0.50 |
| | 5-6 歳 | 538 | 4.19± 0.81 | 4.53± 0.59 | 4.34± 0.60 | 4.17± 0.68 | 4.25± 0.65 | 4.30± 0.50 |
| | <i>F</i> | | 22.755 | 15.811 | 14.665 | 8.719 | 15.518 | 27.094 |
| | <i>P</i> | | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 | 0.000 |
| 幼稚園 の種類 | 私立 | 157 | 4.01± 0.84 | 4.55± 0.63 | 4.14± 0.73 | 3.90± 0.75 | 3.97± 0.65 | 4.11± 0.52 |
| | 公立 | 1385 | 4.07± 0.86 | 4.46± 0.59 | 4.26± 0.66 | 4.11± 0.70 | 4.17± 0.67 | 4.21± 0.52 |
| | <i>t</i> | | -0.715 | 1.735 | -2.215 | -3.448 | -3.717 | -2.275 |
| | <i>P</i> | | 0.475 | 0.083 | 0.027 | 0.001 | 0.000 | 0.023 |
| 居住地 | 非都市 地域 | 433 | 4.01± 0.95 | 4.46± 0.62 | 4.32± 0.67 | 4.19± 0.73 | 4.26± 0.69 | 4.25± 0.55 |
| | 都市地 域 | 1109 | 4.08± 0.82 | 4.48± 0.59 | 4.22± 0.66 | 4.05± 0.70 | 4.11± 0.66 | 4.19± 0.51 |
| | <i>t</i> | | -1.267 | -0.541 | 2.634 | 3.442 | 3.747 | 2.018 |
| | <i>P</i> | | 0.205 | 0.589 | 0.009 | 0.001 | 0.000 | 0.044 |
| 家庭内 の子ども も数 | 1 人 | 408 | 4.00± 0.91 | 4.56± 0.58 | 4.28± 0.70 | 4.08± 0.75 | 4.14± 0.69 | 4.21± 0.53 |
| | 2-3 人 | 1107 | 4.08± 0.83 | 4.44± 0.60 | 4.24± 0.65 | 4.08± 0.70 | 4.15± 0.66 | 4.20± 0.52 |
| | ≥4 人 | 27 | 4.06± 1.13 | 4.37± 0.64 | 4.43± 0.51 | 4.34± 0.58 | 4.41± 0.54 | 4.32± 0.44 |
| | <i>F</i> | | 1.295 | 5.833 | 1.578 | 1.812 | 2.071 | 0.767 |
| | <i>P</i> | | 0.274 | 0.003 | 0.207 | 0.164 | 0.126 | 0.465 |

| | | | | | | | | |
|---------|----------|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 親の職業 | 公務員 | 294 | 4.03± 0.93 | 4.53± 0.57 | 4.34± 0.70 | 4.20± 0.71 | 4.24± 0.66 | 4.27± 0.52 |
| | 一般企業 | 1248 | 4.07± 0.84 | 4.46± 0.60 | 4.23± 0.65 | 4.06± 0.71 | 4.13± 0.67 | 4.19± 0.52 |
| | <i>t</i> | | -0.769 | 1.874 | 2.593 | 3.154 | 2.572 | 2.341 |
| | <i>P</i> | | 0.442 | 0.061 | 0.010 | 0.002 | 0.010 | 0.019 |
| 親の教育背景 | 非高等教育 | 621 | 4.01± 0.91 | 4.36± 0.63 | 4.21± 0.68 | 4.03± 0.71 | 4.15± 0.68 | 4.15± 0.54 |
| | 高等教育 | 921 | 4.09± 0.81 | 4.54± 0.57 | 4.28± 0.65 | 4.12± 0.70 | 4.15± 0.66 | 4.24± 0.51 |
| | <i>t</i> | | -1.789 | -5.726 | -2.239 | -2.408 | -0.131 | -3.177 |
| | <i>P</i> | | 0.074 | 0.000 | 0.025 | 0.016 | 0.896 | 0.002 |
| 家庭の年間収入 | 0-10万 | 678 | 4.04± 0.87 | 4.41± 0.60 | 4.26± 0.65 | 4.10± 0.70 | 4.16± 0.68 | 4.19± 0.53 |
| | 10-30万 | 769 | 4.09± 0.82 | 4.52± 0.59 | 4.24± 0.67 | 4.07± 0.70 | 4.13± 0.66 | 4.21± 0.52 |
| | >30万 | 95 | 4.02± 1.00 | 4.55± 0.61 | 4.33± 0.77 | 4.17± 0.79 | 4.27± 0.68 | 4.27± 0.58 |
| | <i>F</i> | | 0.759 | 7.666 | 0.914 | 1.104 | 2.086 | 0.979 |
| | <i>P</i> | | 0.468 | 0.000 | 0.401 | 0.332 | 0.125 | 0.376 |
| 家族形態 | 核家族 | 1006 | 4.08± 0.87 | 4.46± 0.61 | 4.28± 0.66 | 4.11± 0.70 | 4.19± 0.65 | 4.22± 0.52 |
| | 非核家族 | 536 | 4.03± 0.84 | 4.49± 0.58 | 4.20± 0.68 | 4.04± 0.72 | 4.09± 0.70 | 4.17± 0.53 |
| | <i>t</i> | | 0.997 | -0.776 | 2.256 | 1.948 | 2.780 | 1.972 |
| | <i>P</i> | | 0.319 | 0.438 | 0.024 | 0.052 | 0.006 | 0.049 |

2. 調査結果の考察

2.1 中国における幼児の幼稚園適応の傾向と課題

本研究のアンケート調査に関する結果によって、表 7-1 が示しているように、中国における幼児の幼稚園適応が、比較的に高い水準に位置しており、5つの全ての側面の平均値は、総値の80%を上回っていることが明らかであった。特に、「認知とコミュニケーション」の側面における平均値が最も高いことが明らかであった。

一方、「認知とコミュニケーション」の側面と比べると、「自己ケアと感情的な成熟」の側面は5つの側面の中において、幼児たちは最も低い平均値を得ていることが本研究の調査結果によって明らかとなった。これは、幼児の情緒的、感情的な発達面に対して、彼らはさらなる支援と指導を必要としている可能性を示唆している。保育者も、親も、幼児の発達過程において、幼児の情緒的適応に対して、さらに重視しながら、適切な支援と指導を提供すべきであると考ええる。

そして、「自己ケアと感情的な成熟」の側面における標準偏差値が最も高いことが本研究の調査によって明らかとなった。この結果は、「自己ケアと感情的な成熟」の側面における幼児の適応の水準には個人差が大きいことを意味している。

その原因について、幼児の個人の発達、親子関係、家族形態、社会的、文化的背景など、様々な要素に左右される可能性がある。例えば、一部の中国の伝統的な家庭において、親は権威と主導の立場に位置し、幼児は親が定めた規範に従うことが推奨され、また、過保護的な傾向の家庭も存在し、このような家庭において、幼児が独立して問題を解決したり、自分の意見を表現したりする機会が欠けているため、自己ケアと感情的な成熟面の適応能力が低下する可能性があるかもしれない。

中国における幼児の幼稚園適応が高い水準を示しているが、「自己ケアと感情的な成熟」面において、親も保育者も更なる注意を払う必要があると考ええる。特に、幼児に自主的に問題解決に挑戦し、自主的に試行錯誤する機会を与え、自立できる能力を身に付けさせることが重要である。行政側も、幼稚園側も、このような家庭の文化的環境を整え、科学的な家庭教育理念の宣伝に引き続き力を入れるべきだろう。

2.2 中国の幼児の幼稚園適応における差異と課題

本研究のアンケート調査によって、中国における幼児の幼稚園適応が、比較的に高い水準に位置していることが明らかとなったが、幼児自身、親及び幼稚園の特性によって様々な差異が存在していることも明確であった。具体的に言えば、

「親の役割」から見ると、父親が調査に参加した幼児と比べると、母親が調査に参加した幼児の方がより幼稚園適応の水準が高かった。特に、「自己ケアと感情的な成熟」、「認知とコミュニケーション」、「社会的能力」の側面において差異が明確であった。

中国文化の背景における研究によると、中国の父親が幼児の教育に関与・参加する際

に、幼児の精神的な面より、物質的な面に関心を払い、幼児の情緒や性格への関心が低いなどの問題が存在している（張と辛、2023；郭、2019）。同時に、中国における父親の育児・教育への参加不足が比較的深刻であることが指摘されている（楊、2017）。

また、本研究のアンケート調査に参加した親の中で、父親は20%未満であり、幼児期の子どもの教育における父親の参加度は、依然として向上される余地が大きいことが窺えるだろう。父親が子どもの教育に参加することが、子どもの発達と成長にとって重要であることは広く知られており、育児休暇の普及、正しい教育価値観の父親への宣伝、父親向けの幼児園と家庭との連携などを通して、中国の父親の家庭教育への参加度及びその質を向上させることは、中国における教育行政側と幼児園などの機関側にとって、解決しなければならない課題であると言えよう。

「**幼児の性別**」から見ると、男性の幼児と比べると、女性の幼児の方が幼児園適応の水準が高く、特に「認知とコミュニケーション」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面において、男性の幼児を上回っていた。幼児期から学童期において、女性の学業成績、社会的能力及び規則的意識が、男性よりその発達がより速いということが多くの研究によって明らかとなった（Archer、2022；Chen、2010；王、2018）。

一方、男性教師が男性児童の学業成績に正の影響を与えていることが主張されている（Dee、2007）。中国の幼児園現場において、男性の保育者は極少数であり、今後、男性保育者の養成、増設及び在職トレーニングなどを強化し、男性と女性の幼児の発達をバランスよく図ることが提言されるべきだろう。

「**幼児園の種類**」から見ると、公立幼児園と比べると、私立幼児園における幼児の幼児園適応の水準の方が低く、特に「社会的能力」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面において、差異が明確であった。

多くの研究によると、中国においては、公立幼児園の教師の専門度は、私立幼児園より高く、財政的、政策的にもより優遇されていることが明らかとなっている（邵と張、2017；金と黄、2023）。また、本研究のアンケート調査によって、公立幼児園の親と比べると、私立幼児園の親が幼児の教育に対する親の関与において比較的低い程度であることが明らかであった。

このように、幼児の幼児園適応の水準が「公」と「私」の間にギャップが生じている可能性が窺えるだろう。教育の公平公正の立場において、政策の策定の際、私立幼児園に対してさらなる考慮が必要であると提唱しよう。

「**家庭内の子ども数**」から見ると、家庭内の子ども数が少なければ少ないほど、幼児の認知とコミュニケーションの水準が高くなることが明らかであった。

中国では、家庭の子ども数が子どもの学業水準と負の相関性を示していることが様々な研究によって明らかとなった。これは、家庭における教育資源の分配がより希薄になることが主な理由である（韦と任、2023；陶、2019）。家庭の教育資源とは、親の時間、関心、物質的支援などが含まれており、子どもの数が増えると、これらの資源はより多くの子ども

もに分けられざるをえず、結果として各子どもが受けられる分が少なくなってしまう。

本研究の調査結果と合わせながら、親と各教育関係者にとって、家庭における教育の資源をより均等的に分配する重要性が強調されていると言えよう。特に、「きょうだいがいる家庭」に対して、地域の教育プロジェクト、学校支援サービス、家庭教育ガイダンスなどの方法を開発するべきだろう。

また、近年の中国社会では、急速の少子高齢化問題を迎えるようになってきており、上記のような教育資源の分配の改善を図らないと、今の中国が直面している少子化問題の解決も一層難しくなると考える。

「親の職業」から見ると、公務員の親の幼児と比べると、一般企業の親の幼児の方は幼稚園適応の水準がより低く、特に「社会的能力」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面における差異が顕著であった。

中国では、公務員の収入水準は一般企業の職員より高く、安定性も優れているため、就職の「人気選択肢」であるが、社会再分配の公正に巡って多く問題視されている（林、2012；呂と台、2021）。経済的資本と文化的資本は、親から子への世代間移行を通して、子どもの発達や学業達成に影響を与えることがよく知られている（Pierreら、1978；郭、2016）。これは、中国の公務員家庭における幼児の幼稚園適応の水準がより高い原因の一つであるかもしれない。

つまり、ここから見ても、中国における「公」と「私」の間には依然として大きなギャップが存在している可能性があると言えよう。教育政策の立案者や各関係者としては、一般企業の家庭における幼児にさらに関心に向け、様々な支援・指導活動を通して、社会的再分配によって生じた教育の不正を解消すべきだろう。

「親の教育背景」から見ると、高等教育を受けた親の幼児と比べると、非高等教育を受けた親の幼児の方は幼稚園適応の水準がより低く、特に「認知とコミュニケーション」、「社会的能力」、「学びの志向」の側面における差異が顕著であった。

その差異は、家庭内における知識の伝承によって生まれた可能性がある。子どもの発達と成長にとって、家族間における知識の伝承が大きな役割を果たし（O' Buachain、2021；Matthews & Gallo、2011）、高等教育を受けた親は、比較的知識の伝承に関してより多くの資源とメリットを持っている。これは、上記のような結果が生まれた要因の一つだろう。

そこで、低学歴の親への教育支援を強化し、効果的な教育方法を彼らに提示することを通じて、幼児の発達と成長を促進すべきだろう。

「家族形態」から見ると、核家族の幼児と比べると、非核家族の幼児の方はより幼稚園適応の水準が低く、特に「社会的能力」及び「教室のルール」の側面における差異が顕著であった。中国における非核家族は、家庭教育においてより多くの問題を抱えていることはよく言われている（景、2019；唐、2020）。

例えば、離婚によって片親が欠けること、親の出稼ぎ労働による親の長期不在、拡張家

族による養老と育児の両立の困難などがあげられる。

そこで、非核家族の親と幼児に対して、より多くの教育資源を提供するべきであり、地域社会や幼稚園を架け橋とし、それぞれの家庭の状況や幼児のニーズに応じながら、より個別化された支援を提供することを通して、行政側は親と幼児と共に、家庭形態の変化から生じた困難を解決するべきである。

3. まとめ

3.1 結果の要約

本研究におけるアンケート調査によって、中国における幼児の幼稚園適応の水準が比較的高いことが明らかとなった。しかし、比較的に言えば、「認知とコミュニケーション」の側面が最も高いのに対し、「自己ケアと感情的な成熟」の側面が最も低かった。

また、差異検定（独立サンプル T 検定と ANOVA 一元配置検定）の分析結果によって、幼児の幼稚園適応において、様々な差異が存在していることが明らかとなった。特に、「親の役割」、「幼児の性別」、「幼稚園の種類」、「居住地」、「家庭内の子ども数」、「親の職業」、「親の教育背景」、「家族形態」といった変数も幼児の幼稚園適応に影響を与えることが明らかであった。

これらの結果は、中国における幼児の幼稚園適応が多様な要因によって左右されており、特定の人口統計学的背景は幼児の幼稚園適応に顕著な影響を与えていることを示している。その中で、幼稚園の状況、家庭の状況が幼児の幼稚園適応に直接的な影響を及ぼす可能性が高く、これらの要因を考慮に入れた政策の策定や幼児教育プログラムの設計が求められると言えよう。

3.2 考察の要約

本章では、記述的統計分析と差異検定によって、中国における幼児の幼稚園適応の現状について検討した。研究の結果に基づき、以下のようなことが示唆されている。

第 1 に、中国における幼児の幼稚園適応は、比較的に高い水準に位置していることが明らかとなった。しかし、「自己ケアと感情的な成熟」の側面では、幼児たちは比較的に最も低かったことも明らかであった。これは、幼児の情緒的、感情的な発達面に対して、彼らはさらなる支援と指導を必要としている可能性を示唆している。保育者も、親も、幼児の発達過程において、幼児の情緒的適応に対して、さらに重視しながら、適切な支援と指導を提供すべきであると考えられる。

第 2 に、差異検定（独立サンプル T 検定と ANOVA 一元配置検定）の分析結果によって、人口統計学的変数に基づいた幼児の幼稚園適応においては、様々な差異が存在していることが明らかとなった。

例えば、公立幼稚園と比べると、私立幼稚園の幼児の幼稚園適応のレベルが低く、特に

「社会的能力」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面において、差異が明らかとなった。これは、中国においては、公立幼稚園の教師の専門性が、私立幼稚園のそれよりも高く、財政的、政策的にもより優遇されていること（邵と張、2017；金と黄、2023）に起因している可能性がある。

公務員の親の幼児と比べると、一般企業の親の幼児の方は幼稚園適応の水準がより低く、特に「社会的能力」、「学びの志向」、「教室のルール」の側面における差異が顕著であった。中国における公務員家庭は、経済的資本と文化的資本をより多く有しており、親から子への世代間移行を通して、幼児の発達や学業達成に影響を与えること（Pierreら、1978；郭、2016）に起因している可能性があると考えられる。

中国における幼児の幼稚園適応は「公」と「私」の間にギャップがつねに存在している可能性がここからも窺える。そのギャップを埋めるために、私立幼稚園及び一般企業の家庭に対しては、教育の公平公正の立場から、配慮した政策が必要となると考える。

第7章 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と 幼児の幼児園適応の関係

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性について分析し、特に親子関係が親の関与と幼児の幼児園適応の間における媒介役割を明らかにすることを主要の目的とした。

また、分析によって得られた結果に基づいて、中国における幼児の家庭教育と幼児園教育の政策と実践上における示唆を提示したい。

1. 調査結果

1.1 相関分析による調査結果

本研究では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応に対して、Pearson 相関分析によって、以下のような結果が明らかとなった。

第1に、幼児の教育に対する親の関与と親子関係と有意且つ正に関連していることが明らかであった ($R=0.269$ 、 $P<0.01$)。

第2に、幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼児園適応と有意且つ正に関連していることが明らかであった ($R=0.471$ 、 $P<0.01$)。

第3に、親子関係と幼児の幼児園適応と有意且つ正に関連していることが明らかであった ($R=0.514$ 、 $P<0.01$)。

具体的なデータは、表8-1 のようである

表 8-1 幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応に関する相関分析

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
|------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 1. 親の関与 | 1.000 | 0.471 ** | 0.269 ** | -0.041 | 0.011 | 0.080 ** | 0.118 ** | -0.174 ** | 0.024 | -0.057 * | -0.082 ** | -0.062 * | -0.096 ** |
| 2. 幼児の幼稚園 適応 | 0.471 ** | 1.000 | 0.514 ** | 0.080 ** | 0.060 * | 0.179 ** | 0.058 * | -0.051 * | 0.001 | -0.060 * | 0.081 ** | 0.031 | -0.050 * |
| 3. 親子関係 | 0.269 ** | 0.514 ** | 1.000 | 0.101 ** | 0.010 | 0.048 | 0.027 | 0.036 | -0.036 | 0.037 | 0.105 ** | 0.085 ** | -0.002 |
| 4. 親の役割 | -0.041 | 0.080 ** | 0.101 ** | 1.000 | 0.035 | 0.012 | -0.047 | -0.057 * | 0.047 | 0.147 ** | -0.075 ** | -0.003 | -0.058 * |
| 5. 幼児の性別 | 0.011 | 0.060 * | 0.010 | 0.035 | 1.000 | -0.034 | 0.068 ** | 0.036 | 0.036 | -0.014 | -0.002 | -0.005 | 0.011 |
| 6. 幼児の年齢 | 0.080 ** | 0.179 ** | 0.048 | 0.012 | -0.034 | 1.000 | 0.091 ** | -0.030 | 0.155 ** | -0.024 | -0.071 ** | -0.060 * | -0.052 * |
| 7. 幼稚園の種類 | 0.118 ** | 0.058 * | 0.027 | -0.047 | 0.068 ** | 0.091 ** | 1.000 | 0.128 ** | 0.265 ** | -0.027 | -0.163 ** | -0.259 ** | -0.065 * |
| 8. 居住地 | -0.174 ** | -0.051 * | 0.036 | -0.057 * | 0.036 | -0.030 | 0.128 ** | 1.000 | 0.022 | 0.035 | 0.114 ** | 0.075 ** | 0.059 * |
| 9. 家庭内の子ども も数 | 0.024 | 0.001 | -0.036 | 0.047 | 0.036 | 0.155 ** | 0.265 ** | 0.022 | 1.000 | 0.008 | -0.246 ** | -0.157 ** | -0.060 * |

| | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-------------|--------------|--------|--------------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 10. 親の職業 | -0.057 * | -0.060 * | 0.037 | 0.147 ** | -0.014 | -0.024 | -0.027 | 0.035 | 0.008 | 1.000 | -0.153 ** | -0.105 ** | 0.001 |
| 11. 親の教育背景 | -0.082 ** | 0.081 ** | 0.105 ** | -0.075 ** | -0.002 | -0.071 ** | -0.163 ** | 0.114 ** | -0.246 ** | -0.153 ** | 1.000 | 0.266 ** | 0.130 ** |
| 12. 家庭の年間収入 | -0.062 * | 0.031 | 0.085 ** | -0.003 | -0.005 | -0.060 * | -0.259 ** | 0.075 ** | -0.157 ** | -0.105 ** | 0.266 ** | 1.000 | 0.095 ** |
| 13. 家族形態 | -0.096 ** | -0.050 * | -0.002 | -0.058 * | 0.011 | -0.052 * | -0.065 * | 0.059 * | -0.060 * | 0.001 | 0.130 ** | 0.095 ** | 1.000 |

(**P<0.01, *P<0.05)

1.2 回帰分析による調査結果

本研究では、線形回帰分析に通じて、以下のような結果が明らかとなった。

第1の回帰モデルにおいて、幼児の教育に対する親の関与が独立変数であり、親子関係が従属変数であり、幼児の教育に対する親の関与が親子関係を有意且つ正に予測している ($\beta = 0.299$ 、 $P < 0.01$) ことが明らかとなった。

第2の回帰モデルにおいて、幼児の教育に対する親の関与が独立変数であり、幼児の幼児園適応が従属変数であり、幼児の教育に対する親の関与が幼児の幼児園適応を有意且つ正に予測していることが明らかとなった ($\beta = 0.475$ 、 $P < 0.01$)。

第3の回帰モデルにおいて、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が独立変数であり、幼児の幼児園適応が従属変数である。親子関係が幼児の幼児園適応を有意且つ正に予測している ($\beta = 0.398$ 、 $P < 0.01$) と同時に、親子関係を幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼児園適応の間に投入することによって、幼児の教育に対する親の関与が幼児の幼児園適応に与える影響の回帰係数が減少することが明らかとなった ($\beta = 0.475$ から $\beta = 0.356$ 、 $P < 0.01$)。

また、モデル1、モデル2、モデル3における決定係数 (R^2) が高くなっていく傾向から見ると、親子関係を幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼児園適応の間に投入するモデル3が3つのモデルの中で最も幼児の幼児園適応に影響を与えるメカニズムを正しく解釈していることが明らかであった。つまり、モデル3に基づき、媒介分析を行うことが適切である。

具体的なデータは表8-2のようである。

表 8-2 幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応に関する回帰分析

| 変数 | 親子関係 | 幼児の幼児園適応 | |
|----------|----------|----------|----------|
| | モデル 1 | モデル 2 | モデル 3 |
| 親の関与 | 0.299** | 0.475** | 0.356** |
| 親子関係 | | | 0.398** |
| 親の役割 | 0.120** | 0.110** | 0.062** |
| 幼児の性別 | 0.002 | 0.055* | 0.054** |
| 幼児の年齢 | 0.041 | 0.152 | 0.136** |
| 幼児園の種類 | 0.034 | 0.018 | 0.004 |
| 居住地 | 0.069** | 0.023 | -0.005 |
| 家庭内の子ども数 | -0.023 | -0.010 | -0.001 |
| 親の職業 | 0.063* | -0.021 | -0.046* |
| 親の教育背景 | 0.120** | 0.125** | 0.077** |
| 家庭の年間収入 | 0.081** | 0.038 | 0.006 |
| 家族形態 | 0.009 | -0.011 | -0.015 |
| R^2 | 0.120 | 0.276 | 0.415 |
| F | 19.047** | 52.973** | 90.415** |

(** P < 0.01 ; * P < 0.05)

1.3 媒介分析による調査結果

本研究では、線形回帰分析により、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼稚園適応に有意な予測効果を持つことを検証した。そして、親子関係が幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応との間に有意な関連性が存在し、つまり親子関係が幼児の教育に対する親の関与の従属変数としても、幼児の幼稚園適応の独立変数としても機能していることが明らかとなった。

同時に、親子関係を幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応の関係に介入することによって、幼児の教育に対する親の関与が幼児の幼稚園適応に与える影響の回帰係数が減少することも明らかであった。このように、本研究において、媒介分析を行う基本的な基準と条件が満たされた。

SPSS ソフトウェアのプラグインの Process Model 4 を使用して、媒介分析を行い、表 8-3 のような結果が明らかとなった。

具体的に言えば、幼児の教育に対する親の関与による幼児の幼稚園適応への影響の総効果値は 0.374 であり、直接効果値は 0.280 であり、信頼区間は 0.247 から 0.313 の間（0 を含まない）であるため、直接的な影響が有意であった。

一方、親子関係が幼児の幼稚園適応に対する媒介効果値は 0.093 であり、信頼区間は 0.073 から 0.116 の間（0 を含まない）であるため、媒介効果も統計的に有意であることが明らかであった。

したがって、親子関係は、幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応との関係において、部分的な媒介役割を果たしていることが確認され、媒介効果の割合は 24.87%（間接効果/総効果*100%=媒介効果の割合）であった。

表 8-3 親子関係に関する媒介分析

| 効果種類 | 効果値 | 標準誤差 | 95%信頼空間 | |
|------|-------|-------|---------|-------|
| | | | 下限 | 上限 |
| 総効果 | 0.374 | 0.018 | 0.339 | 0.408 |
| 直接効果 | 0.280 | 0.017 | 0.247 | 0.313 |
| 間接効果 | 0.093 | 0.011 | 0.073 | 0.116 |

2. 調査結果の考察

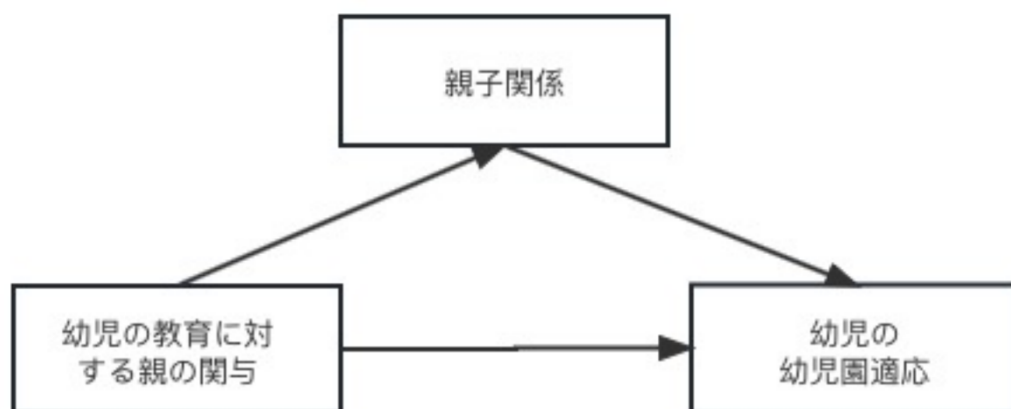
本研究において、相関分析、線形回帰分析、媒介分析を利用し、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性について分析した。

結果として、幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応はダイナミックな関係性を持っており、親の関与は幼児の幼児園適応に直接な影響を与えるだけでなく、親の関与が親子関係を媒介としているメカニズムによって、共に幼児の幼児園適応に影響を与えているプロセスが明らかとなった。

つまり、幼児の教育に対する親の関与は幼児の幼児園適応に大きな影響を与えるだけでなく、良好的な親子関係の形成にも積極的な役割を果たしており、良好的な親子関係もまた、幼児の幼児園適応を促進する重要な要素の一つであるということが窺える。

このような関係性については、本研究の序章に予想として図1のような仮説を立てた。そして、上記の分析に通じて、仮説を検証し、図4のような関係性モデルを構築することができた。

図4 幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性（筆者作成、2023）



本研究の理論的アプローチである家族システム理論によると、家族は複雑な社会システムであり、家族のメンバー同士が相互的に影響し合い、行動も互いに影響しあうものである。また、家族の相互関係は直線的ではなく循環的であり、各メンバーの行動は前の行動の結果と関係しており、次の行動の前提条件でもある。本研究によって明らかにされた幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性は、家族システム理論の主張を再び検証した。

幼児園は、中国における幼児が認知能力と社会能力などを獲得する重要な場所であり、幼児の幼児園適応の状況も、各種の能力を獲得するのに大きな影響を及ぼす。幼児園における各教育目標は、幼児園における教育関係者だけでなく、親の関わりによっても実現される必要がある。

親は、幼児園と緊密に協力し、幼児の発達状況を十分把握することを通して、幼児の教育に関与する方法を改善しながら、良好的な親子関係を保ち、幼児の幼児園適応及び全体的な発達を促進することが期待される。つまり、幼児と家族との相互作用、また幼児が所属する教育施設との相互作用は、幼児の発達と適応に大きな影響を与えているものである。

しかし、中国の幼児教育現場において、幼児の幼児園適応が広く討論されているが、その中で幼児園に注目するケースが多く、幼児の幼児園適応を向上させるために、幼児園の環境設定、教師の関わり方、仲間同士の関係などの要素に求めるケースが多かった。家庭という要素を完全に見過ごしているとは言えないが、幼児の幼児園適応における親子関係の作用を十分に認識していないことは確かである。

このような現象に対して、本研究は幼児の教育に対して適切な親の関与と良好な親子関係の維持の重要性を強調し、特に、幼児の幼児園適応を高めるための方策を定める際に、各家庭における親子関係に対する指導と改善をさらに視野に入れるべきである。

具体的に言えば、政策の立案側として、幼児期における家庭教育の質の向上を強化し、正しい教育観と適切な教育方法を保護者たちに伝えると同時に、各家庭における良好な親子関係の構築にも政策の重点を置くべきだろう。

例えば、地域社会の資源を活用し、地域コミュニティセンターや公共の施設を利用して、親子が共に学び合い、遊び合い、経験を共有するためのプログラムやイベントを定期的で開催することが考えられる。これらの活動を通して、親子関係を促進し、親子相互の理解を深める機会が増えるだろう。

また、公園や図書館など、既存の公共空間を活用し、親子が集まりやすい環境を整えることも重要である。これらの場所において、定期的な親子向けのワークショップや読書会などの活動は、親子関係の改善にも積極的な役割を果たせるだろう。

それに、幼児園及び幼児園の教育関係者を評価するプロセスにおいて、家庭教育と親子関係に対する措置と成果を評価の基準の範囲に入れることも重要であると言えよう。このような措置によって、幼児園における各教育関係者は、家庭教育への支援やそれに関する

プログラムの開発に、さらなる力を入れるように促されるだろう。

教育実践の面においては、より創造的な家庭教育支援の形式を展開し、幼稚園を親子関係及び家庭教育水準を向上させるための重要なプラットフォームとする必要がある。それを実現させるために、例えば、親子クラブの設立、家庭訪問プログラムの充実、保護者向けの教育講座の提供、家庭と幼稚園が提携する共育プログラムの開発など、多角的な取り組みが求められると言えよう。

3. まとめ

3.1 結果の要約

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係、及び幼児の幼稚園適応の関係性について分析した。

まず、相関分析によって、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が正に関連していること、幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応とも正に関連していること、親子関係と幼児の幼稚園適応とも正に関連していることが明らかとなった。

次に、線形回帰分析によって、幼児の教育に対する親の関与は親子関係を正に予測しており、幼児の教育に対する親の関与は幼児の幼稚園適応を正に予測していると同時に、親子関係は幼児の教育に対する親の関与から幼児の幼稚園適応への影響の程度を減少させながら、幼児の幼稚園適応を正に予測していることが明らかとなった。

最後に、媒介分析によって、親子関係は幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応の間において媒介役割を果たしていることが明らかとなった。

つまり、上記のプロセスを通して、親子関係が幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応の間において媒介役割を果たしていることを検証し、本研究の主要な目的を達成した。

3.2 考察の要約

本章では、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性について分析し、特に親子関係が親の関与と幼児の幼稚園適応の間における媒介役割を明らかにすることを目的とした。

結果として、相関分析、線形回帰分析及び媒介分析の手続きを経て、親子関係は幼児の教育に対する親の関与と幼児の幼稚園適応の間において媒介役割を果たしていることが明らかとなった。

幼児の教育に対する親の関与は幼児の幼稚園適応に、直接的な正の影響を及ぼすだけでなく、親子関係を媒介として間接的な影響を与えるというダイナミックな関係性を持つことが示唆された。

これまで中国の幼児教育実践では、幼児の幼稚園適応に対する親子関係の役割が十分認

識されてこなかったが、今後は幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼稚園適応を1つのシステムで考えながら、各家庭における親子関係に対する指導と改善をさらに視野に入れるべきという示唆を提供している。

本章の結果に基づき教育実践の面においては、より現実的な家庭教育支援を展開し、幼稚園を親子関係及び家庭教育水準を向上させるための重要なプラットフォームとするべき方法を模索する必要がある。

第8章 中国における親の関わりと幼児の幼稚園適応の再検討

本章では、質的研究の方法を利用し、インタビュー調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応について考察する。

本研究における量的研究の方法によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼稚園適応の現状及び関係の傾向が明らかとなった。しかし、その結果が実態を正しく表しているかどうかは、質的研究の方法によって検証する必要がある。

また、中国における幼児の教育に対する親の関与の背後における親の動機、問題及び親子と共に直面している課題などに関して、本研究のインタビュー調査によって得られた結果について考察する必要がある。

1. 調査結果

1.1 中国における親を対象とする調査結果

本研究のインタビューに通じて、親を対象に幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼稚園適応に対して調査を行った。

具体的に言えば、5名の親に対して行ったインタビューの内容をテキスト化し、主題分析を行った結果、「親の関与の動機」、「親の関与の方法」、「親の関与の内容に対する関心」、「過度的な関与に対する認識」、「親の関与と親子関係の関係」、「親の関与と幼稚園適応の関係」、「親子関係と幼稚園適応の関係」、「親の関与と親子関係の幼稚園適応との関係」という8つの一次主題を生成することができた。

具体的な主題の内容は表 9-1 のようである。

表 9-1 親を対象に実施したインタビュー調査

| 対象者 | P1 | P2 | P3 | P4 | P5 |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 主題1 親の関与の動機 | 幼児の問題解決に支援する。 | 幼児の能力を向上させる。 | 幼児の問題解決に支援する。 | 幼児の能力を向上させる。 | 幼児の能力を向上させる。 |
| 主題2 親の関与の方法 | 幼児のルーチンを整える。 | 幼児のルーチンを整える。 | 幼児と一緒に活動する。 | 幼児を考えさせる方法を探す。 | 親の手本を参考させる。 |
| 主題3 親の関与の内容に対する関心 | 幼児の学びと生活の習慣 | 幼児の認知的活動 | 幼児の認知的活動 | 幼児の認知的活動 | 幼児の認知的活動 |
| 主題4 過度的な関与に対する認識 | 良くない。幼児の自主性を損なう。 | 良くない。幼児の反抗を招く。 | 良くない。幼児の好奇心を損なう。 | 良くない。幼児の自主性を損なう。 | 良くない。幼児の自主性を損なう。 |
| 主題5 親の関与と親子関係の関係 | 関係がある。バランス良く関与すると親子関係が良くなる。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。バランス良く関与すると親子関係が良くなる。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 |
| 主題6 親の関与と幼児園適応の関係 | 関係がある。関係性の方向が言えない。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 |
| 主題7 親子関係と幼児園適応の関係 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 | 関係がある。正の関係がある。 |
| 主題8 親の関与と親子関係が幼児園適応との関係 | どちらでも大切だが、親子関係の方がより大切である。 | 親の関与と親子関係がどちらでも大切である。 | どちらでも大切だが、親の関与の方がより大切である。 | 親の関与と親子関係がどちらでも大切である。 | 親の関与と親子関係がどちらでも大切である。 |

1.2 中国における幼児を対象とする調査結果

本研究のインタビューを通じて、親の対象者に該当する幼児を対象に幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼稚園適応に対して調査を行った。

具体的に言えば、5名の幼児に対して行ったインタビューの内容をテキスト化し、主題分析を行った結果、「親の幼稚園適応への役割」、「親の関与が必要になる場面」、「積極的効果がある親の関与の例」、「消極的効果がある親の関与の例」、「親子関係の現状」、「幼児にとって望ましい関与の方法」、「幼稚園適応を促進する要素」という7つの一次主題を生成することができた。

具体的な主題の内容は表 9-2 のようである。

表 9-2 幼児を対象に実施したインタビュー調査

| 対象者 | C1 | C2 | C3 | C4 | C5 |
|--------------------------------|---|---|---|---|---|
| 主題1 親の幼稚園適 応への役割 | 積極的な役 割を持って いる。 情緒が安定 的になる。 | 積極的な役 割を持って いる。 情緒が安定 的になる。 | 積極的な役 割を持って いる。 情緒が安定 的になる。 | 積極的な役 割を持って いる。 情緒が安定 的になる。 | 積極的な役 割を持って いる。 情緒が安定 的になる。 |
| 主題2 親の関与が必 要になる場面 | 幼児が問題 や困難にあ った時。 | 幼児が問題 や困難にあ った時。 | 幼児の情緒 が良くない 時。 | 幼児の情緒 が良くない 時。 | 幼児が問題 や困難にあ った時。 |
| 主題3 積極的効果が ある親の関与 の例 | 親に慰めら れる。 | 親と一緒に 活動する。 | 親と一緒に 活動する。 | 親に励まさ れる。 | 親と一緒に 活動する。 |
| 主題4 消極的効果が ある親の関与 の例 | 認知的活動 に強制され る。 幼児の自由 な時間が少 ない。 | 認知的活動 に強制され る。 親は幼児を 慰めない。 | 認知的活動 に強制され る。 | 認知的活動 に強制され る。 食事の量を 強制される。 | 認知的活動 に強制され る。 |
| 主題5 親子関係の現 状 | 親密的 | 親密的 | 親密的 | 親密的 | 親密的 |
| 主題6 幼児にとって 望ましい関与 の方法 | 一緒に遊ぶ。 | 一緒に遊ぶ。 | 一緒に遊ぶ。 | 一緒に遊ぶ。 | 一緒に遊ぶ。 |
| 主題7 幼稚園適応を 促進する要素 | 教師と親し むこと。 親が慰めて くれる。 | クラスの活 動を楽しむ こと。 親が慰めて くれる。 | 教師と親し むこと。 親が慰めて くれる。 | クラスの活 動を楽しむ こと。 親が慰めて くれる。 | クラスの活 動を楽しむ こと。 親が慰めて くれる。 |

2. 調査結果の考察

2.1 中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に関する親の認識

本研究のインタビュー調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性に対する親の実際の考え方が窺えるようになった。具体的に、以下のようなことが示唆されている。

第1に、「親の関与と親子関係の関係」に関しては、本研究のインタビューを受けた親は、幼児の教育に対する親の関与が親子関係と関連していると考え、親の関与が親子関係に正の影響を与えるだろうと思う親が多かった。

つまり、中国における幼児の教育に対する親の関与と親子関係の関係に対する実際の認識は、本研究の量的研究によって得られた結果と一致していると言える。

また、親の中で、バランス良く関与することができれば、親子関係が改善されると考える親もいた。

P3 保護者：「親の関与は親子関係を改善する作用があると思う。子どもは自分の考え方を十分表現できないが、親が自分に教育することは愛だということについては、子どもが理解していると思う。もちろん、関与しすぎることはよくないが、バランスが大切だ」(筆者翻訳、2023)。

P1 保護者：「正しい親の関与は親子関係を改善できると思うが、やりすぎると、子どもも嫌になって、親子関係が衝突になるかもしれない」(筆者翻訳、2023)。

上記のインタビューの内容から見ると、幼児の教育に対する親の関与と親子関係は関連していることは対象者の共同認識であると言えるが、その関与の程度や方法に関しては、親の認識において個人差があることも明らかであった。

そして、本研究のインタビュー調査によって生成された「過度的な関与に対する認識」の主題においては、対象者の親は全て過度的な関与がよくないと認識し、その中で親の過度的な関与が「幼児の反抗を招く」と主張している親の見解から見ても、幼児の教育に対する親の関与と親子関係は関連性があるが、互いに積極的な影響を与えるか、消極的な影響を与えるかは質的な変数によって異なる可能性があると言えるかもしれない。

また、本研究のインタビュー調査によって生成された「親の関与の方法」の主題においては、「幼児のルーチを整える」対象者が2人存在していた。このような関与は一般的に規律性を要求する場合が多く、親子間の衝突を招く可能性があると考えられる。

つまり、幼児の教育に対する親の関与と親子関係は、お互いに緊密な関係を持っていることが本研究によって明らかとなったが、程度と方法の相違によって、その影響の方向

性も変わる可能性があるため、親が幼児の教育に関与する際にさらなる注意が必要であると言える。

第2に、「親の関与と幼児の幼児園適応の関係」、「親子関係と幼児の幼児園適応の関係」に関しては、中国における本研究のインタビュー調査の対象者は、ほとんど正の関係性があると認識し、関係性の方向が言えないと主張している対象者は1人だけであった。このような親の見解は本研究のアンケート調査で得られた結果と一致しており、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼児園適応に影響を与え、中国における幼児教育の実践上においてはさらに重視すべきであることを示唆している。

第3に、「親の関与と親子関係と幼児の幼児園適応との関係性」に関しては、本研究のインタビューを受けた対象者は、その3つの要素が相互的に関連しているまでははっきり言えなかったが、幼児の教育に対する親の関与と親子関係の両方が幼児の幼児園適応に大切な影響を与えていると認識している親がほとんどであった。これは、本研究の量的研究によって明らかにされた幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼児園適応における相互的でダイナミックな関係性と部分的に一致していると言える。

また、幼児の視点から見ても、幼児の教育に対する親の関与と親子関係は幼児の幼児園適応、特に情緒の安定にとって重要な役割を果たしていることが分かった。特に、親に慰められたり、親と一緒に活動したりすることによって、幼児の安心感が強化され、幼児園によりスムーズに慣れることに積極的な意義を持っている。例えば、以下のような幼児に対するインタビューの内容から窺えるだろう。

C1幼児：「お母さんがもし泣かなかったら、家に帰って、一緒に病院ごっこすると約束してくれるから、私は泣かないよ」（筆者翻訳、2023）。

C2幼児：「お母さんが毎日幼児園の正門でハグしてくれるから、私は泣かないよ」（筆者翻訳、2023）。

上記の考察をもとに、今後、本研究によって明らかにされた幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼児園適応の関係性をさらに中国の幼児教育現場において実践し、親の関わり、特に良好的な親子関係と適切な親の関与が幼児の幼児園適応にとって重要であることをさらに提唱すべきだろう。

2.2 中国における幼児の教育に対する親の関与の動機と関心

本研究における親を対象とするインタビューによって、親が幼児の家庭生活において関与する最も重要な動機は「幼児の問題解決に支援する」こと及び「幼児の能力を向上させる」ことであった。

中国の伝統的な家庭教育理念においては、「長幼の序」が重んじられ、子どもの能力より儒教文化における「孝」を中心とする道德性の形成が主な目標であった。このような傾向は社会主義中国の設立当初まで引き続けられ、ただ一時的に儒教文化の「孝」から社会主義という集団への「忠誠」に転換し、道德を重視する本質は大きく変わらなかった（邹、2008）。

中国の改革開放以降、経済発展が社会生活の主要な目的となるにしたがい、「能力至上」という理念が中国社会に広く認められ、家庭教育の理念と親の子どもに対する期待も子どもの諸方面の能力、特に認知的能力や学業の達成のような実用的能力に集中するようになってきた。このような価値観は今日に至っても依然として存在している。本研究におけるインタビューにおけるP4という親の対象者の談話の一部が代表的であった。

P4 保護者：「誰だって、子どもを楽しくさせたいだろう。しかし、中国の社会での競争は激しすぎだ。私が働いている会社の若者たちは、外国語も話せるし、プログラミングもできるし、他にも私が全く知らない技能を持っている人も多い。うちの子どもは、外国語とピアノと書道だけ習って、周りの子どもたちより負担がまだ軽い方だ」（筆者翻訳、2023）。

一方、近年、中国では新しい教育理念も親たちの中で普及してき、子どもの実用的能力より、探究心や問題解決能力の向上によって、自主的に考える能力を培うことを求める親も存在している。例えば、本研究のインタビューに参加したP1親の談話から窺うことができる。

P1 保護者：「能力はもちろん大切だ。知識を学ぶのも重要だ。しかし、将来的になって、今の知識は役立たなくなることもあるだろう。だから、私は子どもに問題解決能力を養うこととか、創造力を育てることがもっと重要だと思う。それを持たないと、将来のハイテク競争に適応できないだろう」（筆者翻訳、2023）。

本研究のインタビュー調査によって、中国における対象者は、幼児の教育に対する親の関与の内容に対する関心が幼児の「認知的活動」（数、文字、言語、常識など伝統的な幼児の認知的分野に関する活動であり、社会的知能、芸術的知能など広義的な認知的活動ではない）に多く集中していることが明らかとなった。

このような結果は、本研究のアンケート調査において、「育児指導」、「幼児の家庭学習へ

の参加」及び「言語と認知的活動」の側面に対する親の関与の程度がより高かったことと一致し、その結果の背後にある一部の原因も解釈していると言えよう。以下のようなインタビューの内容からも、中国における幼児の教育に対する親の関与の内容に対する関心の現実が窺えるかもしれない。

P2 保護者：「最近、(幼児が) 自分の名前ですえ書けないから、ちょっと心配だね。そろそろ小学校に入学するので、しっかり教えた。」(筆者翻訳、2023)。

P3 保護者：「色とか、形とかは大丈夫だが、数字に関しては(幼児が) 敏感ではない。それに関する絵本を買ってあげた」(筆者翻訳、2023)。

本研究のインタビュー調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与の動機が幼児の能力獲得にあることがわかった。その「能力」に関して自主的に問題を解決できる能力を重視する親も存在すれば、実用的なスキルや知識に偏っている親も存在しており、親の関心が幼児の認知的活動に多く集中していることも明らかとなった。

しかし、科学技術、特に最近の人工知能技術の急速な発展に伴い、伝統的な知識・技能教育は大きな変革の挑戦に直面していると言える。中国においては、今後の家庭教育にとって、知識や認知的能力だけでなく、子どもの問題解決能力、創造力、人間として特有の社会的能力を育成する重要性をさらに宣伝し、彼らが将来の急速に変化する社会に適応できる準備に支援すべきだろう。

2.3 中国における幼児の教育に対する親の関与の課題

本研究のインタビュー調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与において、注意すべき問題点が発見された。具体的に、その問題点は下記の2つのギャップにまとめられることができる。

第1に、中国における幼児の教育に対する親の関与においては、「認知と行動のギャップ」が存在している。本研究のインタビュー調査を受けた対象者は、過度的な関与が幼児の反抗を招いたり、幼児の自主性を損なったりすることを認識しているにも関わらず、実際に行動する際は過度的に関与してしまうことが見られた。例えば、以下のインタビューの内容から、幼児の教育に対する親の関与における「認知と行動のギャップ」の実際が窺える。

P3：「もちろん、過度に関与することは良くない。子どもの独立心もなくなるし、逆に反抗もする」(筆者翻訳、2023)。

C3：「文字を書く勉強をさせられると、嫌な気持ちになった」(筆者翻訳、2023)。

このようなギャップの存在に関しては、いくつかの予測できる原因があげられる。

まず、親の幼児を保護する意欲から言えば、中国における親は、幼児が直面する困難や失敗からわが子を守ろうとする意欲が高いと言われている（郭、2021）。このような幼児を保護する意欲が幼児の認知的能力を重視している本研究の結果と絡みながら、親の過度的な関与を引き起こす原因となるかもしれない。

また、親の幼児に対する期待から言えば、中国における親は、自分の教育の経験、成長の経験と価値観を子どもに投影しやすく、子どもに対する期待感が高いと言われている（朱、2020）。つまり、幼児の個性やニーズよりも、中国の親は自分の高期待に基づいた関与を行い、その程度も過度になってしまう可能性が高くなるかもしれない。

親の過度的な関与或いは過保護は、幼児の自主性、問題解決能力、社会的能力などの発達にマイナスの影響を与える可能性がある（潘、2023；向ら、2023）。

そこで、このようなギャップを埋めるためには、幼児教育の行政側と教育機関の幼稚園側は、親を対象とする教育プログラムなどを通して、親の幼児の発達・学習のメカニズムに対する理解を深め、自分自身の行動を調整できるような環境を提供することが必要だろう。

また、幼児の教育に対する親の関与がどのような程度で行えば適切であるかに関する研究は、中国ではまだ非常に少ないため、本研究にとって将来の課題としてさらなる展開の可能性を提示していると言える。

第2に、中国における幼児の教育に対する親の関与においては、「本音と建て前のギャップ」が存在している。本章の「2.2 中国における幼児の教育に対する親の関与の動機と関心」における考察からも窺えるが、本研究のインタビュー調査を受けた対象者は、幼児の教育に関与する動機は能力を向上させること及び問題解決に支援することにあると主張しているが、関与の内容に対する関心が幼児の認知的活動に多く集中していることが明らかであった。

このようなギャップの存在に関しては、いくつかの予測できる原因があげられる。

まず、親の教育理念から言えば、中国における親は従来の教育理念の影響を受け、認知能力の向上が教育の最優先目標であり、認知的能力の向上が幼児の将来に直面するほとんどの課題を解決できると考えることに起因しているかもしれない。

そして、利用可能な資源から言えば、中国における親は、認知的活動に関する教育資源や活動（例えば、本、教育アプリ、塾など）が手に入りやすいと感じている一方、好奇心や問題解決能力を育むための効果的な方法については、認識しておらず、それらの方法と資源を獲得できるルートも少ないと言えるかもしれない。

また、成果を評価できる可能性から言えば、認知的能力・活動はテストや成績によって比較的容易に評価できるが、好奇心や問題解決能力などは量的に評価するのが容易ではないため、中国における親はより明確な成果が見える分野を好むからであるかもしれな

い。

子どもにとって、より全面的な発達が望まれており、認知的能力だけに偏ることは、子どもの他の知能・能力の発展を阻害する可能性がある（Gardner、1983；Goleman、1995）。

そこで、このようなギャップを埋めるためには、中国における親たちは、幼児教育についてより適切・全面的な理解を持つ必要があるだろう。

幼児教育の行政側にとっても、幼児教育機関の幼稚園側にとっても、幼児の認知的と非認知的能力の発展をバランス良く促進するための親に対する指導や資源を提供することが必要だろう。

3. まとめ

本章では、質的研究の方法を利用し、インタビュー調査によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応について考察した。

本研究における量的研究の方法によって、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼稚園適応の現状及び関係の傾向が明らかとなった。しかしその結果が実態を反映しているかどうかを分析するために、ここでは質的研究を併用し検証した。

これは中国における親の関わりの背後における親の動機、問題及び親子と共に直面している課題などに関して、質的なインタビューを行った。

結果として、幼児の教育に対する親の関与と親子関係が幼児の幼稚園適応にとって重要な役割を果たしていることが明らかとなった。これは量的な調査と、その傾向と認識が一致していることが確認された。併せて質的なインタビュー調査によって、以下のような視点も明らかとなった。

第1に、親たちは、幼児の教育に関与する最も重要な動機が、幼児の広範な問題解決能力を向上させることにありと述べていたが、実際の関心は、幼児の認知的活動に集中していることが明らかであった。つまり、中国における幼児の教育に対する親の関与においては、「本音と建て前のギャップ」が存在していると言えよう。

このギャップを引き起こす原因として、中国の親が幼児の直面する困難や失敗からわが子を守ろうとする気持ちが強い（郭、2021）、幼児の個性やニーズを考慮することよりも、親自身の期待に基づき関与することが多いこと（朱、2020）などが先行研究によって示されている。

第2に、親は、過度的な関与が幼児の反抗を招いたり、幼児の自主性を損なったりすることを理解しているが、実際には幼児の教育に過度的に関与してしまう事例が多く語られた。つまり、中国における幼児の教育に対する親の関与においては、「認知と行動のギャップ」が存在している。この原因として、中国の親は、伝統的な教育理念の影響を受けていること、認知的能力以外の能力を育むための認識不足、そのためのリソース不足、またさまざまな子どもの可能性を評価するための方法の不足が考えられる。

上記のようなギャップを解決するために、親は幼児教育についてより適切な理解をする

必要があるだろう。中国の親に対して、より適切な教育方法、資源をさらに提供し、幼児が認知的、感情的、社会的などの全般的な分野においてバランスの取れた発達を遂げるために、教育行政、教育機関及び社会全体の協働が求められると考える。

終章 結論と今後の課題

1. 本研究の結論

本研究の目的は、中国における幼児を育てる親の教育に対する親の関与と親子関係を明らかにし、幼児の幼児園適応にどのような影響を与えているのか、及び幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応の関係性を分析することであった。

各章における調査と分析によって、家族システム理論の視野において、幼児に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応はダイナミックな関係性を持っており、幼児に対する親の関与は幼児の幼児園適応に直接的な影響を与えるだけでなく、幼児に対する親の関与が親子関係を媒介としているメカニズムによって、共に幼児の幼児園適応に影響を与えていることが主要の結論としてまとめられる。

中国の幼児教育実践において親子関係が幼児の幼児園適応に対する影響があることについて認識が不足していた。今後は、教育施策にとっても、親子関係と親の関与と共に幼児の幼児園適応を促進するための方策について理論的な依拠を提供したと考える。

また、主な目的を实践させた過程において、中国における幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応が、人口統計学的変数によって影響を及ぼされていることを明らかにされた。特に、幼児園の種類、親の職業、家庭の年間収入、親の教育背景は幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼児園適応に大きな影響を与えていることが明らかであった。

一方、本研究の量的調査の結果を検証するために、質的研究の方法によって、幼児の教育に対する親の関与と親子関係と幼児の幼児園適応の関係性を再検討した。本研究の量的研究と質的研究の結果が一致しており、本研究によって明らかにされた結果の信頼性が比較的に高いことが言えるだろう。

また、質的調査を分析している過程において、中国における対象者親の考えに「本音と建て前」、「認知と行動」などのギャップが存在していることがわかった。

2. 本研究の実践上の示唆

本研究の結論に基づき、主な示唆としては、中国における教育政策と実践に対して、以下のような視点が提供できる。

第1に、政策立案者や教育機関は、直接的な幼児の教育に対する親の関与に注目するだけでなく、親子関係の質を促進することにも重点を置くべきである。この目標を達成するために、家庭教育政策の改善、家庭教育指導の提供、家庭と幼児園の提携プログラムの設

立などの方法が例としてあげられる。

第2に、政策立案者は、一律的な政策よりは、家庭及び幼稚園の特別の状況に応じながら、柔軟性のある適切な政策と実践を行う必要がある。特に教育の公平公正をさらに考慮し、私立幼稚園、一般企業の親を支援と指導の視野に入れ、「公と私」の間のギャップを埋めるべきである。そして、政策策定と実施の際、家庭が直面している経済的、社会的問題を考慮し、弱者地位における家庭の親と幼児に対して、ある程度適切に傾斜させるべきである。

第3に、幼児に対する親の関与におけるギャップを埋め、問題を解決するために、中国の親に対して、認知的能力以外、幼児の全面的な能力の発展の重要性をさらに宣伝すべきである。それと同時に、行政側も幼稚園側も、家庭教育に関してさらなる支援活動、トレーニング活動を行い、幼児の自主性と独立性を促進するために、過度的・不適切な親の関与などを減少させ、適切な教育価値観と関与の方法を親に提示・助言することが求められると言えよう。

3. 本研究の限界性と今後の課題

中国における先行研究と教育実践では、幼児の幼稚園適応に対する親子関係の影響に関する認識と研究が不足しており、特に1つのシステムにおいて検討するものは少ないのが現実である。

本研究は、親子関係の媒介役割をはっきりすることによって、中国の幼児教育の保育実践、政策策定において、親子関係から幼児の幼稚園適応への影響を重視すべきという理論的依拠を提示したと考える。

そして、人口統計学的変数からの影響や質的調査によって明らかにした中国の家庭教育における問題点から、中国の幼児教育実践においてこれからさらに注目すべき課題の視点を提供した。

しかし、研究の範囲と手法などの関係によって、本研究において様々な限界性が存在しており、中国における親の関わりと幼児の幼稚園適応の関係性に関する研究の「ファーストステップ」として位置づけることが適切だろう。

具体的に言えば、本研究においては、以下のような限界性及びそれを解決するための今後さらに探究すべき課題があげられる。

第1に、本研究は横断的研究であるため、結果における因果関係を追求することが難しいという面は限界性の一つである。それを解決するために、今後の課題として、縦断的研究を行うことによって、親の関わりと幼児の幼稚園適応における関係性をさらに深く探究し、本研究の視野を広めることができるだろう。

第2に、本研究において、特定の人口統計学的変数の幼児の教育に対する親の関与、親子関係と幼児の幼稚園適応の関係性における差異を明らかにした。しかし、本研究の視野に入れた以外の変数も多く存在している可能性が高く、本研究は幼児の教育に対する親の

関与、親子関係と幼児の幼稚園適応に対する要素を完全に明らかにすることはできなかった。その限界性をできる限り解消するために、今後の課題として、さらなる人口統計学的変数を研究の視野に入れる必要がある。

第3に、本研究において明らかにされたことが中国の独自の特徴であるかどうか、また、文化的や社会経済的要因が親の関わりと幼児の幼稚園適応にどのような影響を及ぼしているのかについて、本研究の範囲では解明できなかったのが大きな限界性である。それを解決するために、今後の課題として、比較研究の視点を取り入れることによって、異なる文化的、経済的背景を持つ地域や集団における親の関わりと幼児の幼稚園適応の関係性を比較することが必要だろう。

引用参考文献

中国語文献

- 白璐, 闫小红. (2018). 城市低收入家庭教育问题及社会工作介入策略研究——以青岛市X社区低收入家庭为例. 长春理工大学学报, 31(03), 56-61, 102.
- 陈冠亚. (2021). 小班幼儿入园适应现状与提升对策. 学前教育研究, 03, 93-96.
- 陈翔, 罗肖轶. (2023). 二胎政策实施后流动人口生育意愿及其影响因素分析. 西部学刊, 11, 166-173.
- 陈艺琼. (2023). 现代化进程中教育公平问题探析. 山西青年, 18, 1-4.
- 陈文静. (2023). 探讨幼儿园学前教育对孩子规则适应和独立性的引导. 新教育, (08), 87-88.
- 陈荟. (2023). 幼儿入园焦虑成因及其缓解策略. 教育与教学研究, 06, 88-100
- 程杨, 吴雪影. (2011). 0-3岁儿童父母育儿观念和行为的城乡比较研究——以安徽省六安市为例. 皖西学院学报, 06, 143-146.
- 曹瑞. (2011). 父母受教育程度对亲子关系影响的研究. 中国校外教育, 03, 51.
- 大卫·威廉姆斯·谢弗(美), 吴忞译. (2022). 量化民族志: 一种面向大数据的研究方法. 重庆大学出版社.
- 戴薇. (2017). 不良家庭关系在家园共育中的影响及对策研究. 早期教育, 09, 55-56.
- 丁庆龙. (2021). 体育游戏对幼儿园大班儿童社会适应能力的研究. 冰雪体育创新研究, 05, 98-99.
- 董吉贺, 孔玲, 张献华. (编). (2022). 山东省幼小衔接指导手册. 山东教育出版社.
- 杜雯雯, 张萌, 李佳, 王雪娜, 申泉, 余立平, 赵小红. (2022). 父母育儿自我效能感评估工具的研究进展. 中国妇幼保健, 37(7), 2517-2520
- 范李明, 郭平宁. (2021). 家长参与幼儿园活动对中班幼儿社会适应的影响研究. 教育导刊(下半月), 12, 17-22.
- 傅宏. (2000). 幼儿社会适应能力状况评价量表. 早期教育, 6, 5-6.
- 高珊. (2014). 浅谈大学生毕业后的抉择. 商, 02, 336.
- 顾艳. (2019). 浅谈影响小班幼儿入园适应困难的因素. 科学大众, 10, 90.
- 郭婧. (2016). 国际化大都市弱势学生群体教育支持政策与措施研究(D). 上海师范大学.
- 郭宁. (2006). 山东文化的历史演进及山东文化区划研究(D). 安徽师范大学
- 郭莲蓉, 佐彩云. (2017). 幼儿入园的适应问题及对策. 鞍山师范学院学报, 19(02), 101-104.
- 郭素华. (2021). 学前儿童家庭教育中过度保护问题调查分析. 开封文化艺术职业学院学报, 10, 208-211.
- 郭雪凤. (2019.) 父亲参与幼儿教育现状及对策的个案研究(D). 上海师范大学.
- 郝睿, 龚楚茗, 崔婉蓉. (2019). 学前教育市场中影响家庭对公办或民办幼儿园选择的因素——基于Logit模型. 河南教育(幼教), (05), 17-23.
- 何传新, 刘洋. (2015). 基于差别分析视角的城乡一体化发展路径——兼论山东半岛城市群城乡一体化发展. 改革与战略, 03, 117-119+143.

- 何微微. (2019). 浅谈农村幼儿教育发展弱势. 2019全国教育教学创新与发展高端论坛论文集, (卷九), 15-16.
- 贺银才. (2008). 浅谈亲子关系对儿童心理健康的影响. 山西师大学报(社会科学版), (S1), 95-97
- 黄良驹. (2022). 家庭教育误区初探—基于S市W区的实证研究 (D). 华中师范大学.
- 贾翠. (2022). 缓解幼儿入园焦虑的途径与方法. 亚太教育, 20, 180-182.
- 金娟, 黄胜梅. (2023). 公办与民办普惠性幼儿园教师专业发展的比较研究. 安徽教育科研, 04: 11-13.
- 金文. (2016). 解决幼儿入园适应困难的基本策略. 学前教育研究, 11, 67-69.
- 景云. (2019). 家庭结构变迁下家庭教育问题及解决途径. 教育评论, 01, 49-52.
- 康丽颖, 姬甜甜. (2021). 回归教育学视域的家庭教育理论建构. 教育科学, 01, 71-77.
- 李春玲. (2016). 中国中产阶级的不安全感 and 焦虑心态. 文化纵横, 04, 32-39
- 李立国. (2023). 中国式现代化视野下的教育公平之路. 终身教育研究, 01, 11-18.
- 李晓雪. (2019). 浅析公平视野下的农村幼儿教育发展弱势及其归因. 才智, 27, 135.
- 李雪. (2020). 父亲教养投入与3-6岁幼儿道德情绪理解的关系及教育启示(D). 长春师范大学.
- 李颖, 朱薪樾. (2017). 明清家教文化对当今家庭教育的启示. 教育发展纵横, 05, 302-303.
- 林兰, 高珠峰. (2020). 小班幼儿入园适应过程中的冲突与规约应对—基于儿童立场的质性研究. 学前教育研究, 09, 23-38.
- 林胜. (2012). 我国公务员收入分配问题研究(D). 福建师范大学.
- 刘国艳, 马思思, 李洁旋, 詹雯琪. (2021). 亲子关系对幼儿行为发展的影响研究. 教育观察, 20, 85-87.
- 卢山, 王凤娇. (2023). 共同富裕监测研究——以山东省为例. 调研世界, 1-13.
- 吕慧, 台玉红. (2021). 公务员报考行为的影响因素. 科技和产业, 09, 120-123.
- 马韵. (2004). 父母教育一致性研究 (D). 华南师范大学.
- 欧阳洁. (2015). 家庭系统理论对当前亲职教育的启发与思考. 传承, 12, 116-117
- 潘文艳. (2023). 初中生父母过度教养与应对方式: 链式中介作用及干预(D). 闽南师范大学.
- 彭女贞. (2018). 父母教养效能感和亲子关系对幼儿入园社会适应行为的影响[D]. 上海师范大学.
- 人民日报. (2018). 坚持中国特色社会主义教育发展道路培养德智体美劳全面发展的社会主义建设者和接班人. <http://edu.people.com.cn/n1/2018/0911/c1053-30286253.html>
- 芮雪萍. 城市流动儿童学校适应问题研究[D]. 南京师范大学.
- 绍鸣. (2018). 影响小班幼儿入园适应的因素分析. 才智, 03, 200.
- 邵帅, 张艳红. (2017). 郑州市公办幼儿园与民办幼儿园教师专业发展与生存现状研究. 河南教育学院学报, 04: 65-69.
- 沈悦, 左林鹭, 李昭聪, 李佳. (2022). 基于心理学实证研究的家庭教育理论与模型. 辽宁师范大学学报, 45(5), 67-75.

- 石雅绮. (2017). 小学生父母教养方式与学校适应的关系研究[D]. 山西大学.
- 宋芹. (2017). 齐鲁文化对山东人性格的影响. 学周刊, 15: 238-239
- 苏亚. (2023). 知识型劳动者加班原因分析及人力资源管理对策研究. 河北企业, 06, 111-113.
- 孙玉环, 尚继霞. (2013). 家庭养育目标与父母受教育程度的多重对应分析. 调研世界, 09, 59-62.
- 唐雪. (2020). 家庭结构对留守儿童学业成绩和行为习惯的影响(D). 华北电力大学
- 陶东杰. (2019). 同胞数量与青少年认知能力: 资源稀释还是生育选择. 教育与经济, 03, 29-39.
- 王骏. (2018). 非认知能力发展能够解释学业成绩分布的性别差异吗? ——来自北京市城市功能拓展区的经验证据. 世界经济文汇, 6, 49, 69.
- 王青青. (2020). 家庭关系与大班幼儿人际交往的相关研究[D]. 西北师范大学.
- 汪文璠, 傅根耀, 王和香, 徐云. (1992). 3-7岁儿童社会适应行为研究——行为评定量表内容的初步研究. 杭州大学学报(自然科学版), 04, 441-447
- 王秀丽. (2021) 父母教养观念、亲子关系对幼儿社会性发展的影响. 陕西学前师范学院学报, 2021, 37(01): 41-46.
- 王修智. (2008). 齐鲁文化对山东的深远影响. 理论前沿, 13: 29-30
- 王彦妮. (2015). 幼儿园适应性障碍的个案透析. 新课程(小学版), 12, 59.
- 王云峰, 冯维. (2006). 亲子关系研究的主要进展. 中国特殊教育, 7, 79-85.
- 王振存. (2011). 文化视阈下城乡教育公平研究(D). 河南大学.
- 王治芳. (2019). 构建家校社共同体提升家长教养知能——山东省家长教育创新纪实. 中国成人教育, 21, 75-79.
- 韦丰, 任远. (2023). 家庭子女数量对儿童教育过程的影响——基于教育投资稀释效应的分析. 人口学刊, 03, 1-16.
- 习近平. (2020). 论党的宣传思想工作. 中央文献出版社.
- 向诗雨, 谭欣歌 & 高健. (2023). 过度保护对幼儿焦虑的影响: 行为抑制的中介作用. 早期教育, 21, 31-36.
- 谢蓓芳, 方永年, 林永清等. (2004). 小学生的适应行为与父母教养方式的相关分析. 中国心理卫生杂志, 18(8), 567-568.
- 邢泓翔. (2021). 关于中国城乡居民收入差异影响因素的分析. 今日财富, 20, 10-12.
- 徐勤玲. (2019). 让幼儿在探索与发现中成长——皮亚杰认知发展理论在家庭教育中的应用. 大众心理学, 08, 33-34
- 徐鑫铭, 朱莉, 李燕, 熊佳欣. (2022). 父母教养方式与亲子关系: 基于主客体互倚模型的分析. 中国临床心理学杂志, 06, 1423-1427+1432
- 许逸霄. (2023). 山东省义务教育优质均衡发展水平分析. 科技风, 33, 147-149.
- 薛聪. (2022). 运用绘本教学干预福利院幼儿心理弹性的个案研究(D). 沈阳师范大学.
- 杨杰. (2017). 学龄前儿童“父爱缺失”的现状分析及干预策略. 江苏教育研究院(学前教

- 育), 7A/8A, 66-69.
- 杨晓静. (2019). 父母教养行为、亲子关系与4-6岁幼儿学习品质的关系研究(D). 华东师范大学.
- 杨翠迎. (2004). 中国社会保障制度的城乡差异及统筹改革思路. 浙江大学学报, 03, 13-21
- 叶丽霞. (2017). 从心理学角度分析亲子关系的影响因素. 文学教育(下), 07, 183.
- 叶一舵, 白丽英. (2002). 国内外关于亲子关系及其对儿童心理发展影响的研究. 福建师范大学学报, (02), 130-136.
- 伊文婷. (2023). 新时代教育公平的新内涵、新重点与新策略. 齐齐哈尔大学学报. 08, 79-82.
- 于文哲. (2018). 浅谈家长缺失对朝鲜族儿童幼儿园适应性的影响. 赤子, 26, 198-199.
- 于志涛. (2005). 初中生父母自我效能感评估及其与父母教养方式关系的研究(D). 西南师范大学.
- 袁正弟. (2020). 初中阶段家庭教育中母亲与父亲教育的差异对比初探. 当代教研论丛, 06, 24.
- 张凡颖. (2023). 幼儿父亲参与家庭教育的现状及对策研究—基于南宁市三所幼儿园的调查(D). 广西民族大学
- 张光珍, 梁淼 & 梁宗保. (2021). 父母教养方式影响学前儿童社会适应的追踪研究: 自我控制的中介作用. 心理发展与教育, 06, 800-807.
- 张惠娟. (2022). 家庭教育促进法实施后看山东如何推动家校社协同育人. 人民政协报. <https://baijiahao.baidu.com/s?id=1728417280730700183&wfr=spider&for=pc>
- 张晶晶, 李佳孝. (2013). 关于幼儿园教育“小学化”的研究述评. 天津师范大学学报: 基础教育版, 1, 67-70.
- 张娟娟. (2014). 幼儿园教育“小学化”现象分析与对策研究(D). 东北师范大学.
- 张文倩, 辛均庚. (2023). 父亲参与幼儿教养调查研究. 陕西学前师范学院学报, 39(08), 19-28.
- 张鑫钰. (2021). 亲子关系、亲子沟通在幼儿自信心培养中的作用研究(D). 伊犁师范大学.
- 张园园, 贺琼. (2020). 家长及幼儿园教师入学准备观念的调查研究. 萍乡学院学报, 04, 109-113.
- 赵姝航. (2022). 父亲的养育行为对儿童发展的影响研究(D). 陕西师范大学.
- 赵秀坤. (2017). 小班幼儿家庭亲职教育需求与幼儿入园适应关系的研究(D). 陕西师范大学.
- 朱小静. (2021). 中国传统家训文化对现代家庭教育的启示. 作家天地(17), 77-78
- 朱小宇, 谢华. (2023). 陈鹤琴家庭教育思想对当代幼儿家庭教育的启示. 文教资料(05), 117-120.
- 朱莹, 张伊娜. (2021). 小学起始年级家庭教育的误区和指导策略研究. 基础教育研究, 12, 88-92
- 朱勇. (2020). 教育竞争过度现象的伦理审视(D). 上海师范大学.
- 钟星星. (2014). 现代文化认同问题研究(D). 中共中央党校
- 周丽霞. (2022). 成长共同体视域下家园共育改革的个案研究(D). 福建师范大学.
- 周李哲. (2023). 幼小衔接视角下随迁儿童社会适应能力状况及对策——以河池市部分幼儿园、小学为例. 广西教育, 10. 34-38.

祝振华,张红丽 & 李洁艳. (2023). 城乡相对贫困的动态识别与量化分解——兼论相对贫困线的设定. 农业经济与管理, 05, 83-94.

邹强. (2008). 中国当代家庭教育变迁研究(D). 华中师范大学.

祖静,杨文雅,周桐帆,滕婉琪,但菲. (2022). 父母低头行为对幼儿问题行为的影响: 一个有调节的中介模型. 学前教育研究, 06, 34-48

左彩霞,张莉. (2023). 乡村振兴背景下我国农村幼儿教育可持续发展: 现实困境、价值选择与实践路径. 黑龙江教师发展学院学报, 08, 116-120.

山东省教育厅. (2019). 山东省中小学(幼儿园)家长学校课程指南.
http://www.shandong.gov.cn/art/2019/6/10/art_305252_10319815.html

山东省教育厅. (2021). 山东省幼儿园与小学科学衔接实施方案.
http://www.shandong.gov.cn/art/2021/6/29/art_305252_10319809.html

山东省教育厅. (2022). 山东省“十四五”学前教育发展提升行动计划.
http://edu.shandong.gov.cn/art/2022/9/13/art_11990_10304483.html

山东省教育厅. (2023). 2022年山东省教育事业统计公报.
http://edu.shandong.gov.cn/art/2023/5/19/art_107070_10315022.html

山东省统计局. (2021). 山东省第七次全国人口普查公报(第六号)城乡人口和流动人口情况. 山东省第七次全国人口普查领导小组办公室

山东省统计局. (2023). 2022年山东省国民经济和社会发展统计公报.
http://www.shandong.gov.cn/art/2023/3/2/art_305196_10335931.html

中国国务院. (2014). 国务院关于调整城市规模划分标准的通知.
https://www.gov.cn/zhengce/content/2014-11/20/content_9225.htm

中国国务院. (2018). 乡村振兴战略规划(2018—2022年).
https://www.gov.cn/zhengce/2018-09/26/content_5325534.htm

中国国家发展和改革委员会. (2022). 2022年人口相关数据.
https://www.ndrc.gov.cn/fgsj/tjsj/jjsjgl/202301/t20230131_1348088_ext.html

中国国家统计局. (2021). 第七次全国人口普查公报(第七号)城乡人口和流动人口情况. 国务院第七次全国人口普查领导小组办公室

中国国家统计局. (2022). 中华人民共和国2022年国民经济和社会发展统计公报.
https://www.gov.cn/xinwen/2023-02/28/content_5743623.htm

中国教育部(2012). 教育部关于印发“3-6岁儿童学习与发展指南”的通知.
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3327/201210/t20121009_143254.html

中国教育部(2012)『教育部关于印发「3-6岁儿童学习与发展指南」的通知』
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A06/s3327/201210/t20121009_143254.html

中国教育部(2019)「落实 落实 再落实——在2019年全国教育工作会议上的讲话」
http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/moe_176/201901/t20190129_368518.html?eqid=b4029a0c0001d716000000664941508

中国教育部(2019)「关于进一步加强家庭家教家风建设的实施意见」

http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/202107/t20210723_546277.html?ivk_sa=1024320u

中国教育部（2022）「关于指导推进家庭教育的五年规划（2021—2025年）」

http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/202204/t20220413_616321.html?authkey=boxdr3&wd=&eqid=e8af0d6d00016a4a00000003642bdaaf

中国教育部发展规划司。（2023）.2022年全国教育事业发展基本情况.

http://www.moe.gov.cn/fbh/live/2023/55167/sfcl/202303/t20230323_1052203.html

中国中央人民政府（2021）『中华人民共和国家庭教育促进法』

https://www.gov.cn/xinwen/2021-10/23/content_5644501.htm

英語文獻

Agbaria, Q., & Mahamid, F. (2023). The association between parenting styles, maternal self-efficacy, and social and emotional adjustment among Arab preschool children. *Psicologia: Reflexão e Crítica*, 36(1),10.

Ainsworth, M. D. S., Blehar, M. C., Waters, E., & Wall, S. N. (2015). *Patterns of attachment: A psychological study of the strange situation*. Psychology Press.

Anderson, K., & Minke, K. (2007). Parent involvement in education: Toward an understanding of parents' decision making. *The Journal of Educational Research*, 100(5),311–323.

Archer, J. (2022). Childhood gender roles: Social context and organisation. In *Childhood social development* (pp. 31-61). Psychology Press.

Archer, L., DeWitt, J., Osborne, J., Dillon, J., Willis, B., & Wong, B. (2012). Science aspirations, capital, and family habitus: How families shape children's engagement and identification with science. *American Educational Research Journal*, 49(5),881– 908.

Arend, R., Gove, F. L., & Sroufe, L. A. (1979). Continuity of individual adaptation from infancy to kindergarten: A predictive study of ego-resiliency and curiosity in preschoolers. *Child Development*, 50(4), 950–959

Aurora P. Jackson, Kathleen S. J. Preston & Crystal A. Thomas (2013) Single Mothers, Nonresident Fathers, and Preschoolers' Socioemotional Development: Social Support, Psychological Well-Being, and Parenting Quality, *Journal of Social Service Research*, 39:1, 129-140.

Bandura, A., Barbaranelli, C., Caprara, G. V., & Pastorelli, C. (1996). Multifaceted impact of self-efficacy beliefs on academic functioning. *Child Development*, 67(3), 1206–1222.

Baumrind, D. (1991). The Influence of Parenting Style on Adolescent Competence and Substance Use. *Journal Early Adolescence*, 11,56-95.

Besnard, T., & Letarte, M. J. (2017). Effect of male and female early childhood education teacher's educational practices on children's social adaptation. *Journal of Research in Childhood Education*, 31(3), 453-464.

Bi X, Yang Y, Li H, Wang M, Zhang W and Deater-Deckard K (2018) Parenting Styles and Parent-Adolescent Relationships: The Mediating Roles of Behavioral Autonomy and Parental Authority. *Front.*

Psychol. 9:2187.

Black, M. M. (2010). HIPPY Americorps Evaluation: Parental involvement in literacy activities and volunteer activities in the community in California, Florida and Hawaii (D). University of South Florida.

Blair, C., & Raver, C. C. (2015). School readiness and self-regulation: a developmental psychobiological approach. *Annual review of psychology*, 66, 711-731.

Bowen, M. (1966). The use of family theory in clinical practice. *Comprehensive psychiatry*, 7(5), 345-374.

Bowen, M. (1972). *Towards the differentiation of a self in one's own family*. Family interactions.

Bowlby, J. (1969). Disruption of affectional bonds and its effects on behavior. *Canada's mental health supplement*.

Braun, V., & Clarke, V. (2006). Using thematic analysis in psychology. *Qualitative Research in Psychology*, 3(2), 77-101.

Breiner, H., Ford, M., Gadsden, V. L., & National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine. (2016). *Parenting knowledge, attitudes, and practices*. In *Parenting matters: Supporting parents of children ages 0-8*. National Academies Press (US).

Brent, A., McBride, Thomas, R., Rane. (1998). Parenting Alliance as a Predictor of Father Involvement: An Exploratory Study. *Family Relations*, 47(03), 229-236.

Britto, P. R. (2012a). *School readiness: a conceptual framework*. New York: United Nations Children's Fund.

Britto, P. R. (2012b). *School readiness and transitions - a companion to the child friendly schools manual*. New York: UNICEF's Division of Communication.

Bronfenbrenner, Urie. (1979). *The ecology of human development: Experiments by nature and design*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

Brown, J. (1999). Bowen family systems theory and practice: Illustration and critique. *Australian and New Zealand Journal of Family Therapy*, 20(2), 94-103.

Chen, J. J. L. (2010). Gender differences in externalising problems among preschool children: implications for early childhood educators. *Early Child Development and Care*, 180(4), 463-474.

Chen, X., Liu, M., & Li, D. (2000). Parental warmth, control, and indulgence and their relations to adjustment in Chinese children: a longitudinal study. *Journal of family psychology*, 14(3), 401.

Creswell, J. W. (2009). Mapping the field of mixed methods research. *Journal of mixed methods research*, 3(2), 95-108.

Dearing, E., Kreider, H., Simpkins, S., & Weiss, H. B. (2006). Family involvement in school and low-income children's literacy: Longitudinal associations between and within families. *Journal of Educational Psychology*, 98(4), 653-664.

Dee, T. S. (2007). Teachers and the gender gaps in student achievement. *The journal of human resources*, XLII (3), 528-554.

Driscoll, K., & Pianta, R. C. (2011). Mothers' and Fathers' Perceptions of Conflict and Closeness in Parent-Child Relationships during Early Childhood. *Journal of Early Childhood & Infant Psychology*, (7).

- Du, F., He, L., Francis, M. R. et al. (2021). Associations between parent-child relationship and children's externalizing and internalizing symptoms and lifestyle behaviors in China during the COVID-19 epidemic. *Scientific Reports*, 11, 23375
- Edwards, E. & Alldred, P. (2000). A typology of parental involvement in education centring on children and young people: negotiating familialisation, institutionalisation and individualization. *British Journal of Sociology of Education*, 21(3), 435–455.
- Englund, M. M., Luckner, A. E., Whaley, G. J., & Egeland, B. (2004). Children's achievement in early elementary school: Longitudinal effects of parental involvement, expectations, and quality of assistance. *Journal of educational psychology*, 96(4), 723.
- Epstein, J. L. (1987). Toward a theory of family-school connections: Teacher practices and parent involvement. In K. Hurrelmann, F.-X. Kaufmann, & F. Lösel (Eds.), *Social intervention: Potential and constraints* (pp. 121–136). Walter De Gruyter.
- Epstein, J. L. (1995). School, family, community partnerships: Caring for the children we share. *Phi Delta Kappan*, 77(9), 701–712.
- Epstein, J. (1996). Perspectives and previews on research and policy for school, family, and community partnerships. In A. Booth & J. Dunn (Eds.), *Family-school links: How do they affect educational outcomes?* (pp. 209–246). Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Epstein, J. (2003). Creating school, family, and community partnerships. In A.C. Ornstein, L.S. Behar-Horenstein, & E.F. Pajak (Eds.), *Contemporary issues in curriculum*. (3rd ed.) (pp. 354–373). Boston, MA: Allyn and Bacon.
- Epstein, J.L. (2009). In *School, family, and community partnerships: Your handbook for action* (3rd ed.). USA: Corwin Press.
- Epstein, J. L., Sanders, M. G., Simon, B. S., Salinas, K. C., Jansorn, N. R., & Van Voorhis, F. L. (2002). *School, family, and community partnerships: Your handbook for action*. (2nd ed.). Thousand Oaks, CA: Corwin.
- Epstein, J. L., Sanders, M. G., Sheldon, S. B., Simon, B. S., Salinas, K. C., Jansorn, N. R., ... & Williams, K. J. (2018). *School, family, and community partnerships: Your handbook for action*. Corwin Press.
- Erel, O., & Kissil, K. (2003). The Linkage Between Multiple Perspectives of the Marital Relationship and Preschoolers' Adjustment. *Journal of Child & Family Studies*, 12(4).
- Feinberg, M. (2003). The internal structure and ecological context of coparenting: a framework for research and intervention. *Parenting: science and practice*, 3(2), 95-131.
- Fielding, L. (2009). *Extraordinary parents*. Kennewick, WA: New Foundation Press.
- Garcia, A. S., Ren, L. X., Eateraich, J. M., et al. (2017). Influence of child behavioral problems and parenting stress on parent-child conflict among low-income families: The moderating role of maternal nativity. *Merrill-palmer quarterly-journal of developmental psychology*, 63(3): 311-339.
- Gardner, H. (1983). *Frames of Mind: A Theory of Multiple Intelligences*. New York: Basic Books.
- Goleman, D. (1995). *Emotional Intelligence*. Bantam Books.
- Goodall, J., & Montgomery, C. (2014). Parental involvement to parental engagement: A continuum. *Educational review*, 66(4), 399-410. DOI: 10.1080/00131911.2013.781576

- Grych, J. H., & Fincham, F. D. (1990). Marital conflict and children's adjustment: a cognitive-contextual framework. *Psychological bulletin*, 108(2), 267.
- Gruijters,RJ.(2017). Family care-giving and living arrangements of functionally impaired elders in rural China.*Ageing & Society* ,37 (3), 633-655.
- Henderson, A. T., &Mapp, K. L.(2002). *A new wave of evidence*. Austin, TX: Southwest Educational Development Laboratory.
- Hilado, A. V., Kallemeyn, L., & Phillips, L. (2013). Examining Understandings of Parent Involvement in Early Childhood Programs. *Early Childhood Research & Practice*, 15(2), 2.
- Ho, D. Y. F. (1994). Filial piety, authoritarian moralism and cognitive conservatism in Chinese societies.
- Honig, A. S. (1979). *Parent involvement in early childhood education*. Washington, DC: National Association for the Education of Young Children.
- Johnson, R. B., & Onwuegbuzie, A. J. (2004). Mixed methods research: A research paradigm whose time has come. *Educational researcher*, 33(7), 14-26.
- Jordan, C., Orozco, E., & Averett, A. (2002). *Emerging Issues in School, Family, & Community Connections*. Annual Synthesis 2001.
- Jun,Chen.,Genjian,Zhang.,Atsushi,Nanakida.(2021).A Study of Parental Involvement in Chinese Pre-school Children During COVID-19 Pandemic.*Journal of Positive Psychology & Wellbeing*, 5(4),pp.2191-2208
- Kohlberg, L., Ricks, D., & Snarey, J. (1984). Childhood development as a predictor of adaptation in adulthood. *Genetic Psychology Monographs*,110(1),91–172.
- Kong, C., & Yasmin, F. (2022). Impact of parenting style on early childhood learning: mediating role of parental self-efficacy. *Frontiers in Psychology*, 13,928629.
- Kotrlik, J. W. K. J. W., & Higgins, C. C. H. C. C. (2001). Organizational research: Determining appropriate sample size in survey research appropriate sample size in survey research. *Information technology, learning, and performance journal*, 19(1), 43.
- Ladd, Gary W., & Price, Joseph M. (1987). Predicting children's social and school adjustment following the transition from preschool to kindergarten. *Child Development*, 58(5), 11681189.
- Lau,E.Y.H.,Li,H.,Rao.N.(2012).Exploring parental involvement in early years education in China: development and validation of the Chinese Early Parental Involvement Scale (CEPIS). *International Journal of Early Years Education*.20(4),405-421
- Laursen, B., & Collins, W. A. (2009). Parent-child relationships during adolescence. *Handbook of adolescent psychology*, 2, 1-42.
- Lincoln, Y. S., & Guba, E. G. (1985). *Naturalistic inquiry*. sage.
- Maccari, S., Krugers, H. J., Morley - Fletcher, S., Szyf, M., & Brunton, P. J. (2014). The consequences of early - life adversity: neurobiological, behavioural and epigenetic adaptations. *Journal of neuroendocrinology*, 26(10), 707-723.
- Machin,S.,Pekkarinen,T.Global sex differences in test score variability[J]. *Science*, 322 (5906) , 1331–1332.

- Manigo, C., & Allison, R. (2017). Does Pre-School Education Matter? Understanding the Lived Experiences of Parents and Their Perceptions of Preschool Education. *Teacher Educators' Journal*, 10, 5-42.
- Mahn, H. (2003). Periods in child development: Vygotsky's perspective. *Vygotsky's educational theory in cultural context*, 119-137.
- Matthews K. A., Gallo L. C. (2011). Psychological perspectives on pathways linking socioeconomic status and physical health. *Annu. Rev. Psychol.* 62, 501–530.
- McFarland, J., Hussar, B., Wang, X., Zhang, J., Wang, K., Rathbun, A., ... & Mann, F. B. (2018). *The Condition of Education 2018. NCES 2018-144*. National Center for Education Statistics.
- Moore, C., Dunham, P. J., Dunham, P. (Eds.). (2014). *Joint attention: Its origins and role in development*. Psychology Press.
- NAEYC. (2016). *Understanding the power of parent involvement*.
- Ni, S., Lu, S., Lu, K., & Tan, H. (2021). The effects of parental involvement in parent-child reading for migrant and urban families: A comparative mixed-methods study. *Children and Youth Services Review*, 123, 105941.
- O'Buachain, C. (2021). *Knowledge Transfer: An Exploration of How Early Childhood Care Educators Transfer Knowledge into Practice in a Disadvantaged Setting* (Doctoral dissertation, Dublin, National College of Ireland).
- Olayinka, Samson Alade, & Adekunle Vitor Owoyomi (2018). Parental Roles: Implication for Sustainable Early Childhood Care and Education (ECCE) Development in Kosofe 25 Local Government Area of Lagos State, Nigeria. *International Journal of Social Sciences & Educational Studies*, 4(4), 91-99. DOI:10.23918/ijsses.v4i4p91 *Psychology*. 2006; 98(4):653–664.
- Pianta, R.C. (1992). *Child-parent relationship scale*. University of Virginia.
- Piaget, J. (2003). Part I: Cognitive Development in Children--Piaget Development and Learning. *Journal of research in science teaching*, 40, 8-18
- Pierre, Bourdieu., Jean-Claude, Passeron., Review by: Tricia, Broadfoot. (1978). *Reproduction in Education, Society and Culture*. *Comparative Education*, 14, 1, 75-82.
- Podsakoff, P. M., MacKenzie, S. B., Lee, J.-Y., & Podsakoff, N. P. (2003). Common method biases in behavioral research: A critical review of the literature and recommended remedies. *Journal of Applied Psychology*, 88(5), 879–903.
- Poole, C., Miller, S. A., & Church, E. B. (2004). Development: Ages & Stages--How Children Learn to Problem-Solve. *Early Childhood Today*, 19(2), 29-34.
- Popov, L. M., & Ilesanmi, R. A. (2015). Parent-child relationship: Peculiarities and outcome. *Rev. Eur. Stud.*, 7, 253.
- Reker, G. T., & Wong, P. T. (2013). Personal meaning in life and psychosocial adaptation in the later years. In *The human quest for meaning* (pp. 479-502). Routledge.
- Ren, L., & Edwards, C. P. (2017). Chinese parents' expectations and child preacademic skills: The indirect role of parenting and social competence. *Early Education and Development*, 28(8), 1052-1071.

- Shaffer, D. W. (2017). *Quantitative ethnography*. Lulu. com.
- Sheldon, S. B. (2009). In *School, family, and community partnerships: Your handbook for action*. Corwin Press.
- Soloski, K. L., & Berryhill, M. B. (2016). Gender differences: Emotional distress as an indirect effect between family cohesion and adolescent alcohol use. *Journal of Child and Family Studies*, 25, 1269-1283.
- Strom, R. D., Strom, S. K., Xie, Q. (1996). Parent Expectations in China. *International Journal of Sociology of the Family*, 26(1), 37-49
- Wang, I. Y., & Cheung, R. Y. (2023). Parents' gender role attitudes and child adjustment: the mediating role of parental involvement. *Sex Roles*, 1-17.
- Xie, S., Li, H. (2019). Development and validation of the Chinese preschool readiness scale. *Early Education and Development*, 30(4), 522-539.
- Yin, H., Qian, S., Huang, F., Zeng, H., Zhang, C. J. P., & Ming, W. K. (2021). Parent-Child Attachment and Social Adaptation Behavior in Chinese College Students: The Mediating Role of School Bonding. *Frontiers in psychology*, 12, 711669.
- Zhao, X. (2017). Transition from kindergarten to elementary school: Shanghai's experience and inspiration. *Creative Education*, 8(3), 431-446.
- Zhou C. Y., Wan L. J., Song J. J., Huang H., Li L., Liu C. L. (2018). Family socioeconomic status and children's self-esteem: mediating of parental involvement. *Chin. J. Clin. Psychol.* 26, 1186-1190.

日本語文献

- 大豆生田啓友 (2016) 「家庭との連携と保育」『保育学講座 5 保育を支えるネットワーク—支援と連携』東京大学出版
- 七木田敦・林よし恵・松本信吾・久原有貴・日切慶子・藤橋智子・正田るり子・菅田直江・田中恵子・落合さゆり・真鍋健・金子嘉秀 (2010) 「発達に課題のある幼児の幼稚園適応に関する実践的研究—適応過程とその関連要因の検討を中心に—」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』、39、pp. 45-50
- 日浦直美 (2016) 「多文化共生と保育」『保育学講座 5 保育を支えるネットワーク—支援と連携』東京大学出版
- OECD 編著 (2006) 『Starting strong II: Early childhood education and care』、星三和子・首藤美香子・大和洋子・一見真理子訳 (2011) 『OECD 保育白書—人生の始まりこそ力強く: 乳幼児期の教育とケア (ECEC) の国際比較』明石書店
- 松浦真理 (2023) 「保育機関と家庭とのより良い関係構築にむけて (1): 保護者とはどのような存在か」『帝塚山大学子育て支援センター紀要』、4、pp. 17-25

付録 1

アンケート調査の内容

关于学龄前儿童父母干预和亲子关系与幼儿在园适应的调查问卷

尊敬的家长朋友：

您好！

首先非常感谢您抽出宝贵的时间参与我们课题组的有关儿童发展与教育的调查，您接下来在我们这个问卷上所花费的些许精力与时间或许在未来能够为我们的孩子以及学前教育事业做出重要的贡献。

本调查过程全部匿名，充分尊重您个人及孩子的隐私，所有数据仅用作教育研究，请您放心作答。如有任何疑问，请联系：陈老师，电话：13853276886

现在请您进入我们的调查环节，所有问卷不会被进行单个研究，问卷回收时会由幼儿园进行匿名化处理，所以我们也看不到任何具体个人信息，因此请您不必担心它们会影响到自己或者孩子，我们只是想要获得最真实的数据，感谢您的信任和帮助。

本问卷总计生字约 2000 字，预计阅读时间为 10-15 分钟。如果您的家庭中目前拥有 2 位或以上 3-6 岁的孩子，请选择其中一位孩子作为参考。请您稍放慢步履，帮助我们完成这次调查吧，再次感谢！

第一部分：基础信息

1. 您孩子的姓名：

2. 您是孩子的

1. 父亲 2. 母亲

3. 您的孩子性别是

1. 男性 2. 女性

4. 您的孩子的年龄是

1. 3-4 岁 2. 4-5 岁 3. 5-6 岁

5. 您孩子的幼儿园是

1. 私立 2. 公立

6. 您的家庭中总共有几个孩子

1. 1 个 2. 2-3 个 3. 大于 4 个

7. 您的家庭处于

1. 城市 2. 乡村

8. 您的职业是

1. 国家机关、党群组织、国有企业、事业单位 2. 私营企业

9. 您的受教育程度是

1. 专科、本科及以上教育 2. 专科以下教育

10. 您的家庭一年所有收入的总和是

1. 0-10万 2. 10-30万 3. 30万以上

11. 您的家庭成员居住形式是

1. 核心家庭（夫妻及子女） 2. 非核心家庭（单亲、祖孙同堂）

第二部分：父母干预和亲子关系问卷

以下是关于您在养育孩子(以本学年为准)过程中的具体行为，请仔细阅读下列每一项指标，选出以表示您认为该指标能正确地反映您在本学年中的行为表现。评分标准由1至5。

(1 = 完全不符合 2 = 不符合 3 = 中立/一般 4 = 符合 5 = 十分符合)

1. 我每天了解孩子在幼儿园学了什么

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

2. 我每天指导孩子完成老师布置的学习任务

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

3. 我常在家给孩子朗读故事

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

4. 我常让孩子读故事给我听

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

5. 我常在家指导孩子自行穿脱衣服

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

6. 我常协助孩子完成老师派发的手工美劳等作业

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

7. 我常与孩子谈及现在就读的幼儿园

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

8. 我常出席家长会

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

9. 我常教导孩子要与别人分享

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

10. 我常参加幼儿园组织的家校或亲子活动（例如：家长开放日）

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

11. 我常参与讨论、决定或推行在幼儿园或者小学行政决策

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

12. 常与孩子讨论幼儿园的课堂规则和纪律要求

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

13. 我常与孩子讨论幼儿园和小学的不同之处

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

14. 我常在家引导孩子保持个人卫生

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

15. 我常在家引导孩子自行收拾物件

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

16. 我常在孩子就读的幼儿园当家长志愿者（例如：护导、协助准备教材教具、环创或举办亲子活动）

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

17. 我常教导孩子如何正确解决与同伴之间的问题

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

18. 我常给孩子渗透课外知识

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

19. 我常给孩子讲解日常知识（例如：安全及健康知识）

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

20. 我常教导孩子不可乱发脾气

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

21. 我常在家引导孩子自行进食

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

22. 我常与孩子玩棋、牌等益智游戏

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

23. 我常与孩子分享自己或他人在幼儿园时期的故事

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

24. 我常与孩子讨论有关他的老师的事情

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

25. 我常以书面方式与老师沟通（例如：短信、微信、QQ留言或者邮件）

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

26. 我常致电与老师沟通

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

以下是关于您和孩子的关系情况，请仔细阅读下列每一项指标，选出您认为最能准确反映您和孩子的关系。评分标准由 1 到 5。

（1 = 完全不符合，2 = 不符合，3 = 中立，不确定 4 = 符合，5 = 十分符合）

1. 我与我的孩子之间有一种亲切而温暖的关系

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

2. 我和我的孩子似乎总是在互相纠缠

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

3. 如果不高兴，我的孩子会向我寻求安慰

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

4. 我的孩子对来自我的身体爱抚或触摸感到不舒服

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

5. 我的孩子重视他 / 她与我的关系

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

6. 当我表扬我的孩子时，他 / 她会自豪地微笑

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

7. 我的孩子自发地分享关于他 / 她自己的信息

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

8. 我的孩子很容易对我生气

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

9. 我的孩子很容易与我的感受相契合

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

10. 我的孩子在被管教后仍然生气或抗拒

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

11. 和孩子打交道会耗尽我的精力

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

12. 当我的孩子心情不好时，我知道我们将经历漫长而艰难的一天

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

13. 我的孩子对我的感情可能是不可预测的，或者会突然改变

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

14. 我的孩子对我鬼鬼祟祟，或者指使(摆布)我

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

15. 我的孩子大方公开地与我分享他 / 她的感受和经验

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

以上内容由家长填写，以下内容请您务必交由班级教师填写，感谢您的配合！

第三部分（教师填写）：幼儿在园适应问卷

以下是关于您班级中的孩子在幼儿园的整体表现情况，请仔细阅读下列每一项指标，选出您认为最能准确反映相应孩子表现的一项，评分标准由1到5。

(1 = 完全不符合 2 = 不符合 3 = 中立/不确定 4 = 符合 5 = 十分符合)

1. 早上入园时表现出哭闹或持续闷闷不乐，不愿与家人分开

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

2. 吃饭时持续哭泣或抗拒进餐

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

3. 午睡时哭泣要回家或要找妈妈 / 家人或者闷闷不乐

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

4. 大部分时间在哭泣或情绪低落

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

5. 依恋老师，经常粘着老师

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

6. 午睡时间不愿进入睡房或上床

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

7. 能够辨别基本的颜色，如黄色、蓝色、绿色等

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

8. 辨别基本的形状和数字

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

9. 会说普通话

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

10. 能够听懂普通话

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

11. 发音清晰

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

12. 自信，相信“我可以的”

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

13. 表现出同伴交往的意愿

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

14. 能够主动发起与同伴的友好互动

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

15. 积极主动向老师表达意愿

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

16. 集体活动中大部分时间注意力集

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

17. 遇到困难愿意想办法解决

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

18. 集体活动中积极回应老师

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

19. 即使遇到困难也能坚持完成任务

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

20. 不争抢、独霸玩具

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

21. 外出排队、在幼儿园排队等能自觉站好

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

22. 玩完玩具后，能主动把玩具归位

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

23. 不需要老师反复提醒情况下能够遵守集体活动的规

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

24. 吃完饭后，能够记得把餐具放到指定的地方

1. 完全不符合 2. 不符合 3. 中立/一般 4. 符合 5. 十分符合

付録2

インタビュー調査の主要内容

親を対象とする質問

1. 在什么情况下，您觉得家长有必要干预孩子的行为或决策？
2. 当您干预孩子行为时，您的最主要动机或原因是什么？（可自由回答，可选择等）
 - a. 促进亲子关系
 - b. 给孩子提供支持和指导
 - c. 帮孩子解决问题和挑战
 - d. 帮助孩子适应新环境
3. 什么情况下，您更想要对孩子进行干预？请举例说明。
4. 如果孩子对您的干预表现出积极的回应和态度，会不会让您增加干预的意愿或者频率？
5. 您是否会根据孩子的年龄、性格或兴趣调整您的干预策略？能否讲一下您的判断标准？
7. 您觉得是什么因素导致了孩子对特定干预行为的喜欢或接受？
8. 孩子对您的干预是否积极，您能看得出来吗？
9. 孩子在什么时候更喜欢您的干预，或者说在什么时候不喜欢您的干预？请提供一些例子。
10. 您认为这些干预行为与亲子关系有何关联？
11. 您认为父母的干预能够帮助孩子更适应幼儿园生活和学习吗？
12. 您认为亲子关系能够帮助孩子更适应幼儿园生活和学习吗？
13. 您认为父母干预和亲子关系，那个更有利于孩子适应幼儿园生活？
14. 您在干预过程中是否给予孩子一定的决策权或参与感？为什么？
15. 当孩子表现出主动参与某项决定时，你会怎么做？听从你的还是尊重孩子的？依据是什么？
16. 您觉得您的干预过度吗？不足吗？
17. 您认为过度干预对孩子的成长有好处吗？为什么？

幼児を対象とする質問

1. 刚开始来幼儿园时，爸爸妈妈是否陪你一起？
2. 爸爸妈妈的陪伴是否让你更容易适应幼儿园生活？
3. 爸爸妈妈陪着你，是不是来幼儿园就不会哭？
4. 在家里，你喜欢和爸爸妈妈一起做什么？
5. 你觉得和爸爸妈妈在一起的时间是否让你觉得开心？
6. 你认为爸爸妈妈在什么时候会帮助你做一些事情？
7. 是你主动请求帮助的时候多？还是他们直接帮你做的时候多？

8. 你喜欢他们帮助你吗？为什么？
9. 你最喜欢爸爸妈妈做的事情是什么？
10. 有没有爸爸妈妈经常做的事情，反而让你感觉不好？或者不喜欢？
11. 当你遇到困难或不开心的时候，爸爸妈妈会怎么做？
12. 你觉得爸爸妈妈的支持对你的心情有影响吗？怎样的影响？
13. 在一些事情上，你喜欢自己做决定，还是喜欢听爸爸妈妈的建议？
14. 爸爸妈妈会让你自己做决定吗？还是总是让你按照他们说的做？
15. 幼儿园老师是否会带领您参加一些有趣的活动？你最喜欢什么活动？
16. 你觉得这些活动有帮助您更喜欢幼儿园吗？
18. 你刚来幼儿园哭的时候，爸爸妈妈安慰你吗？安慰了你感觉好点吗？他们都是怎么安慰你的？
19. 你在幼儿园交了一些朋友吗？你喜欢跟他们玩吗？为什么？
20. 你觉得有朋友在幼儿园陪伴，你会让您觉得更愿意去幼儿园吗？